

科目名	社会科教育法	開講年度	2020年度春学期、2020年度秋学期					
担当者	河原 和之	配当年次	234					
科目ナンバリング	教職課程 TTT0001	単位数	4単位					
		授業形態(方法)	講義					
グレード	—							
科目区分	教職課程科目							
テーマ	社会科授業のための学習指導理論と方法と実践							
授業の目的及び概要	社会科の意義や育成すべき資質能力、学習指導要領における社会科の目標を理解し、さらには学問的背景と関連させた教科内容の理解を進めることで、教員になるための資質を涵養するための授業を行う。講義では、社会科の意義、学習指導要領における社会科の目標、学習内容について学び、実際の社会科指導や授業を想定した授業計画、学習指導案の作成を行う。さらに、これらを踏まえて模擬授業を行い、その振り返りから学びつつ、学習内容をより発展させる方向性も考える。							
履修の条件・注意	教職課程履修登録書提出者							
DPとの関連	本科目は、以下の学位授与の方針(DP)と関連した科目です。 経済学部経済学科DP2. 情報活用能力、数的処理能力、日本語及び外国語能力、コミュニケーション能力とともに幅広い教養及び国際感覚を身につけている。 法学部法律学科DP4. 論理的な思考力と豊かな表現力とともに幅広い教養および実践感覚を身につけている。							
学修の到達目標	1、学習指導要領における社会科の目標、内容ならびに社会科の指導や授業に関する基本的事項と理論を理解する。 2、社会科の学習指導理論を理解するとともに、実際の社会科の指導や授業を想定した計画・立案など授業設計の方法に関わる基本的事項に習熟する。 3、社会科の授業の実践について、模擬授業とその振り返りによって学ぶ。							
授業の方法	この科目は対面授業で行われます。なお、今後の新型コロナウイルスの感染状況等により授業方法が途中で変更となる場合があります。							
フィードバックの方法	さまざまな報告やプレゼン、模擬授業そしてレポートに対する教授する側からと、学生相互の対話によるコメントをおこなう。							
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議／プレゼンテーション、発表、報告							
実務経験のある教員による授業科目	担当者は過去32年間にわたり府立高校で教職の経験を持っています。五つの学校で普通科と工業科の課程をほぼ半分ずつ経験しましたので、その経験を十分に生かした授業を行いたいと思います。							
テキスト・参考書	テキスト 『中学校学習指導要領』(平成29年3月告示 文部科学省) 参考書・参考資料等 『中学校学習指導要領解説 社会編』、『高等学校学習指導要領』 『高等学校学習指導要領解説 公民編』、『高等学校学習指導要領解説 地理歴史編』							
成績評価の方法・基準	積極的な参加度・取組み(%)	50	小テスト・理解度テストなど(%)	20	レポートなど授業外課題(%)	0	中間試験(%)	0
	レポート試験(%)	0	定期試験(%)	0	その他(%)	学習指導案		30
この科目の履修にあたって	教員になるということの大変さを肌で実感し理解してもらえれば万全です。							
オフィスアワー	各教員のオフィスアワー受付曜日・時間・場所については、本学Webサイトの「オフィスアワー」ページに掲載しています。 <アクセス方法> 大学Webサイトの[トップページ]→[キャンパスライフ]→[教務情報]→[オフィスアワー] <URL> http://www.keiho-u.ac.jp/campuslife/affairs/officehour.html 授業の内容や学習上の問題などについて質問や相談を行いたい場合は、実施曜日・時限を確認のうえ実施場所を訪れてください。 ※なお、非専任講師については、担当授業前、終了後の教室や講師控室等での質問、相談を受け付けています。							

授業回	授業計画	事前事後学修(予習・復習等)
第1回	社会科を学ぶ社会的・教育的意義	学生が社会科の教職への途を選んだ理由について討論を行い、討論の経過・内容・結論などの点を事後学修としてまとめ(1時間程度)、次回講義で提出します。
第2回	学校教育における社会科、教育課程における社会科	社会科とその他の教科との関連性、学校教育における社会科の位置付けについて、授業内で使用した学習指導要領の記述を参照してまとめるようにします(2時間程度)。
第3回	学習指導要領における社会科の学習指導	講義で学生とともに学習指導要領の記事事項を分析・整理し、それらを再度自分なりにまとめるようにします。かなりの時間を要しますが、教職の途には欠かせない作業です(3時間程度)。
第4回	学習指導要領と社会科各分野の学習指導	学習指導要領の検討を経て授業内で把握した諸事項を改めて文書化する作業です(2時間程度)。
第5回	社会科の学習指導理論と授業	模擬授業の年間計画と進め方の詳細を発表し、学生が個々に単元テーマを選択し、そのテーマを選んだ意図や考え方を文書化する作業を行います(2時間程度)。
第6回	社会科授業の構想と計画・立案	資料として示した学校の年間計画のひな型により、どの単元がどこに配置されるのかを把握し、この事例を参照して自分なりのプランを作成します(2時間程度)。
第7回	社会科授業の計画・立案と学習指導案と評価基準	配布した幾つかの学習指導案を参照した上で、自分用の指導案を作成します(2週間程度の時間が必要になります)。

第8回	学習指導案と教材研究	自分が行う模擬授業の教材を集め、授業の基本構想に沿った講義ノートを作成します(2時間程度)。
第9回	教材研究の方法	講義時に示した幾つかの事例を基礎として、教科書以外の教材にはどのようなものがあるのかを調べてみます(2時間程度)。
第10回	授業計画と授業方法・教材(情報機器及び教材の活用を含む)	授業で見た教育実習の映像について、感想と批評をまとめます(2時間程度)。
第11回	授業の方法(情報機器及び教材の活用を含む)	これから実践する模擬授業についての方法論、主要な論点などを自分なりに整理する作業をおこないます(2時間程度)。
第12回	授業の方法と実際と評価	模擬授業を参加者全員で評価するシステムにより、授業を行う際の注意点を自分なりに検討しまとめておきます(2時間程度)。
第13回	授業の実践例(地理的分野)① 地理的分野を学ぶ意義	地理の模擬授業を行った学生に感想と反省の文を書いてもらいます(2時間程度)。その後、学習指導案を作成します(2週間程度)。
第14回	授業の実践例(地理的分野)② 世界と日本の地域構成	地理の模擬授業を行った学生に感想と反省の文を書いてもらいます(2時間程度)。その後、学習指導案を作成します(2週間程度)。
第15回	授業の実践例(地理的分野)③ 世界の諸地域と生活と環境	地理の模擬授業を行った学生に感想と反省の文を書いてもらいます(2時間程度)。その後、学習指導案を作成します(2週間程度)。
第16回	授業の実践例(地理的分野)④ 日本の諸地域と地域調査の方法	地理の模擬授業を行った学生に感想と反省の文を書いてもらいます(2時間程度)。その後、学習指導案を作成します(2週間程度)。
第17回	授業の実践例(地理的分野)⑤ 「地理」授業の小括	地理の授業を行った学生に感想と反省の文を書いてもらいます(2時間程度)。その後、学習指導案を作成します(2週間程度)。
第18回	授業の実践例(歴史的分野)① 歴史的分野を学ぶ意義	歴史の模擬授業を行った学生に感想と反省の文を書いてもらいます(2時間程度)。その後、学習指導案を作成します(2週間程度)。
第19回	授業の実践例(歴史的分野)② 歴史の見方、捉え方、時代区分	歴史の模擬授業を行った学生の感想と反省の文を書いてもらいます(2時間程度)。その後、学習指導案を作成します(2週間程度)。
第20回	授業の実践例(歴史的分野)③ 近世までの日本とアジア	歴史の模擬授業を行った学生に感想と反省の文を書いてもらいます(2時間程度)。その後、学習指導案を作成します(2週間程度)。
第21回	授業の実践例(歴史的分野)④ 近現代の日本と世界	歴史の模擬授業を行った学生に感想と反省の文を書いてもらいます(2時間程度)。その後、学習指導案を作成します(2週間程度)。
第22回	授業の実践例(歴史的分野)⑤ 「歴史」授業の小括	歴史の模擬授業を行った学生に感想と反省の文を書いてもらいます(1時間程度)。その後、学習指導案を作成します(2週間程度)。
第23回	授業の実践例(公民的分野)① 現代社会と文化の諸特徴	公民の模擬授業を行った学生に感想と反省の文を書いてもらいます(1時間程度)。その後、学習指導案を作成します(2週間程度)。
第24回	授業の実践例(公民的分野)② 市場と経済及び国民生活と政府の役割	公民の模擬授業を行った学生に感想と反省の文を書いてもらいます(2時間程度)。その後、学習指導案を作成します(2週間程度)。
第25回	授業の実践例(公民的分野)③ 人権尊重と憲法及び民主政治と政治参加	公民の模擬授業を行った学生に感想と反省の文を書いてもらいます(2時間程度)。その後、学習指導案を作成します(2週間程度)。
第26回	授業の実践例(公民的分野)④ 世界平和と人類の福祉及び国際社会の課題	公民の模擬授業を行った学生に感想と反省の文を書いてもらいます(2時間程度)。その後、学習指導案を作成します(2週間程度)。
第27回	授業の実践例(公民的分野)⑤ 「公民」授業の小括	公民の模擬授業を行った学生に感想と反省の文を書いてもらいます(2時間程度)。その後、学習指導案を作成します(2週間程度)。
第28回	社会科における発展的な学習内容	担当者が模範となる授業を行い、教科指導の進め方、教材の有効な使用方法、各分野にまたがる基礎的な教養の発現などを示し、学生が自らの意見、感想、批評などをまとめるようにします(2時間程度)。
第29回	発展的な学習内容とその指導	学生がこの一年間に受講した総括を文章化しまとめます(2時間程度)。
第30回	社会科授業のための総括 実践研究の動向と授業設計の向上	前回の課題を持ち寄り、全員で討議し、一年間の振り返りを行います。学生はこの授業を受けて自分自身の何が変わったかをまとめるようにします(2時間程度)。

科目名	社会科教育法	開講年度	2020年度春学期、2020年度秋学期					
担当者	河原 和之	配当年次	234					
科目ナンバリング	教職課程 TTT0001	単位数	4単位					
		授業形態(方法)	講義					
グレード	—							
科目区分	教職課程科目							
テーマ	社会科授業のための学習指導理論と方法と実践							
授業の目的及び概要	社会科の意義や育成すべき資質能力、学習指導要領における社会科の目標を理解し、さらには学問的背景と関連させた教科内容の理解を進めることで、教員になるための資質を涵養するための授業を行う。講義では、社会科の意義、学習指導要領における社会科の目標、学習内容について学び、実際の社会科指導や授業を想定した授業計画、学習指導案の作成を行う。さらに、これらを踏まえて模擬授業を行い、その振り返りから学びつつ、学習内容をより発展させる方向性も考える。							
履修の条件・注意	教職課程履修登録書提出者							
DPとの関連	本科目は、以下の学位授与の方針(DP)と関連した科目です。 経済学部経済学科DP2. 情報活用能力、数的処理能力、日本語及び外国語能力、コミュニケーション能力とともに幅広い教養及び国際感覚を身につけている。 法学部法律学科DP4. 論理的な思考力と豊かな表現力とともに幅広い教養および実践感覚を身につけている。							
学修の到達目標	1、学習指導要領における社会科の目標、内容ならびに社会科の指導や授業に関する基本的事項と理論を理解する。 2、社会科の学習指導理論を理解するとともに、実際の社会科の指導や授業を想定した計画・立案など授業設計の方法に関わる基本的事項に習熟する。 3、社会科の授業の実践について、模擬授業とその振り返りによって学ぶ。							
授業の方法	この科目は対面授業で行われます。なお、今後の新型コロナウイルスの感染状況等により授業方法が途中で変更となる場合があります。							
フィードバックの方法	さまざまな報告やプレゼン、模擬授業そしてレポートに対する教授する側からと、学生相互の対話によるコメントをおこなう。							
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議／プレゼンテーション、発表、報告							
実務経験のある教員による授業科目	担当者は過去32年間にわたり府立高校で教職の経験を持っています。五つの学校で普通科と工業科の課程をほぼ半分ずつ経験しましたので、その経験を十分に生かした授業を行いたいと思います。							
テキスト・参考書	テキスト 『中学校学習指導要領』(平成29年3月告示 文部科学省) 参考書・参考資料等 『中学校学習指導要領解説 社会編』、『高等学校学習指導要領』 『高等学校学習指導要領解説 公民編』、『高等学校学習指導要領解説 地理歴史編』							
成績評価の方法・基準	積極的な参加度・取組み(%)	50	小テスト・理解度テストなど(%)	20	レポートなど授業外課題(%)	0	中間試験(%)	0
	レポート試験(%)	0	定期試験(%)	0	その他(%)	学習指導案		30
この科目の履修にあたって	教員になるということの大変さを肌で実感理解してもらえれば万全です。							
オフィスアワー	各教員のオフィスアワー受付曜日・時間・場所については、本学Webサイトの「オフィスアワー」ページに掲載しています。 <アクセス方法> 大学Webサイトの[トップページ]→[キャンパスライフ]→[教務情報]→[オフィスアワー] <URL> http://www.keiho-u.ac.jp/campuslife/affairs/officehour.html 授業の内容や学習上の問題などについて質問や相談を行いたい場合は、実施曜日・時限を確認のうえ実施場所を訪れてください。 ※なお、非専任講師については、担当授業前、終了後の教室や講師控室等での質問、相談を受け付けています。							

授業回	授業計画	事前事後学修(予習・復習等)
第1回	社会科を学ぶ社会的・教育的意義	学生が社会科の教職への途を選んだ理由について討論を行い、討論の経過・内容・結論などの点を事後学修としてまとめ(1時間程度)、次回講義で提出します。
第2回	学校教育における社会科、教育課程における社会科	社会科とその他の教科との関連性、学校教育における社会科の位置付けについて、授業内で使用した学習指導要領の記述を参照してまとめるようにします(2時間程度)。
第3回	学習指導要領における社会科の学習指導	講義で学生とともに学習指導要領の記事事項を分析・整理し、それらを再度自分なりにまとめるようにします。かなりの時間を要しますが、教職の途には欠かせない作業です(3時間程度)。
第4回	学習指導要領と社会科各分野の学習指導	学習指導要領の検討を経て授業内で把握した諸事項を改めて文書化する作業です(2時間程度)。
第5回	社会科の学習指導理論と授業	模擬授業の年間計画と進め方の詳細を発表し、学生が個々に単元テーマを選択し、そのテーマを選んだ意図や考え方を文書化する作業を行います(2時間程度)。
第6回	社会科授業の構想と計画・立案	資料として示した学校の年間計画のひな型により、どの単元がどこに配置されるのかを把握し、この事例を参照して自分なりのプランを作成します(2時間程度)。
第7回	社会科授業の計画・立案と学習指導案と評価基準	配布した幾つかの学習指導案を参照した上で、自分用の指導案を作成します(2週間程度の時間が必要になります)。

第8回	学習指導案と教材研究	自分が行う模擬授業の教材を集め、授業の基本構想に沿った講義ノートを作成します(2時間程度)。
第9回	教材研究の方法	講義時に示した幾つかの事例を基礎として、教科書以外の教材にはどのようなものがあるのかを調べてみます(2時間程度)。
第10回	授業計画と授業方法・教材(情報機器及び教材の活用を含む)	授業で見た教育実習の映像について、感想と批評をまとめます(2時間程度)。
第11回	授業の方法(情報機器及び教材の活用を含む)	これから実践する模擬授業についての方法論、主要な論点などを自分なりに整理する作業をおこないます(2時間程度)。
第12回	授業の方法と実際と評価	模擬授業を参加者全員で評価するシステムにより、授業を行う際の注意点を自分なりに検討しまとめておきます(2時間程度)。
第13回	授業の実践例(地理的分野)① 地理的分野を学ぶ意義	地理の模擬授業を行った学生に感想と反省の文を書いてもらいます(2時間程度)。その後、学習指導案を作成します(2週間程度)。
第14回	授業の実践例(地理的分野)② 世界と日本の地域構成	地理の模擬授業を行った学生に感想と反省の文を書いてもらいます(2時間程度)。その後、学習指導案を作成します(2週間程度)。
第15回	授業の実践例(地理的分野)③ 世界の諸地域と生活と環境	地理の模擬授業を行った学生に感想と反省の文を書いてもらいます(2時間程度)。その後、学習指導案を作成します(2週間程度)。
第16回	授業の実践例(地理的分野)④ 日本の諸地域と地域調査の方法	地理の模擬授業を行った学生に感想と反省の文を書いてもらいます(2時間程度)。その後、学習指導案を作成します(2週間程度)。
第17回	授業の実践例(地理的分野)⑤ 「地理」授業の小括	地理の授業を行った学生に感想と反省の文を書いてもらいます(2時間程度)。その後、学習指導案を作成します(2週間程度)。
第18回	授業の実践例(歴史的分野)① 歴史的分野を学ぶ意義	歴史の模擬授業を行った学生に感想と反省の文を書いてもらいます(2時間程度)。その後、学習指導案を作成します(2週間程度)。
第19回	授業の実践例(歴史的分野)② 歴史の見方、捉え方、時代区分	歴史の模擬授業を行った学生の感想と反省の文を書いてもらいます(2時間程度)。その後、学習指導案を作成します(2週間程度)。
第20回	授業の実践例(歴史的分野)③ 近世までの日本とアジア	歴史の模擬授業を行った学生に感想と反省の文を書いてもらいます(2時間程度)。その後、学習指導案を作成します(2週間程度)。
第21回	授業の実践例(歴史的分野)④ 近現代の日本と世界	歴史の模擬授業を行った学生に感想と反省の文を書いてもらいます(2時間程度)。その後、学習指導案を作成します(2週間程度)。
第22回	授業の実践例(歴史的分野)⑤ 「歴史」授業の小括	歴史の模擬授業を行った学生に感想と反省の文を書いてもらいます(1時間程度)。その後、学習指導案を作成します(2週間程度)。
第23回	授業の実践例(公民的分野)① 現代社会と文化の諸特徴	公民の模擬授業を行った学生に感想と反省の文を書いてもらいます(1時間程度)。その後、学習指導案を作成します(2週間程度)。
第24回	授業の実践例(公民的分野)② 市場と経済及び国民生活と政府の役割	公民の模擬授業を行った学生に感想と反省の文を書いてもらいます(2時間程度)。その後、学習指導案を作成します(2週間程度)。
第25回	授業の実践例(公民的分野)③ 人権尊重と憲法及び民主政治と政治参加	公民の模擬授業を行った学生に感想と反省の文を書いてもらいます(2時間程度)。その後、学習指導案を作成します(2週間程度)。
第26回	授業の実践例(公民的分野)④ 世界平和と人類の福祉及び国際社会の課題	公民の模擬授業を行った学生に感想と反省の文を書いてもらいます(2時間程度)。その後、学習指導案を作成します(2週間程度)。
第27回	授業の実践例(公民的分野)⑤ 「公民」授業の小括	公民の模擬授業を行った学生に感想と反省の文を書いてもらいます(2時間程度)。その後、学習指導案を作成します(2週間程度)。
第28回	社会科における発展的な学習内容	担当者が模範となる授業を行い、教科指導の進め方、教材の有効な使用方法、各分野にまたがる基礎的な教養の発現などを示し、学生が自らの意見、感想、批評などをまとめるようにします(2時間程度)。
第29回	発展的な学習内容とその指導	学生がこの一年間に受講した総括を文章化しまとめます(2時間程度)。
第30回	社会科授業のための総括 実践研究の動向と授業設計の向上	前回の課題を持ち寄り、全員で討議し、一年間の振り返りを行います。学生はこの授業を受けて自分自身の何が変わったかをまとめるようにします(2時間程度)。

科目名	社会・地理歴史科教育法		開講年度	2020年度春学期、2020年度秋学期				
担当者	金井 年		配当年次	234				
科目ナンバリング	教職課程 TTT0002		単位数	4単位				
			授業形態(方法)	講義				
グレード	—							
科目区分	教職課程科目							
テーマ	地理歴史科の理念と授業の指導理論と方法と実践							
授業の目的及び概要	地理歴史科の意義や育成すべき資質能力、学習指導要領における地理歴史科の目標を理解し、さらには学問的背景と関連させた教科内容の理解を進めることで、教員になるための資質を涵養するための授業を行う。講義では、地理歴史科の意義、学習指導要領における地理歴史科の目標、学習内容について学び、実際の社会科指導や授業を想定した授業計画、学習指導案の作成を行う。さらに、これらを踏まえて模擬授業を行い、その振り返りから学びつつ、学習内容をより発展させる方向性も考える。							
履修の条件・注意	教職課程履修登録書提出者							
DPとの関連	本科目は、以下の学位授与の方針(DP)と関連した科目です。 経済学部経済学科DP2. 情報活用能力、数的処理能力、日本語及び外国語能力、コミュニケーション能力とともに幅広い教養及び国際感覚を身につけている。 法学部法律学科DP4. 論理的な思考力と豊かな表現力とともに幅広い教養および実践感覚を身につけている。							
学修の到達目標	地理歴史科を学ぶ意義はどこにあるのか、またその方法を、学習指導案作りと模擬授業を通じて学修することを目的としている。具体的な到達目標は下記の通りである。 1) 学習指導要領における地理歴史科の目標、内容並びに地理歴史科の指導や授業に関する基本的事項や理論を理解する。 2) 地理歴史科の学習指導理論を理解するとともに、実際の地理歴史科の指導や授業を想定した計画・立案など授業設計の方法に関わる基本的事項に習熟する。 3) 地理歴史科の授業の実際について、模擬授業とその振り返りによって学ぶ。							
授業の方法	この科目は対面授業で行われます。なお、今後の新型コロナウイルスの感染状況等により授業方法が途中で変更となる場合があります。							
フィードバックの方法	提出物(コメントシート等)は採点し、翌週の授業にて返却する。							
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議/プレゼンテーション、発表、報告							
実務経験のある教員による授業科目								
テキスト・参考書	テキスト 『高等学校学習指導要領』(平成30年3月告示 文部科学省) 参考書・参考資料 『中学校学習指導要領』(平成29年3月告示 文部科学省) 『中学校学習指導要領解説 社会編』(文部科学省、平成29年) 『高等学校学習指導要領解説 地理歴史編』(文部科学省、平成30年)							
成績評価の方法・基準	積極的な参加度・取組み(%)	50	小テスト・理解度テストなど(%)	0	レポートなど授業外課題(%)	0	中間試験(%)	0
	レポート試験(%)	0	定期試験(%)	0	その他(%)	各人が作成した「授業案」(2回分)と模擬授業の評価		50
この科目の履修にあたって	模擬授業の準備を1週間はおこなって行くこと。 受講者は、将来中学校・高校で教職につくことを志望するからには、それにふさわしい見識・力量を高める意欲や向上心を持って欲しいと思います。年間を通して主体的に授業に参加し、積極的に討論に加わろうとする意欲を持っていることを希望します。							
オフィスアワー	各教員のオフィスアワー受付曜日・時間・場所については、本学Webサイトの「オフィスアワー」ページに掲載しています。 <アクセス方法> 大学Webサイトの[トップページ]→[キャンパスライフ]→[教務情報]→[オフィスアワー] <URL> http://www.keiho-u.ac.jp/campuslife/affairs/officehour.html 授業の内容や学習上の問題などについて質問や相談を行いたい場合は、実施曜日・時限を確認のうえ実施場所を訪れてください。 ※なお、非専任講師については、担当授業前、終了後の教室や講師控室等での質問、相談を受け付けています。							

授業回	授業計画	事前事後学修(予習・復習等)
第1回	地理歴史科を学ぶ社会的、教育的意義	事前(1時間) 中学校学習指導要領「社会科」と高等学校学習指導要領の「地歴科」の各節を読み、要点をメモしておく。 事後(1時間) 上記の箇所の要点を再確認する。
第2回	学校教育における地理歴史科、教育課程における地理歴史科	事前(1時間) 自分が高校時代に使用した地理・歴史の教科書の再読。 事後(1時間) 教員の話聞いた上で上記教科書の再読。
第3回	学習指導要領における地理歴史科の学習指導	事前(1時間) 第1回の講義終了後に作成したメモに目を通しておく。 事後(1時間) 教員の話聞いた上で自分自身の考えを再度まとめておく。
第4回	学習指導要領と地理歴史科各分野の学習指導	事前(1時間) 学習指導要領と地理・歴史科の整合性についてメモしておく。 事後(1時間) 自身の考えについて再整理。

第5回	地理歴史科の学習指導理論と授業	事前(1時間) 模擬授業の方法について構想を練る。 事後(1時間) 模擬授業のやり方について明確なイメージを持つために備え付けの教科書などを通読する。
第6回	地理歴史科授業の構想と計画・立案	事前(1時間) 模擬授業についてさらに明確なイメージ作り、そのため各種資料に目を通す。 事後(1時間) 最終的な構想をまとめる。
第7回	地理歴史科授業の計画・立案と学習指導案と評価基準	事前(1時間) 構想をメモしたものに目を通す。 事後(1時間) 教員の話聞いた上でメモを再読。
第8回	学習指導案と教材研究	事前(1時間) メモを再読。 事後(1時間) メモを再確認。
第9回	教材研究の方法	事前(1時間) 教員の話聞いた上でメモを再読。 事後(1時間) メモを再確認。
第10回	授業計画と授業方法・教材(情報機器及び教材の活用を含む)	事前(1時間) メモを再読。 事後(1時間) 教員の話聞いた上で、情報機器の使用について考える。
第11回	授業の方法(情報機器及び教材の活用を含む)	事前(1時間) 今まで書き溜めたメモにすべて目を通す。 事後(1時間) 教員の話聞いて最終確認。
第12回	授業の方法と実際と評価	事前(1時間) メモ類を再読。 事後(1時間) 確認作業。
第13回	授業の実践例(地理総合)① 地理を学ぶ意義	事前(1時間) 地理について自分なりのイメージを持つために、備え付けの教科書などに目を通す。 事後(1時間) 講義後に考えを調整。
第14回	授業の実践例(地理総合)② 地形図、地理情報の活用	事前(1時間) 地理についてイメージを膨らます、そのために各種資料に目を通す。 事後(1時間) 地理情報について整理。
第15回	授業の実践例(地理総合)③ 人文地理学的視点と国際理解	事前(1時間) 地理的視点について自分なりのイメージを持つために、備え付けの教科書などに目を通す。 事後(1時間) 講義を聴いて修正点を考える。
第16回	授業の実践例(地理探究)④ 持続可能な社会と防災	事前(1時間) 最近の自然災害について新聞などに目を通す。 事後(1時間) 防災と地理学の社会的役割について考える。
第17回	授業の実践例(地理探究)⑤ 「地理探究」授業小括	事前(1時間) 高校時代の地理教科書の再読。 事後(1時間) 地理について自身の考えを整理。
第18回	授業の実践例(歴史探究)① 歴史を学ぶ意義	事前(1時間) 歴史についてのイメージ整理、そのため教科書などに目を通す。 事後(1時間) 歴史を学ぶ意義について自分の考えを整理してみる。
第19回	授業の実践例(歴史総合)② 近代化・産業化と国民国家	事前(1時間) 高校時代の歴史教科書の再読。 事後(1時間) 日本の近代化について自身の考えを整理。
第20回	授業の実践例(歴史総合)③ 大衆社会の形成	事前(1時間) 大衆社会とは何か、備え付けの教科書などでイメージを持っておく。 事後(1時間) 近代以降の大衆社会について整理。
第21回	授業の実践例(歴史総合)④ グローバル化する国際社会	事前(1時間) 新聞などにより、国際社会についてイメージを持っておく。 事後(1時間) グローバル化する国際社会について整理。
第22回	授業の実践例(日本史探究)① 古代、中世	事前(1時間) 日本の古代・中世について備え付けの教科書などでイメージを持っておく。 事後(1時間) 教員の話聞いて考えを深化させる。日本の古代・中世について備え付けの教科書などでイメージを持っておく。
第23回	授業の実践例(日本史探究)② 近世、近現代	事前(1時間) 日本の近世以降になると割とイメージしやすい。教科書などでイメージ作り。 事後(1時間) 知識漏れがなかったか、いろいろな観点からチェック。
第24回	授業の実践例(日本史探究)③ 「日本史」授業の小括	事前(1時間) 自分が受けてきた日本史の授業についてすべてメモしておく。 事後(1時間) 知識漏れがなかったか、いろいろな観点からの確認作業。
第25回	授業の実践例(世界史探究)④ 古代、中世	事前(1時間) 世界史は範囲が広いので、自分が受けてきた授業内容についてメモしておく。 事後(1時間) 古代の4大文明などについて整理しておく。
第26回	授業の実践例(世界史探究)⑤ 近世、近現代	事前(1時間) 世界史も近世以降はイメージしやすい。多くの戦争などについて予め整理。 事後(1時間) 自分の知識を再確認
第27回	授業の実践例(世界史探究)⑥ 「世界史」授業の小括	事前(1時間) 世界史の面白さは何か、自分なりに整理。 事後(1時間) 世界史の重要事項についてまとめておく。

第28回	地理歴史科における発展的な学習内容	事前(1時間) 自分がこの講義で得たものを振り返る。 事後(1時間) 自分が教師になった時、どんな授業をするか、あれこれ考える。
第29回	発展的な学習内容とその指導	事後(2時間) 1年間の整理。
第30回	地理歴史科授業のための総括 実践研究の動向と授業設計の向上 定期試験は実施しない。	事後(2時間) 1年間の整理。

科目名	社会・地理歴史科教育法		開講年度	2020年度春学期、2020年度秋学期				
担当者	金井 年		配当年次	234				
科目ナンバリング	教職課程 TTT0002		単位数	4単位				
			授業形態(方法)	講義				
グレード	—							
科目区分	教職課程科目							
テーマ	地理歴史科の理念と授業の指導理論と方法と実践							
授業の目的及び概要	地理歴史科の意義や育成すべき資質能力、学習指導要領における地理歴史科の目標を理解し、さらには学問的背景と関連させた教科内容の理解を進めることで、教員になるための資質を涵養するための授業を行う。講義では、地理歴史科の意義、学習指導要領における地理歴史科の目標、学習内容について学び、実際の社会科指導や授業を想定した授業計画、学習指導案の作成を行う。さらに、これらを踏まえて模擬授業を行い、その振り返りから学びつつ、学習内容をより発展させる方向性も考える。							
履修の条件・注意	教職課程履修登録書提出者							
DPとの関連	本科目は、以下の学位授与の方針(DP)と関連した科目です。 経済学部経済学科DP2. 情報活用能力、数的処理能力、日本語及び外国語能力、コミュニケーション能力とともに幅広い教養及び国際感覚を身につけている。 法学部法律学科DP4. 論理的な思考力と豊かな表現力とともに幅広い教養および実践感覚を身につけている。							
学修の到達目標	地理歴史科を学ぶ意義はどこにあるのか、またその方法を、学習指導案作りと模擬授業を通じて学修することを目的としている。具体的な到達目標は下記の通りである。 1) 学習指導要領における地理歴史科の目標、内容並びに地理歴史科の指導や授業に関する基本的事項や理論を理解する。 2) 地理歴史科の学習指導理論を理解するとともに、実際の地理歴史科の指導や授業を想定した計画・立案など授業設計の方法に関わる基本的事項に習熟する。 3) 地理歴史科の授業の実際について、模擬授業とその振り返りによって学ぶ。							
授業の方法	この科目は対面授業で行われます。なお、今後の新型コロナウイルスの感染状況等により授業方法が途中で変更となる場合があります。							
フィードバックの方法	提出物(コメントシート等)は採点し、翌週の授業にて返却する。							
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議/プレゼンテーション、発表、報告							
実務経験のある教員による授業科目								
テキスト・参考書	テキスト 『高等学校学習指導要領』(平成30年3月告示 文部科学省) 参考書・参考資料 『中学校学習指導要領』(平成29年3月告示 文部科学省) 『中学校学習指導要領解説 社会編』(文部科学省、平成29年) 『高等学校学習指導要領解説 地理歴史編』(文部科学省、平成30年)							
成績評価の方法・基準	積極的な参加度・取組み(%)	50	小テスト・理解度テストなど(%)	0	レポートなど授業外課題(%)	0	中間試験(%)	0
	レポート試験(%)	0	定期試験(%)	0	その他(%)	各人が作成した「授業案」(2回分)と模擬授業の評価		50
この科目の履修にあたって	模擬授業の準備を1週間はかけて行っておくこと。 受講者は、将来中学校・高校で教職につくことを志望するからには、それにふさわしい見識・力量を高める意欲や向上心を持って欲しいと思います。年間を通して主体的に授業に参加し、積極的に討論に加わろうとする意欲を持っていることを希望します。							
オフィスアワー	各教員のオフィスアワー受付曜日・時間・場所については、本学Webサイトの「オフィスアワー」ページに掲載しています。 <アクセス方法> 大学Webサイトの[トップページ]→[キャンパスライフ]→[教務情報]→[オフィスアワー] <URL> http://www.keiho-u.ac.jp/campuslife/affairs/officehour.html 授業の内容や学習上の問題などについて質問や相談を行いたい場合は、実施曜日・時限を確認のうえ実施場所を訪れてください。 ※なお、非専任講師については、担当授業前、終了後の教室や講師控室等での質問、相談を受け付けています。							

授業回	授業計画	事前事後学修(予習・復習等)
第1回	地理歴史科を学ぶ社会的、教育的意義	事前(1時間) 中学校学習指導要領「社会科」と高等学校学習指導要領の「地歴科」の各節を読み、要点をメモしておく。 事後(1時間) 上記の箇所の要点を再確認する。
第2回	学校教育における地理歴史科、教育課程における地理歴史科	事前(1時間) 自分が高校時代に使用した地理・歴史の教科書の再読。 事後(1時間) 教員の話聞いた上で上記教科書の再読。
第3回	学習指導要領における地理歴史科の学習指導	事前(1時間) 第1回の講義終了後に作成したメモに目を通しておく。 事後(1時間) 教員の話聞いた上で自分自身の考えを再度まとめておく。
第4回	学習指導要領と地理歴史科各分野の学習指導	事前(1時間) 学習指導要領と地理・歴史科の整合性についてメモしておく。 事後(1時間) 自身の考えについて再整理。

第5回	地理歴史科の学習指導理論と授業	事前(1時間) 模擬授業の方法について構想を練る。 事後(1時間) 模擬授業のやり方について明確なイメージを持つために備え付けの教科書などを通読する。
第6回	地理歴史科授業の構想と計画・立案	事前(1時間) 模擬授業についてさらに明確なイメージ作り、そのため各種資料に目を通す。 事後(1時間) 最終的な構想をまとめる。
第7回	地理歴史科授業の計画・立案と学習指導案と評価基準	事前(1時間) 構想をメモしたものに目を通す。 事後(1時間) 教員の話聞いた上でメモを再読。
第8回	学習指導案と教材研究	事前(1時間) メモを再読。 事後(1時間) メモを再確認。
第9回	教材研究の方法	事前(1時間) 教員の話聞いた上でメモを再読。 事後(1時間) メモを再確認。
第10回	授業計画と授業方法・教材(情報機器及び教材の活用を含む)	事前(1時間) メモを再読。 事後(1時間) 教員の話聞いた上で、情報機器の使用について考える。
第11回	授業の方法(情報機器及び教材の活用を含む)	事前(1時間) 今まで書き溜めたメモにすべて目を通す。 事後(1時間) 教員の話聞いて最終確認。
第12回	授業の方法と実際と評価	事前(1時間) メモ類を再読。 事後(1時間) 確認作業。
第13回	授業の実践例(地理総合)① 地理を学ぶ意義	事前(1時間) 地理について自分なりのイメージを持つために、備え付けの教科書などに目を通す。 事後(1時間) 講義後に考えを調整。
第14回	授業の実践例(地理総合)② 地形図、地理情報の活用	事前(1時間) 地理についてイメージを膨らます、そのために各種資料に目を通す。 事後(1時間) 地理情報について整理。
第15回	授業の実践例(地理総合)③ 人文地理学的視点と国際理解	事前(1時間) 地理的視点について自分なりのイメージを持つために、備え付けの教科書などに目を通す。 事後(1時間) 講義を聴いて修正点を考える。
第16回	授業の実践例(地理探究)④ 持続可能な社会と防災	事前(1時間) 最近の自然災害について新聞などに目を通す。 事後(1時間) 防災と地理学の社会的役割について考える。
第17回	授業の実践例(地理探究)⑤ 「地理探究」授業小括	事前(1時間) 高校時代の地理教科書の再読。 事後(1時間) 地理について自身の考えを整理。
第18回	授業の実践例(歴史探究)① 歴史を学ぶ意義	事前(1時間) 歴史についてのイメージ整理、そのため教科書などに目を通す。 事後(1時間) 歴史を学ぶ意義について自分の考えを整理してみる。
第19回	授業の実践例(歴史総合)② 近代化・産業化と国民国家	事前(1時間) 高校時代の歴史教科書の再読。 事後(1時間) 日本の近代化について自身の考えを整理。
第20回	授業の実践例(歴史総合)③ 大衆社会の形成	事前(1時間) 大衆社会とは何か、備え付けの教科書などでイメージを持っておく。 事後(1時間) 近代以降の大衆社会について整理。
第21回	授業の実践例(歴史総合)④ グローバル化する国際社会	事前(1時間) 新聞などにより、国際社会についてイメージを持っておく。 事後(1時間) グローバル化する国際社会について整理。
第22回	授業の実践例(日本史探究)① 古代、中世	事前(1時間) 日本の古代・中世について備え付けの教科書などでイメージを持っておく。 事後(1時間) 教員の話聞いて考えを深化させる。日本の古代・中世について備え付けの教科書などでイメージを持っておく。
第23回	授業の実践例(日本史探究)② 近世、近現代	事前(1時間) 日本の近世以降になると割とイメージしやすい。教科書などでイメージ作り。 事後(1時間) 知識漏れがなかったか、いろいろな観点からチェック。
第24回	授業の実践例(日本史探究)③ 「日本史」授業の小括	事前(1時間) 自分が受けてきた日本史の授業についてすべてメモしておく。 事後(1時間) 知識漏れがなかったか、いろいろな観点からの確認作業。
第25回	授業の実践例(世界史探究)④ 古代、中世	事前(1時間) 世界史は範囲が広いので、自分が受けてきた授業内容についてメモしておく。 事後(1時間) 古代の4大文明などについて整理しておく。
第26回	授業の実践例(世界史探究)⑤ 近世、近現代	事前(1時間) 世界史も近世以降はイメージしやすい。多くの戦争などについて予め整理。 事後(1時間) 自分の知識を再確認
第27回	授業の実践例(世界史探究)⑥ 「世界史」授業の小括	事前(1時間) 世界史の面白さは何か、自分なりに整理。 事後(1時間) 世界史の重要事項についてまとめておく。

第28回	地理歴史科における発展的な学習内容	事前(1時間) 自分がこの講義で得たものを振り返る。 事後(1時間) 自分が教師になった時、どんな授業をするか、あれこれ考える。
第29回	発展的な学習内容とその指導	事後(2時間) 1年間の整理。
第30回	地理歴史科授業のための総括 実践研究の動向と授業設計の向上 定期試験は実施しない。	事後(2時間) 1年間の整理。

科目名	社会・公民科教育法	開講年度	2020年度春学期、2020年度秋学期					
担当者	武田 章	配当年次	234					
科目ナンバリング	教職課程 TTT0003	単位数	4単位					
		授業形態(方法)	講義					
グレード	—							
科目区分	教職課程科目							
テーマ	公民科の理念と授業の指導理論と方法と実践							
授業の目的及び概要	公民科の意義や育成すべき資質能力、学習指導要領における公民科の目標を理解し、さらには学問的背景と関連させた教科内容の理解を進めることで、教員になるための資質を涵養するための授業を行う。講義では、公民科の意義、学習指導要領における公民科の目標、学習内容について学び、実際の公民科指導や授業を想定した授業計画、学習指導案の作成を行う。さらに、これらを踏まえて模擬授業を行い、その振り返りから学びつつ、学習内容をより発展させる方向性も考える。							
履修の条件・注意	教職課程履修登録書提出者							
DPとの関連	本科目は、以下の学位授与の方針(DP)と関連した科目です。 経済学部経済学科DP2. 情報活用能力、数的処理能力、日本語及び外国語能力、コミュニケーション能力とともに幅広い教養及び国際感覚を身につけている。 法学部法律学科DP4. 論理的な思考力と豊かな表現力とともに幅広い教養および実践感覚を身につけている。							
学修の到達目標	公民科を学ぶ意義はどこにあるのか、またその方法を学習指導案作りと模擬授業を通して学修することを目的としている。具体的な到達目標は下記の通りである。 (1)学習指導要領における公民科の目標、内容ならびに公民科の指導や授業に関する基本的事項や理論を理解できる。 (2)公民科の学習指導理論を理解するとともに、実際の公民科の指導や授業を想定した計画・立案など授業設計の方法に関わる基本的事項に習熟する。 (3)公民科の授業の実際について、模擬授業とその振り返りによって学び、よりよい授業を行えるようになる。							
授業の方法	この科目は対面授業で行われます。なお、今後の新型コロナウイルスの感染状況等により授業方法が途中で変更となる場合があります。							
フィードバックの方法	毎回の授業終了時に、疑問感想意見等を記し、それに対するコメント等を次回に行います。							
アクティブ・ラーニングの取組み	PBL(課題解決型学習)／ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告／PCを用いた実技							
実務経験のある教員による授業科目	授業の担当者は長年にわたり普通科と工業科に関する教職経験の持ち主なので、様々なアドバイスが可能になります。							
テキスト・参考書	<p>テキスト 『高等学校学習指導要領解説 公民編』(文部科学省、平成30年) 清水書院『高等学校 現代社会 改訂版 平成29年度改訂』文部科学省検定済教科書</p> <p>参考書・参考資料等 『中学校学習指導要領』(平成29年3月告示 文部科学省) 『中学校学習指導要領解説 社会編』(文部科学省、平成29年)</p> <p>テキストは、教員の講義やディスカッション時及び学生諸君の模擬授業案作成時等に参照することになるので、必ず購入しておいてください。 参考書等については、高等学校公民科との関連事項も多く、模擬授業案作成の際に大いに参考になることも多いので、購入しておくとい良いでしょう。</p>							
成績評価の方法・基準	積極的な参加度・取組み(%)	30	小テスト・理解度テストなど(%)	0	レポートなど授業外課題(%)	30	中間試験(%)	0
	レポート試験(%)	0	定期試験(%)	0	その他(%)	指導案等を含む模擬授業		40
この科目の履修にあたって	教職免許は教育実習を経て取得することになります。生徒にとって教育実習生は「先生」であり、年間授業時間の何%かの授業を「アマチュアの実習生」から受けることになります。それだけに教職免許取得希望者には「教員の卵」としての心構えが求められ、重責を担うことになることを十分に自覚して下さい。 よりよい授業を行えるようになるためには、日頃からの教材研究が欠かせません。特に社会科や公民科は「森羅万象が教材」となります。「教科書の枠にとどまることなく、あらゆる世の中の出来事に対してふだんからアンテナを張り巡らせて積極的に情報を収集し、教材探しやその探究に努めてください。 本気で教員をめざす人は、生活の多くの時間とエネルギーを本科目に注いで下さい。講義への遅刻・無断欠席は厳禁です。							
オフィスアワー	各教員のオフィスアワー受付曜日・時間・場所については、本学Webサイトの「オフィスアワー」ページに掲載しています。 <アクセス方法> 大学Webサイトの[トップページ]→[キャンパスライフ]→[教務情報]→[オフィスアワー] <URL> http://www.keiho-u.ac.jp/campuslife/affairs/officehour.html 授業の内容や学習上の問題などについて質問や相談を行いたい場合は、実施曜日・時限を確認のうえ実施場所を訪れてください。 ※なお、非専任講師については、担当授業前、終了後の教室や講師控室等での質問、相談を受け付けています。							

授業回	授業計画	事前事後学修(予習・復習等)
第1回	公民科を学ぶ社会的・教育的意義	学生が公民科を学び教職への途を選んだ理由を自分で整理して文書化し(1時間程度)、次回講義時に提出します。
第2回	学校教育における公民科、教育課程における公民科	公民科とその他の教科との関連性、学校教育における公民科の位置づけについて、授業内で使用した学習指導要領の記述を参照してまとめるようにします(1時間程度)。
第3回	学習指導要領における公民科の学習指導	講義で学生とともに学習指導要領の記載事項を分析・整理し、それらを再度自分なりにまとめるようにします。かなりの時間を要しますが、教職の途には欠かせない作業です(3時間程度)。
第4回	学習指導要領と公民科各分野の学習指導	授業内で学習指導要領を検討した諸事項を改めて文書化する作業です(2時間程度)。

第5回	公民科の学習指導理論と授業	模擬授業の年間計画と進め方の詳細を発表し、学生が個々に単元テーマを選択して、そのテーマを選んだ意図や考えなどを文章化する作業を行います(1時間程度)。
第6回	公民科授業の構想と計画・立案	資料として示した学校での年間計画の雛形により、単元の配置に関わる全体構想を把握し、この事例を参照して自分なりのプランを作成します(2時間程度)。
第7回	公民科授業の計画・立案と学習指導案と評価基準	幾つかの模範的な学習指導案を参照した上で、初めて自分用の指導案を作成します(2週間程度を要します)。
第8回	学習指導案と教材研究	模擬授業の教材を集め、授業の基本構想に沿った講義ノートを作成します(2時間程度)。
第9回	教材研究の方法	講義時に示した幾つかの事例を基礎に、教科書以外の教材にはどのようなものがあるかを調べて報告します(2時間程度)。
第10回	授業計画と授業方法・教材(情報機器及び教材の活用を含む)	授業で見た教育実習の映像について、感想と批評をまとめます(1時間程度)。
第11回	授業の方法(情報機器及び教材の活用を含む)	これから実践する模擬授業についての方法論、主要な論点などを自分なりに整理する作業です(2時間程度)。
第12回	授業の方法と実際と評価	模擬授業を参加者全員で評価するシステムにより、授業を行う際の留意点を自分なりに検討しまとめます(1時間程度)。
第13回	授業の実践例(公共)① 「公共」を学ぶ意義	公共の模擬授業を行った学生に感想と反省の文を書いてもらいます(1時間程度)。その後、学習指導案を作成します(2週間程度)。
第14回	授業の実践例(公共)② 公共的空間における人間の在り方	公共の模擬授業を行った学生に感想と反省の文を書いてもらいます(1時間程度)。その後、学習指導案を作成します(2週間程度)。
第15回	授業の実践例(公共)③ 自立的主体の国家・社会への参画と他者との協働	公共の模擬授業を行った学生に感想と反省の文を書いてもらいます(1時間程度)。その後、学習指導案を作成します(2週間程度)。
第16回	授業の実践例(公共)④ 持続的な社会づくりのための主体	公共の模擬授業を行った学生に感想と反省の文を書いてもらいます(1時間程度)。その後、学習指導案を作成します(2週間程度)。
第17回	授業の実践例(公共)⑤ 「公共」授業の小括	公共の模擬授業を行った学生に感想と反省の文を書いてもらいます(1時間程度)。その後、学習指導案を作成します(2週間程度)。
第18回	授業の実践例(倫理)① 「倫理」を学ぶ意義	倫理の模擬授業を行った学生に感想と反省の文を書いてもらいます(1時間程度)。その後、学習指導案を作成します(2週間程度)。
第19回	授業の実践例(倫理)② 人間としての生き方と倫理観・世界観	倫理の模擬授業を行った学生に感想と反省の文を書いてもらいます(1時間程度)。その後、学習指導案を作成します(2週間程度)。
第20回	授業の実践例(倫理)③ 国際社会に生きることの自覚	倫理の模擬授業を行った学生に感想と反省の文を書いてもらいます(1時間程度)。その後、学習指導案を作成します(2週間程度)。
第21回	授業の実践例(倫理)④ 現代の諸課題と倫理	倫理の模擬授業を行った学生に感想と反省の文を書いてもらいます(1時間程度)。その後、学習指導案を作成します(2週間程度)。
第22回	授業の実践例(倫理)⑤ 「倫理」授業の小括	倫理の模擬授業を行った学生に感想と反省の文を書いてもらいます(1時間程度)。その後、学習指導案を作成します(2週間程度)。
第23回	授業の実践例(政治・経済)① 「政治・経済」を学ぶ意義	政治・経済の模擬授業を行った学生に感想と反省の文を書いてもらいます(1時間程度)。その後、学習指導案を作成します(2週間程度)。
第24回	授業の実践例(政治・経済)② 民主政治のしくみと主権者の政治参加	政治・経済の模擬授業を行った学生に感想と反省の文を書いてもらいます(1時間程度)。その後、学習指導案を作成します(2週間程度)。
第25回	授業の実践例(政治・経済)③ 現代日本の政治と経済の課題	政治・経済の模擬授業を行った学生に感想と反省の文を書いてもらいます(1時間程度)。その後、学習指導案を作成します(2週間程度)。
第26回	授業の実践例(政治・経済)④ 国際社会の諸課題	政治・経済の模擬授業を行った学生に感想と反省の文を書いてもらいます(1時間程度)。その後、学習指導案を作成します(2週間程度)。
第27回	授業の実践例(政治・経済)⑤ 「政治・経済」授業の小括	政治・経済の模擬授業を行った学生に感想と反省の文を書いてもらいます(1時間程度)。その後、学習指導案を作成します(2週間程度)。
第28回	公民科における発展的な学習内容	講義担当者が模範となる授業を行い、学生による感想・批評などを受ける。学生は復習課題として自己の感想・見解などをまとめるようにする(1時間程度)。
第29回	発展的な学習内容とその指導	防災問題、学校安全などの安全教育と社会・公民科との関わりについてレポートを書きます(2時間程度)。
第30回	公民科授業のための総括 実践研究の動向と授業設計の向上 定期試験は実施しない。	講義を受けて自分自身の何が変わったのかを振り返り、総まとめします(1時間程度)。

科目名	社会・公民科教育法	開講年度	2020年度春学期、2020年度秋学期					
担当者	武田 章	配当年次	234					
科目ナンバリング	教職課程 TTT0003	単位数	4単位					
		授業形態(方法)	講義					
グレード	—							
科目区分	教職課程科目							
テーマ	公民科の理念と授業の指導理論と方法と実践							
授業の目的及び概要	公民科の意義や育成すべき資質能力、学習指導要領における公民科の目標を理解し、さらには学問的背景と関連させた教科内容の理解を進めることで、教員になるための資質を涵養するための授業を行う。講義では、公民科の意義、学習指導要領における公民科の目標、学習内容について学び、実際の公民科指導や授業を想定した授業計画、学習指導案の作成を行う。さらに、これらを踏まえて模擬授業を行い、その振り返りから学びつつ、学習内容をより発展させる方向性も考える。							
履修の条件・注意	教職課程履修登録書提出者							
DPとの関連	本科目は、以下の学位授与の方針(DP)と関連した科目です。 経済学部経済学科DP2. 情報活用能力、数的処理能力、日本語及び外国語能力、コミュニケーション能力とともに幅広い教養及び国際感覚を身につけている。 法学部法律学科DP4. 論理的な思考力と豊かな表現力とともに幅広い教養および実践感覚を身につけている。							
学修の到達目標	公民科を学ぶ意義はどこにあるのか、またその方法を学習指導案作りと模擬授業を通して学修することを目的としている。具体的な到達目標は下記の通りである。 (1)学習指導要領における公民科の目標、内容ならびに公民科の指導や授業に関する基本的事項や理論を理解できる。 (2)公民科の学習指導理論を理解するとともに、実際の公民科の指導や授業を想定した計画・立案など授業設計の方法に関わる基本的事項に習熟する。 (3)公民科の授業の実際について、模擬授業とその振り返りによって学び、よりよい授業を行えるようになる。							
授業の方法	この科目は対面授業で行われます。なお、今後の新型コロナウイルスの感染状況等により授業方法が途中で変更となる場合があります。							
フィードバックの方法	毎回の授業終了時に、疑問感想意見等を記し、それに対するコメント等を次回に行います。							
アクティブ・ラーニングの取組み	PBL(課題解決型学習)／ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告／PCを用いた実技							
実務経験のある教員による授業科目	授業の担当者は長年にわたり普通科と工業科に関する教職経験の持ち主なので、様々なアドバイスが可能になります。							
テキスト・参考書	<p>テキスト 『高等学校学習指導要領解説 公民編』(文部科学省、平成30年) 清水書院『高等学校 現代社会 改訂版 平成29年度改訂』文部科学省検定済教科書</p> <p>参考書・参考資料等 『中学校学習指導要領』(平成29年3月告示 文部科学省) 『中学校学習指導要領解説 社会編』(文部科学省、平成29年)</p> <p>テキストは、教員の講義やディスカッション時及び学生諸君の模擬授業案作成時等に参照することになるので、必ず購入しておいてください。 参考書等については、高等学校公民科との関連事項も多く、模擬授業案作成の際に大いに参考になることも多いので、購入しておくとい良いでしょう。</p>							
成績評価の方法・基準	積極的な参加度・取組み(%)	30	小テスト・理解度テストなど(%)	0	レポートなど授業外課題(%)	30	中間試験(%)	0
	レポート試験(%)	0	定期試験(%)	0	その他(%)	指導案等を含む模擬授業		40
この科目の履修にあたって	教職免許は教育実習を経て取得することになります。生徒にとって教育実習生は「先生」であり、年間授業時間の何%かの授業を「アマチュアの実習生」から受けることになります。それだけに教職免許取得希望者には「教員の卵」としての心構えが求められ、重責を担うことになることを十分に自覚して下さい。よりよい授業を行えるようになるためには、日頃からの教材研究が欠かせません。特に社会科や公民科は「森羅万象が教材」となります。「教科書の枠」にとどまることなく、あらゆる世の中の出来事に対してふだんからアンテナを張り巡らせて積極的に情報を収集し、教材探しやその探究に努めてください。本気で教員をめざす人は、生活の多くの時間とエネルギーを本科目に注いで下さい。講義への遅刻・無断欠席は厳禁です。							
オフィスアワー	<p>各教員のオフィスアワー受付曜日・時間・場所については、本学Webサイトの「オフィスアワー」ページに掲載しています。 <アクセス方法> 大学Webサイトの[トップページ]→[キャンパスライフ]→[教務情報]→[オフィスアワー] <URL> http://www.keiho-u.ac.jp/campuslife/affairs/officehour.html</p> <p>授業の内容や学習上の問題などについて質問や相談を行いたい場合は、実施曜日・時限を確認のうえ実施場所を訪れてください。 ※なお、非専任講師については、担当授業前、終了後の教室や講師控室等での質問、相談を受け付けています。</p>							

授業回	授業計画	事前事後学修(予習・復習等)
第1回	公民科を学ぶ社会的・教育的意義	学生が公民科を学び教職への途を選んだ理由を自分で整理して文書化し(1時間程度)、次回講義時に提出します。
第2回	学校教育における公民科、教育課程における公民科	公民科とその他の教科との関連性、学校教育における公民科の位置づけについて、授業内で使用した学習指導要領の記述を参照してまとめるようにします(1時間程度)。
第3回	学習指導要領における公民科の学習指導	講義で学生とともに学習指導要領の記載事項を分析・整理し、それらを再度自分なりにまとめるようにします。かなりの時間を要しますが、教職の途には欠かせない作業です(3時間程度)。
第4回	学習指導要領と公民科各分野の学習指導	授業内で学習指導要領を検討した諸事項を改めて文書化する作業です(2時間程度)。

第5回	公民科の学習指導理論と授業	模擬授業の年間計画と進め方の詳細を発表し、学生が個々に単元テーマを選択して、そのテーマを選んだ意図や考えなどを文章化する作業を行います(1時間程度)。
第6回	公民科授業の構想と計画・立案	資料として示した学校での年間計画の雛形により、単元の配置に関わる全体構想を把握し、この事例を参照して自分なりのプランを作成します(2時間程度)。
第7回	公民科授業の計画・立案と学習指導案と評価基準	幾つかの模範的な学習指導案を参照した上で、初めて自分用の指導案を作成します(2週間程度を要します)。
第8回	学習指導案と教材研究	模擬授業の教材を集め、授業の基本構想に沿った講義ノートを作成します(2時間程度)。
第9回	教材研究の方法	講義時に示した幾つかの事例を基礎に、教科書以外の教材にはどのようなものがあるかを調べて報告します(2時間程度)。
第10回	授業計画と授業方法・教材(情報機器及び教材の活用を含む)	授業で見た教育実習の映像について、感想と批評をまとめます(1時間程度)。
第11回	授業の方法(情報機器及び教材の活用を含む)	これから実践する模擬授業についての方法論、主要な論点などを自分なりに整理する作業です(2時間程度)。
第12回	授業の方法と実際と評価	模擬授業を参加者全員で評価するシステムにより、授業を行う際の留意点を自分なりに検討しまとめます(1時間程度)。
第13回	授業の実践例(公共)① 「公共」を学ぶ意義	公共の模擬授業を行った学生に感想と反省の文を書いてももらいます(1時間程度)。その後、学習指導案を作成します(2週間程度)。
第14回	授業の実践例(公共)② 公共的空間における人間の在り方	公共の模擬授業を行った学生に感想と反省の文を書いてももらいます(1時間程度)。その後、学習指導案を作成します(2週間程度)。
第15回	授業の実践例(公共)③ 自立的主体の国家・社会への参画と他者との協働	公共の模擬授業を行った学生に感想と反省の文を書いてももらいます(1時間程度)。その後、学習指導案を作成します(2週間程度)。
第16回	授業の実践例(公共)④ 持続的な社会づくりのための主体	公共の模擬授業を行った学生に感想と反省の文を書いてももらいます(1時間程度)。その後、学習指導案を作成します(2週間程度)。
第17回	授業の実践例(公共)⑤ 「公共」授業の小括	公共の模擬授業を行った学生に感想と反省の文を書いてももらいます(1時間程度)。その後、学習指導案を作成します(2週間程度)。
第18回	授業の実践例(倫理)① 「倫理」を学ぶ意義	倫理の模擬授業を行った学生に感想と反省の文を書いてももらいます(1時間程度)。その後、学習指導案を作成します(2週間程度)。
第19回	授業の実践例(倫理)② 人間としての生き方と倫理観・世界観	倫理の模擬授業を行った学生に感想と反省の文を書いてももらいます(1時間程度)。その後、学習指導案を作成します(2週間程度)。
第20回	授業の実践例(倫理)③ 国際社会に生きることの自覚	倫理の模擬授業を行った学生に感想と反省の文を書いてももらいます(1時間程度)。その後、学習指導案を作成します(2週間程度)。
第21回	授業の実践例(倫理)④ 現代の諸課題と倫理	倫理の模擬授業を行った学生に感想と反省の文を書いてももらいます(1時間程度)。その後、学習指導案を作成します(2週間程度)。
第22回	授業の実践例(倫理)⑤ 「倫理」授業の小括	倫理の模擬授業を行った学生に感想と反省の文を書いてももらいます(1時間程度)。その後、学習指導案を作成します(2週間程度)。
第23回	授業の実践例(政治・経済)① 「政治・経済」を学ぶ意義	政治・経済の模擬授業を行った学生に感想と反省の文を書いてももらいます(1時間程度)。その後、学習指導案を作成します(2週間程度)。
第24回	授業の実践例(政治・経済)② 民主政治のしくみと主権者の政治参加	政治・経済の模擬授業を行った学生に感想と反省の文を書いてももらいます(1時間程度)。その後、学習指導案を作成します(2週間程度)。
第25回	授業の実践例(政治・経済)③ 現代日本の政治と経済の課題	政治・経済の模擬授業を行った学生に感想と反省の文を書いてももらいます(1時間程度)。その後、学習指導案を作成します(2週間程度)。
第26回	授業の実践例(政治・経済)④ 国際社会の諸課題	政治・経済の模擬授業を行った学生に感想と反省の文を書いてももらいます(1時間程度)。その後、学習指導案を作成します(2週間程度)。
第27回	授業の実践例(政治・経済)⑤ 「政治・経済」授業の小括	政治・経済の模擬授業を行った学生に感想と反省の文を書いてももらいます(1時間程度)。その後、学習指導案を作成します(2週間程度)。
第28回	公民科における発展的な学習内容	講義担当者が模範となる授業を行い、学生による感想・批評などを受ける。学生は復習課題として自己の感想・見解などをまとめるようにする(1時間程度)。
第29回	発展的な学習内容とその指導	防災問題、学校安全などの安全教育と社会・公民科との関わりについてレポートを書きます(2時間程度)。
第30回	公民科授業のための総括 実践研究の動向と授業設計の向上 定期試験は実施しない。	講義を受けて自分自身の何が変わったのかを振り返り、総まとめします(1時間程度)。

科目名	教育原理			開講年度	2020年度春学期、2020年度秋学期			
担当者	鈴木 清稔			配当年次	234			
科目ナンバリング	教職課程 TTT0004			単位数	4単位			
				授業形態(方法)	講義			
グレード	—							
科目区分	教職課程科目							
テーマ	教育に関する概念及び歴史と思想							
授業の目的及び概要	<p>教育に関する様々な基本的概念や教育理念について学修するとともに、それらの生成について教育史的・思想史的理解を深めつつ、教育や学校という営みについてどのようにとらえられたか、またそれらが変遷してきたかについて理解する。</p> <p>具体的内容は、以下のとおりである。</p> <p>1) 人や社会にとって、教育や学校がどのような役割・機能を持った営みであるか、さらに現代社会においてどのような働きをしているかについて考察し、教育や学校についての理解を深める。</p> <p>2) 教育や学校について歴史的な変遷をたどりつつ、その背景にある社会的・思想的背景まで理解を深め、公教育制度の存立に関わる諸要因について考察し、理解を深める。</p> <p>3) 公教育制度を成り立たせている諸思想・諸理念や制度的諸原理について学びつつ、それらと現代日本の教育法規や家庭や子どもの教育・学習との関係について理解を深める。</p>							
履修の条件・注意	教職課程履修登録書提出者							
DPとの関連	<p>本科目は、以下の学位授与の方針(DP)と関連した科目です。</p> <p>経済学部経済学科DP2. 情報活用能力、数的処理能力、日本語及び外国語能力、コミュニケーション能力とともに幅広い教養及び国際感覚を身につけている。</p> <p>法学部法律学科DP4. 論理的な思考力と豊かな表現力とともに幅広い教養および実践感覚を身につけている。</p>							
学修の到達目標	<p>1) 教育に関する基礎的な概念の理解と修得及び「教育」存立の諸要因とその相関関係についての理解を深め、「教育とは何か」に関して多面的に理解する。</p> <p>2) 教育の歴史について基礎的な知識の修得と、教育や学校をめぐる社会的・思想的基盤に関する歴史的理解に基づく教育や学校の変遷についての理解を深める。</p> <p>3) 教育に関わる思想や理念について理解しつつ、それらと実際の教育・学校との関わりについても理解を深める。</p>							
授業の方法	この科目は遠隔授業で行われます。詳細についてはLearning Portalを確認してください。なお、今後の新型コロナウイルスの感染状況等により授業方法が途中で変更となる場合があります。							
フィードバックの方法	授業中のコメントについては、できる限り適宜、回答、補足説明します。内容によっては、翌週の授業にて行います。							
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議							
実務経験のある教員による授業科目								
テキスト・参考書	<p>テキスト 特に指定しない。</p> <p>参考書・参考資料等 『中学校学習指導要領』(平成29年3月告示 文部科学省) 『高等学校学習指導要領』(平成30年3月告示 文部科学省) 伊藤良高、富江英俊 編『教育の理念と思想のフロンティア』(晃洋書房、2017年):特に近代教育の思想や理念、近代学校制度の成立に関して参考になる 江藤恭二 他 編『新版 子どもの教育の歴史 その生活と社会背景を見つめて』(名古屋大学出版会、2008年):特に産業革命や資本主義の展開と子どもの生活や学校制度の成立に関して参考になる</p>							
成績評価の方法・基準	積極的な参加度・取組み(%)	0	小テスト・理解度テストなど(%)	30	レポートなど授業外課題(%)	0	中間試験(%)	0
	レポート試験(%)	70	定期試験(%)	0	その他(%)			
この科目の履修にあたって	<p>授業は、履修学生が少人数であることを生かして、多くの発問をしながら進めるので、“能動的な”「聞き」と積極的な回答が要求される。</p> <p>また、授業中の資料提示が多いので、授業をサボっておいて、事後に配布プリントとノートを入手するだけでは、学修が不十分となるので、この自覚を持って、受講すること。</p> <p>なお、授業に際しては出席を取るが、これは試験が出来なくても出席をすれば単位認定されるということではない。試験問題は、積極的な受講態度と自主的な学修態度がなければ解答困難なものである。みだりに欠席や遅刻をしないよう心がけることが大事である。</p> <p>授業に大幅に遅れての入室は謹んでもらいたい。</p> <p>出席状況や受講態度がよくない者については、学期末定期試験の受験を辞退してもらう場合がある。</p> <p>定期試験の問題には、記述式の出題が含まれており、用語の単なる暗記では解答できないので、授業内容を自分なりに要約して理解する必要がある。そのため、普段から授業時と授業後のノート作成が求められる。</p>							
オフィスアワー	<p>各教員のオフィスアワー受付曜日・時間・場所については、本学Webサイトの「オフィスアワー」ページに掲載しています。</p> <p><アクセス方法> 大学Webサイトの[トップページ]→[キャンパスライフ]→[教務情報]→[オフィスアワー] <URL> http://www.keiho-u.ac.jp/campuslife/affairs/officehour.html</p> <p>授業の内容や学習上の問題などについて質問や相談を行いたい場合は、実施曜日・時限を確認のうえ実施場所を訪れてください。 ※なお、非専任講師については、担当授業前、終了後の教室や講師控室等での質問、相談を受け付けています。</p>							

授業回	授業計画	事前事後学修(予習・復習等)
第1回	ヒトと教育 ヒトと教育に関する諸概念	事前: ウェブページの検索(「人類の起源と進化」、「ヒト 二足歩行」など 2時間程度)、事後: ノートの整理と補足プリントの学習(2時間程度)
第2回	人間と教育 人間形成と教育の本質	事前: 前回配布プリントの熟読(2時間程度)、事後: ノートの整理と補足プリントの学習(2時間程度)
第3回	人間社会における教育・学習の意義と目標	事前: 前回配布プリントの熟読(2時間程度)、事後: ノートの整理と補足プリントの学習(2時間程度)
第4回	社会・文化と教育 ① 教育の意義・目標と社会・文化に果たす役割	事前: 前回配布プリントの熟読(2時間程度)、事後: ノートの整理と補足プリントの学習(2時間程度)
第5回	社会・文化と教育 ② 教育の概念と学校教育の構成基盤(子ども・教員・家庭)	事前: ウェブページの検索(「イニシエーション」、「通過儀礼」など 2時間程度)、事後: ノートの整理と補足プリントの学習(2時間程度)
第6回	社会・文化と教育 ③ 教育の構成基盤とその関係の変化	事前: 前回配布プリントの熟読(2時間程度)、事後: ノートの整理と補足プリントの学習(2時間程度)
第7回	社会・文化と教育 ④ 教育の構成基盤の変化と学校教育	事前: 前回配布プリントの熟読(2時間程度)、事後: ノートの整理と補足プリントの学習(2時間程度)
第8回	現代社会と教育 ① 現代社会の変動と生活の変化と学校教育の関係	事前: 前回配布プリントの熟読(2時間程度)、事後: ノートの整理と補足プリントの学習(2時間程度)
第9回	現代社会と教育 ② 現代社会の変動と新たな文化の創造と教育の目標	事前: 前回配布プリントの熟読(2時間程度)、事後: ノートの整理と補足プリントの学習(2時間程度)
第10回	現代社会と教育 ③ ジェンダーを題材に学校教育を考える	事前: 前回配布プリントの熟読(2時間程度)、事後: ノートの整理と補足プリントの学習(2時間程度)
第11回	現代社会と教育 ④ ポスト・モダンの学校教育を考える	事前: 前回配布プリントの熟読(2時間程度)、事後: ノートの整理と補足プリントの学習(2時間程度)
第12回	教育の根源的意義と現代的意義・課題の振り返り	事前: 前回配布プリントの熟読(2時間程度)、事後: ノートの整理と補足プリントの学習(2時間程度)
第13回	教育の歴史 ① 学習施設発生の社会的契機についての歴史的考察	事前: ウェブページの検索(「文字の発明」、「文字の歴史」など 2時間程度)、事後: ノートの整理と補足プリントの学習(2時間程度)
第14回	教育の歴史 ② 古代文明と学習施設の発生から考える	事前: 前回配布プリントの熟読(2時間程度)、事後: ノートの整理と補足プリントの学習(2時間程度)
第15回	教育の歴史 ③ 西洋古代の社会と家族における教育	事前: 前回配布プリントの熟読(2時間程度)、事後: ノートの整理と補足プリントの学習(2時間程度)
第16回	教育の歴史 ④ 西洋古代の家庭、子どもと学習	事前: 前回配布プリントの熟読(2時間程度)、事後: ノートの整理と補足プリントの学習(2時間程度)
第17回	教育の歴史 ⑤ 西洋中世の大学と庶民の教育	事前: 前回配布プリントの熟読(2時間程度)、事後: ノートの整理と補足プリントの学習(2時間程度)
第18回	教育の歴史 ⑥ 西洋中世の社会と大学・学問から考える	事前: 前回配布プリントの熟読(2時間程度)、事後: ノートの整理と補足プリントの学習(2時間程度)
第19回	教育の歴史 ⑦ 「学校」の叢生とその系統化	事前: 前回配布プリントの熟読(2時間程度)、事後: ノートの整理と補足プリントの学習(2時間程度)
第20回	近代公教育の成立 ① 国民的義務教育制度(学校の制度化)の出現	事前: 前回配布プリントの熟読(2時間程度)、事後: ノートの整理と補足プリントの学習(2時間程度)
第21回	近代公教育の成立 ② 公教育制度存立の社会的基盤	事前: 前回配布プリントの熟読(2時間程度)、事後: ノートの整理と補足プリントの学習(2時間程度)
第22回	近代公教育の成立 ③ 公教育形成期の社会と家庭と子ども	事前: 前回配布プリントの熟読(2時間程度)、事後: ノートの整理と補足プリントの学習(2時間程度)
第23回	近代公教育の成立 ④ 公教育の思想と教育の制度理念	事前: 前回配布プリントの熟読(2時間程度)、事後: ノートの整理と補足プリントの学習(2時間程度)
第24回	欧米の教育思想家 ① 子どもと家庭的環境への注目	事前: 前回配布プリントの熟読(2時間程度)、事後: ノートの整理と補足プリントの学習(2時間程度)
第25回	欧米の教育思想家 ② 学校での学習に関する思想的転換	事前: 前回配布プリントの熟読(2時間程度)、事後: ノートの整理と補足プリントの学習(2時間程度)
第26回	日本における学校教育制度の導入 明治期から戦前の制度理念	事前: 前回配布プリントの熟読(2時間程度)、事後: ノートの整理と補足プリントの学習(2時間程度)
第27回	戦後日本の公教育 ① 教育を受ける権利と公教育の法理念	事前: 前回配布プリントの熟読(2時間程度)、事後: ノートの整理と補足プリントの学習(2時間程度)
第28回	戦後日本の公教育 ② 公教育の法理念と家庭や子ども	事前: ウェブページの検索(検索ワードは事前に提示する 2時間程度)、事後: ノートの整理と補足プリントの学習(2時間程度)
第29回	日本の公教育の今日的課題	事前: ウェブページの検索(検索ワードは事前に提示する 2時間程度)、事後: ノートの整理と補足プリントの学習(2時間程度)
第30回	教育のポスト・モダンの思想と学校改革の可能性	事前: ウェブページの検索(検索ワードは事前に提示する 2時間程度)、事後: ノートの整理と補足プリントの学習(2時間程度)

科目名	教育原理			開講年度	2020年度春学期、2020年度秋学期			
担当者	鈴木 清稔			配当年次	234			
科目ナンバリング	教職課程 TTT0004			単位数	4単位			
				授業形態(方法)	講義			
グレード	—							
科目区分	教職課程科目							
テーマ	教育に関する概念及び歴史と思想							
授業の目的及び概要	<p>教育に関する様々な基本的概念や教育理念について学修するとともに、それらの生成について教育史的・思想史的理解を深めつつ、教育や学校という営みについてどのようにとらえられたか、またそれらが変遷してきたかについて理解する。</p> <p>具体的内容は、以下のとおりである。</p> <p>1) 人や社会にとって、教育や学校がどのような役割・機能を持った営みであるか、さらに現代社会においてどのような働きをしているかについて考察し、教育や学校についての理解を深める。</p> <p>2) 教育や学校について歴史的な変遷をたどりつつ、その背景にある社会的・思想的背景まで理解を深め、公教育制度の存立に関わる諸要因について考察し、理解を深める。</p> <p>3) 公教育制度を成り立たせている諸思想・諸理念や制度的諸原理について学びつつ、それらと現代日本の教育法規や家庭や子どもの教育・学習との関係について理解を深める。</p>							
履修の条件・注意	教職課程履修登録書提出者							
DPとの関連	<p>本科目は、以下の学位授与の方針(DP)と関連した科目です。</p> <p>経済学部経済学科DP2. 情報活用能力、数的処理能力、日本語及び外国語能力、コミュニケーション能力とともに幅広い教養及び国際感覚を身につけている。</p> <p>法学部法律学科DP4. 論理的な思考力と豊かな表現力とともに幅広い教養および実践感覚を身につけている。</p>							
学修の到達目標	<p>1) 教育に関する基礎的な概念の理解と修得及び「教育」存立の諸要因とその相関関係についての理解を深め、「教育とは何か」に関して多面的に理解する。</p> <p>2) 教育の歴史について基礎的な知識の修得と、教育や学校をめぐる社会的・思想的基盤に関する歴史的理解に基づく教育や学校の変遷についての理解を深める。</p> <p>3) 教育に関わる思想や理念について理解しつつ、それらと実際の教育・学校との関わりについても理解を深める。</p>							
授業の方法	この科目は遠隔授業で行われます。詳細についてはLearning Portalを確認してください。なお、今後の新型コロナウイルスの感染状況等により授業方法が途中で変更となる場合があります。							
フィードバックの方法	授業中のコメントについては、できる限り適宜、回答、補足説明します。内容によっては、翌週の授業にて行います。							
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議							
実務経験のある教員による授業科目								
テキスト・参考書	<p>テキスト 特に指定しない。</p> <p>参考書・参考資料等 『中学校学習指導要領』(平成29年3月告示 文部科学省) 『高等学校学習指導要領』(平成30年3月告示 文部科学省) 伊藤良高、富江英俊 編『教育の理念と思想のフロンティア』(晃洋書房、2017年):特に近代教育の思想や理念、近代学校制度の成立に関して参考になる 江藤恭二 他 編『新版 子どもの教育の歴史 その生活と社会背景を見つめて』(名古屋大学出版会、2008年):特に産業革命や資本主義の展開と子どもの生活や学校制度の成立に関して参考になる</p>							
成績評価の方法・基準	積極的な参加度・取組み(%)	0	小テスト・理解度テストなど(%)	30	レポートなど授業外課題(%)	0	中間試験(%)	0
	レポート試験(%)	70	定期試験(%)	0	その他(%)			
この科目の履修にあたって	<p>授業は、履修学生が少人数であることを生かして、多くの発問をしながら進めるので、“能動的な”「聞き」と積極的な回答が要求される。</p> <p>また、授業中の資料提示が多いので、授業をサボっておいて、事後に配布プリントとノートを手に入れるだけでは、学修が不十分となるので、この自覚を持って、受講すること。</p> <p>なお、授業に際しては出席を取るが、これは試験が出来なくても出席をすれば単位認定されるということではない。試験問題は、積極的な受講態度と自主的な学修態度がなければ解答困難なものである。みだりに欠席や遅刻をしないよう心がけることが大事である。</p> <p>授業に大幅に遅れての入室は謹んでもらいたい。</p> <p>出席状況や受講態度がとくによくない者については、学期末定期試験の受験を辞退してもらう場合がある。</p> <p>定期試験の問題には、記述式の出題が含まれており、用語の単なる暗記では解答できないので、授業内容を自分なりに要約して理解する必要がある。そのため、普段から授業時と授業後のノート作成が求められる。</p>							
オフィスアワー	<p>各教員のオフィスアワー受付曜日・時間・場所については、本学Webサイトの「オフィスアワー」ページに掲載しています。</p> <p><アクセス方法> 大学Webサイトの[トップページ]→[キャンパスライフ]→[教務情報]→[オフィスアワー] <URL> http://www.keiho-u.ac.jp/campuslife/affairs/officehour.html</p> <p>授業の内容や学習上の問題などについて質問や相談を行いたい場合は、実施曜日・時限を確認のうえ実施場所を訪れてください。 ※なお、非専任講師については、担当授業前、終了後の教室や講師控室等での質問、相談を受け付けています。</p>							

授業回	授業計画	事前事後学修(予習・復習等)
第1回	ヒトと教育 ヒトと教育に関する諸概念	事前: ウェブページの検索(「人類の起源と進化」、「ヒト 二足歩行」など 2時間程度)、事後: ノートの整理と補足プリントの学習(2時間程度)
第2回	人間と教育 人間形成と教育の本質	事前: 前回配布プリントの熟読(2時間程度)、事後: ノートの整理と補足プリントの学習(2時間程度)
第3回	人間社会における教育・学習の意義と目標	事前: 前回配布プリントの熟読(2時間程度)、事後: ノートの整理と補足プリントの学習(2時間程度)
第4回	社会・文化と教育 ① 教育の意義・目標と社会・文化に果たす役割	事前: 前回配布プリントの熟読(2時間程度)、事後: ノートの整理と補足プリントの学習(2時間程度)
第5回	社会・文化と教育 ② 教育の概念と学校教育の構成基盤(子ども・教員・家庭)	事前: ウェブページの検索(「イニシエーション」、「通過儀礼」など 2時間程度)、事後: ノートの整理と補足プリントの学習(2時間程度)
第6回	社会・文化と教育 ③ 教育の構成基盤とその関係の変化	事前: 前回配布プリントの熟読(2時間程度)、事後: ノートの整理と補足プリントの学習(2時間程度)
第7回	社会・文化と教育 ④ 教育の構成基盤の変化と学校教育	事前: 前回配布プリントの熟読(2時間程度)、事後: ノートの整理と補足プリントの学習(2時間程度)
第8回	現代社会と教育 ① 現代社会の変動と生活の変化と学校教育の関係	事前: 前回配布プリントの熟読(2時間程度)、事後: ノートの整理と補足プリントの学習(2時間程度)
第9回	現代社会と教育 ② 現代社会の変動と新たな文化の創造と教育の目標	事前: 前回配布プリントの熟読(2時間程度)、事後: ノートの整理と補足プリントの学習(2時間程度)
第10回	現代社会と教育 ③ ジェンダーを題材に学校教育を考える	事前: 前回配布プリントの熟読(2時間程度)、事後: ノートの整理と補足プリントの学習(2時間程度)
第11回	現代社会と教育 ④ ポスト・モダンの学校教育を考える	事前: 前回配布プリントの熟読(2時間程度)、事後: ノートの整理と補足プリントの学習(2時間程度)
第12回	教育の根源的意義と現代的意義・課題の振り返り	事前: 前回配布プリントの熟読(2時間程度)、事後: ノートの整理と補足プリントの学習(2時間程度)
第13回	教育の歴史 ① 学習施設発生の社会的契機についての歴史的考察	事前: ウェブページの検索(「文字の発明」、「文字の歴史」など 2時間程度)、事後: ノートの整理と補足プリントの学習(2時間程度)
第14回	教育の歴史 ② 古代文明と学習施設の発生から考える	事前: 前回配布プリントの熟読(2時間程度)、事後: ノートの整理と補足プリントの学習(2時間程度)
第15回	教育の歴史 ③ 西洋古代の社会と家族における教育	事前: 前回配布プリントの熟読(2時間程度)、事後: ノートの整理と補足プリントの学習(2時間程度)
第16回	教育の歴史 ④ 西洋古代の家庭、子どもと学習	事前: 前回配布プリントの熟読(2時間程度)、事後: ノートの整理と補足プリントの学習(2時間程度)
第17回	教育の歴史 ⑤ 西洋中世の大学と庶民の教育	事前: 前回配布プリントの熟読(2時間程度)、事後: ノートの整理と補足プリントの学習(2時間程度)
第18回	教育の歴史 ⑥ 西洋中世の社会と大学・学問から考える	事前: 前回配布プリントの熟読(2時間程度)、事後: ノートの整理と補足プリントの学習(2時間程度)
第19回	教育の歴史 ⑦ 「学校」の叢生とその系統化	事前: 前回配布プリントの熟読(2時間程度)、事後: ノートの整理と補足プリントの学習(2時間程度)
第20回	近代公教育の成立 ① 国民的義務教育制度(学校の制度化)の出現	事前: 前回配布プリントの熟読(2時間程度)、事後: ノートの整理と補足プリントの学習(2時間程度)
第21回	近代公教育の成立 ② 公教育制度存立の社会的基盤	事前: 前回配布プリントの熟読(2時間程度)、事後: ノートの整理と補足プリントの学習(2時間程度)
第22回	近代公教育の成立 ③ 公教育形成期の社会と家庭と子ども	事前: 前回配布プリントの熟読(2時間程度)、事後: ノートの整理と補足プリントの学習(2時間程度)
第23回	近代公教育の成立 ④ 公教育の思想と教育の制度理念	事前: 前回配布プリントの熟読(2時間程度)、事後: ノートの整理と補足プリントの学習(2時間程度)
第24回	欧米の教育思想家 ① 子どもと家庭的環境への注目	事前: 前回配布プリントの熟読(2時間程度)、事後: ノートの整理と補足プリントの学習(2時間程度)
第25回	欧米の教育思想家 ② 学校での学習に関する思想的転換	事前: 前回配布プリントの熟読(2時間程度)、事後: ノートの整理と補足プリントの学習(2時間程度)
第26回	日本における学校教育制度の導入 明治期から戦前の制度理念	事前: 前回配布プリントの熟読(2時間程度)、事後: ノートの整理と補足プリントの学習(2時間程度)
第27回	戦後日本の公教育 ① 教育を受ける権利と公教育の法理念	事前: 前回配布プリントの熟読(2時間程度)、事後: ノートの整理と補足プリントの学習(2時間程度)
第28回	戦後日本の公教育 ② 公教育の法理念と家庭や子ども	事前: ウェブページの検索(検索ワードは事前に提示する 2時間程度)、事後: ノートの整理と補足プリントの学習(2時間程度)
第29回	日本の公教育の今日的課題	事前: ウェブページの検索(検索ワードは事前に提示する 2時間程度)、事後: ノートの整理と補足プリントの学習(2時間程度)
第30回	教育のポスト・モダンの思想と学校改革の可能性	事前: ウェブページの検索(検索ワードは事前に提示する 2時間程度)、事後: ノートの整理と補足プリントの学習(2時間程度)

科目名	教育原理			開講年度	2020年度春学期、2020年度秋学期			
担当者	鈴木 清稔			配当年次	234			
科目ナンバリング	教職課程 TTT0004			単位数	4単位			
				授業形態(方法)	講義			
グレード	—							
科目区分	教職課程科目							
テーマ	教育に関する概念及び歴史と思想							
授業の目的及び概要	<p>教育に関する様々な基本的概念や教育理念について学修するとともに、それらの生成について教育史的・思想史的理解を深めつつ、教育や学校という営みについてどのようにとらえられたか、またそれらが変遷してきたかについて理解する。</p> <p>具体的内容は、以下のとおりである。</p> <p>1) 人や社会にとって、教育や学校がどのような役割・機能を持った営みであるか、さらに現代社会においてどのような働きをしているかについて考察し、教育や学校についての理解を深める。</p> <p>2) 教育や学校について歴史的な変遷をたどりつつ、その背景にある社会的・思想的背景まで理解を深め、公教育制度の存立に関わる諸要因について考察し、理解を深める。</p> <p>3) 公教育制度を成り立たせている諸思想・諸理念や制度的諸原理について学びつつ、それらと現代日本の教育法規や家庭や子どもの教育・学習との関係について理解を深める。</p>							
履修の条件・注意	教職課程履修登録書提出者							
DPとの関連	<p>本科目は、以下の学位授与の方針(DP)と関連した科目です。</p> <p>経済学部経済学科DP2. 情報活用能力、数的処理能力、日本語及び外国語能力、コミュニケーション能力とともに幅広い教養及び国際感覚を身につけている。</p> <p>法学部法律学科DP4. 論理的な思考力と豊かな表現力とともに幅広い教養および実践感覚を身につけている。</p>							
学修の到達目標	<p>1) 教育に関する基礎的な概念の理解と修得及び「教育」存立の諸要因とその相関関係についての理解を深め、「教育とは何か」に関して多面的に理解する。</p> <p>2) 教育の歴史について基礎的な知識の修得と、教育や学校をめぐる社会的・思想的基盤に関する歴史的理解に基づく教育や学校の変遷についての理解を深める。</p> <p>3) 教育に関わる思想や理念について理解しつつ、それらと実際の教育・学校との関わりについても理解を深める。</p>							
授業の方法	この科目は遠隔授業で行われます。詳細についてはLearning Portalを確認してください。なお、今後の新型コロナウイルスの感染状況等により授業方法が途中で変更となる場合があります。							
フィードバックの方法	授業中のコメントについては、できる限り適宜、回答、補足説明します。内容によっては、翌週の授業にて行います。							
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議							
実務経験のある教員による授業科目								
テキスト・参考書	<p>テキスト 特に指定しない。</p> <p>参考書・参考資料等 『中学校学習指導要領』(平成29年3月告示 文部科学省) 『高等学校学習指導要領』(平成30年3月告示 文部科学省) 伊藤良高、富江英俊 編『教育の理念と思想のフロンティア』(晃洋書房、2017年):特に近代教育の思想や理念、近代学校制度の成立に関して参考になる 江藤恭二 他 編『新版 子どもの教育の歴史 その生活と社会背景を見つめて』(名古屋大学出版会、2008年):特に産業革命や資本主義の展開と子どもの生活や学校制度の成立に関して参考になる</p>							
成績評価の方法・基準	積極的な参加度・取組み(%)	0	小テスト・理解度テストなど(%)	30	レポートなど授業外課題(%)	0	中間試験(%)	0
	レポート試験(%)	70	定期試験(%)	0	その他(%)			
この科目の履修にあたって	<p>授業は、履修学生が少人数であることを生かして、多くの発問をしながら進めるので、“能動的な”「聞き」と積極的な回答が要求される。</p> <p>また、授業中の資料提示が多いので、授業をサボっておいて、事後に配布プリントとノートを入手するだけでは、学修が不十分となるので、この自覚を持って、受講すること。</p> <p>なお、授業に際しては出席を取るが、これは試験が出来なくても出席をすれば単位認定されるということではない。試験問題は、積極的な受講態度と自主的な学修態度がなければ解答困難なものである。みだりに欠席や遅刻をしないよう心がけることが大事である。</p> <p>授業に大幅に遅れての入室は謹んでもらいたい。</p> <p>出席状況や受講態度がよくない者については、学期末定期試験の受験を辞退してもらう場合がある。</p> <p>定期試験の問題には、記述式の出題が含まれており、用語の単なる暗記では解答できないので、授業内容を自分なりに要約して理解する必要がある。そのため、普段から授業時と授業後のノート作成が求められる。</p>							
オフィスアワー	<p>各教員のオフィスアワー受付曜日・時間・場所については、本学Webサイトの「オフィスアワー」ページに掲載しています。</p> <p><アクセス方法> 大学Webサイトの[トップページ]→[キャンパスライフ]→[教務情報]→[オフィスアワー] <URL> http://www.keiho-u.ac.jp/campuslife/affairs/officehour.html</p> <p>授業の内容や学習上の問題などについて質問や相談を行いたい場合は、実施曜日・時限を確認のうえ実施場所を訪れてください。 ※なお、非専任講師については、担当授業前、終了後の教室や講師控室等での質問、相談を受け付けています。</p>							

授業回	授業計画	事前事後学修(予習・復習等)
第1回	ヒトと教育 ヒトと教育に関する諸概念	事前: ウェブページの検索(「人類の起源と進化」、「ヒト 二足歩行」など 2時間程度)、事後: ノートの整理と補足プリントの学習(2時間程度)
第2回	人間と教育 人間形成と教育の本質	事前: 前回配布プリントの熟読(2時間程度)、事後: ノートの整理と補足プリントの学習(2時間程度)
第3回	人間社会における教育・学習の意義と目標	事前: 前回配布プリントの熟読(2時間程度)、事後: ノートの整理と補足プリントの学習(2時間程度)
第4回	社会・文化と教育 ① 教育の意義・目標と社会・文化に果たす役割	事前: 前回配布プリントの熟読(2時間程度)、事後: ノートの整理と補足プリントの学習(2時間程度)
第5回	社会・文化と教育 ② 教育の概念と学校教育の構成基盤(子ども・教員・家庭)	事前: ウェブページの検索(「イニシエーション」、「通過儀礼」など 2時間程度)、事後: ノートの整理と補足プリントの学習(2時間程度)
第6回	社会・文化と教育 ③ 教育の構成基盤とその関係の変化	事前: 前回配布プリントの熟読(2時間程度)、事後: ノートの整理と補足プリントの学習(2時間程度)
第7回	社会・文化と教育 ④ 教育の構成基盤の変化と学校教育	事前: 前回配布プリントの熟読(2時間程度)、事後: ノートの整理と補足プリントの学習(2時間程度)
第8回	現代社会と教育 ① 現代社会の変動と生活の変化と学校教育の関係	事前: 前回配布プリントの熟読(2時間程度)、事後: ノートの整理と補足プリントの学習(2時間程度)
第9回	現代社会と教育 ② 現代社会の変動と新たな文化の創造と教育の目標	事前: 前回配布プリントの熟読(2時間程度)、事後: ノートの整理と補足プリントの学習(2時間程度)
第10回	現代社会と教育 ③ ジェンダーを題材に学校教育を考える	事前: 前回配布プリントの熟読(2時間程度)、事後: ノートの整理と補足プリントの学習(2時間程度)
第11回	現代社会と教育 ④ ポスト・モダンの学校教育を考える	事前: 前回配布プリントの熟読(2時間程度)、事後: ノートの整理と補足プリントの学習(2時間程度)
第12回	教育の根源的意義と現代的意義・課題の振り返り	事前: 前回配布プリントの熟読(2時間程度)、事後: ノートの整理と補足プリントの学習(2時間程度)
第13回	教育の歴史 ① 学習施設発生の社会的契機についての歴史的考察	事前: ウェブページの検索(「文字の発明」、「文字の歴史」など 2時間程度)、事後: ノートの整理と補足プリントの学習(2時間程度)
第14回	教育の歴史 ② 古代文明と学習施設の発生から考える	事前: 前回配布プリントの熟読(2時間程度)、事後: ノートの整理と補足プリントの学習(2時間程度)
第15回	教育の歴史 ③ 西洋古代の社会と家族における教育	事前: 前回配布プリントの熟読(2時間程度)、事後: ノートの整理と補足プリントの学習(2時間程度)
第16回	教育の歴史 ④ 西洋古代の家庭、子どもと学習	事前: 前回配布プリントの熟読(2時間程度)、事後: ノートの整理と補足プリントの学習(2時間程度)
第17回	教育の歴史 ⑤ 西洋中世の大学と庶民の教育	事前: 前回配布プリントの熟読(2時間程度)、事後: ノートの整理と補足プリントの学習(2時間程度)
第18回	教育の歴史 ⑥ 西洋中世の社会と大学・学問から考える	事前: 前回配布プリントの熟読(2時間程度)、事後: ノートの整理と補足プリントの学習(2時間程度)
第19回	教育の歴史 ⑦ 「学校」の叢生とその系統化	事前: 前回配布プリントの熟読(2時間程度)、事後: ノートの整理と補足プリントの学習(2時間程度)
第20回	近代公教育の成立 ① 国民的義務教育制度(学校の制度化)の出現	事前: 前回配布プリントの熟読(2時間程度)、事後: ノートの整理と補足プリントの学習(2時間程度)
第21回	近代公教育の成立 ② 公教育制度存立の社会的基盤	事前: 前回配布プリントの熟読(2時間程度)、事後: ノートの整理と補足プリントの学習(2時間程度)
第22回	近代公教育の成立 ③ 公教育形成期の社会と家庭と子ども	事前: 前回配布プリントの熟読(2時間程度)、事後: ノートの整理と補足プリントの学習(2時間程度)
第23回	近代公教育の成立 ④ 公教育の思想と教育の制度理念	事前: 前回配布プリントの熟読(2時間程度)、事後: ノートの整理と補足プリントの学習(2時間程度)
第24回	欧米の教育思想家 ① 子どもと家庭的環境への注目	事前: 前回配布プリントの熟読(2時間程度)、事後: ノートの整理と補足プリントの学習(2時間程度)
第25回	欧米の教育思想家 ② 学校での学習に関する思想的転換	事前: 前回配布プリントの熟読(2時間程度)、事後: ノートの整理と補足プリントの学習(2時間程度)
第26回	日本における学校教育制度の導入 明治期から戦前の制度理念	事前: 前回配布プリントの熟読(2時間程度)、事後: ノートの整理と補足プリントの学習(2時間程度)
第27回	戦後日本の公教育 ① 教育を受ける権利と公教育の法理念	事前: 前回配布プリントの熟読(2時間程度)、事後: ノートの整理と補足プリントの学習(2時間程度)
第28回	戦後日本の公教育 ② 公教育の法理念と家庭や子ども	事前: ウェブページの検索(検索ワードは事前に提示する 2時間程度)、事後: ノートの整理と補足プリントの学習(2時間程度)
第29回	日本の公教育の今日的課題	事前: ウェブページの検索(検索ワードは事前に提示する 2時間程度)、事後: ノートの整理と補足プリントの学習(2時間程度)
第30回	教育のポスト・モダンの思想と学校改革の可能性	事前: ウェブページの検索(検索ワードは事前に提示する 2時間程度)、事後: ノートの整理と補足プリントの学習(2時間程度)

科目名	教育原理		開講年度	2020年度春学期、2020年度秋学期				
担当者	鈴木 清稔		配当年次	234				
科目ナンバリング	教職課程 TTT0004		単位数	4単位				
			授業形態(方法)	講義				
グレード	—							
科目区分	教職課程科目							
テーマ	教育に関する概念及び歴史と思想							
授業の目的及び概要	<p>教育に関する様々な基本的概念や教育理念について学修するとともに、それらの生成について教育史的・思想史的理解を深めつつ、教育や学校という営みについてどのようにとらえられたか、またそれらが変遷してきたかについて理解する。</p> <p>具体的内容は、以下のとおりである。</p> <p>1) 人や社会にとって、教育や学校がどのような役割・機能を持った営みであるか、さらに現代社会においてどのような働きをしているかについて考察し、教育や学校についての理解を深める。</p> <p>2) 教育や学校について歴史的な変遷をたどりつつ、その背景にある社会的・思想的背景まで理解を深め、公教育制度の存立に関わる諸要因について考察し、理解を深める。</p> <p>3) 公教育制度を成り立たせている諸思想・諸理念や制度的諸原理について学びつつ、それらと現代日本の教育法規や家庭や子どもの教育・学習との関係について理解を深める。</p>							
履修の条件・注意	教職課程履修登録書提出者							
DPとの関連	<p>本科目は、以下の学位授与の方針(DP)と関連した科目です。</p> <p>経済学部経済学科DP2. 情報活用能力、数的処理能力、日本語及び外国語能力、コミュニケーション能力とともに幅広い教養及び国際感覚を身につけている。</p> <p>法学部法律学科DP4. 論理的な思考力と豊かな表現力とともに幅広い教養および実践感覚を身につけている。</p>							
学修の到達目標	<p>1) 教育に関する基礎的な概念の理解と修得及び「教育」存立の諸要因とその相関関係についての理解を深め、「教育とは何か」に関して多面的に理解する。</p> <p>2) 教育の歴史について基礎的な知識の修得と、教育や学校をめぐる社会的・思想的基盤に関する歴史的理解に基づく教育や学校の変遷についての理解を深める。</p> <p>3) 教育に関わる思想や理念について理解しつつ、それらと実際の教育・学校との関わりについても理解を深める。</p>							
授業の方法	この科目は遠隔授業で行われます。詳細についてはLearning Portalを確認してください。なお、今後の新型コロナウイルスの感染状況等により授業方法が途中で変更となる場合があります。							
フィードバックの方法	授業中のコメントについては、できる限り適宜、回答、補足説明します。内容によっては、翌週の授業にて行います。							
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議							
実務経験のある教員による授業科目								
テキスト・参考書	<p>テキスト 特に指定しない。</p> <p>参考書・参考資料等 『中学校学習指導要領』(平成29年3月告示 文部科学省) 『高等学校学習指導要領』(平成30年3月告示 文部科学省) 伊藤良高、富江英俊 編『教育の理念と思想のフロンティア』(晃洋書房、2017年):特に近代教育の思想や理念、近代学校制度の成立に関して参考になる 江藤恭二 他 編『新版 子どもの教育の歴史 その生活と社会背景を見つめて』(名古屋大学出版会、2008年):特に産業革命や資本主義の展開と子どもの生活や学校制度の成立に関して参考になる</p>							
成績評価の方法・基準	積極的な参加度・取組み(%)	0	小テスト・理解度テストなど(%)	30	レポートなど授業外課題(%)	0	中間試験(%)	0
	レポート試験(%)	70	定期試験(%)	0	その他(%)			
この科目の履修にあたって	<p>授業は、履修学生が少人数であることを生かして、多くの発問をしながら進めるので、“能動的な”「聞き」と積極的な回答が要求される。</p> <p>また、授業中の資料提示が多いので、授業をサボっておいて、事後に配布プリントとノートを入手するだけでは、学修が不十分となるので、この自覚を持って、受講すること。</p> <p>なお、授業に際しては出席を取るが、これは試験が出来なくても出席をすれば単位認定されるということではない。試験問題は、積極的な受講態度と自主的な学修態度がなければ解答困難なものである。みだりに欠席や遅刻をしないよう心がけることが大事である。</p> <p>授業に大幅に遅れての入室は謹んでもらいたい。</p> <p>出席状況や受講態度がとくによくない者については、学期末定期試験の受験を辞退してもらう場合がある。</p> <p>定期試験の問題には、記述式の出題が含まれており、用語の単なる暗記では解答できないので、授業内容を自分なりに要約して理解する必要がある。そのため、普段から授業時と授業後のノート作成が求められる。</p>							
オフィスアワー	<p>各教員のオフィスアワー受付曜日・時間・場所については、本学Webサイトの「オフィスアワー」ページに掲載しています。</p> <p><アクセス方法> 大学Webサイトの[トップページ]→[キャンパスライフ]→[教務情報]→[オフィスアワー] <URL> http://www.keiho-u.ac.jp/campuslife/affairs/officehour.html</p> <p>授業の内容や学習上の問題などについて質問や相談を行いたい場合は、実施曜日・時限を確認のうえ実施場所を訪れてください。 ※なお、非専任講師については、担当授業前、終了後の教室や講師控室等での質問、相談を受け付けています。</p>							

授業回	授業計画	事前事後学修(予習・復習等)
第1回	ヒトと教育 ヒトと教育に関する諸概念	事前: ウェブページの検索(「人類の起源と進化」、「ヒト 二足歩行」など 2時間程度)、事後: ノートの整理と補足プリントの学習(2時間程度)
第2回	人間と教育 人間形成と教育の本質	事前: 前回配布プリントの熟読(2時間程度)、事後: ノートの整理と補足プリントの学習(2時間程度)
第3回	人間社会における教育・学習の意義と目標	事前: 前回配布プリントの熟読(2時間程度)、事後: ノートの整理と補足プリントの学習(2時間程度)
第4回	社会・文化と教育 ① 教育の意義・目標と社会・文化に果たす役割	事前: 前回配布プリントの熟読(2時間程度)、事後: ノートの整理と補足プリントの学習(2時間程度)
第5回	社会・文化と教育 ② 教育の概念と学校教育の構成基盤(子ども・教員・家庭)	事前: ウェブページの検索(「イニシエーション」、「通過儀礼」など 2時間程度)、事後: ノートの整理と補足プリントの学習(2時間程度)
第6回	社会・文化と教育 ③ 教育の構成基盤とその関係の変化	事前: 前回配布プリントの熟読(2時間程度)、事後: ノートの整理と補足プリントの学習(2時間程度)
第7回	社会・文化と教育 ④ 教育の構成基盤の変化と学校教育	事前: 前回配布プリントの熟読(2時間程度)、事後: ノートの整理と補足プリントの学習(2時間程度)
第8回	現代社会と教育 ① 現代社会の変動と生活の変化と学校教育の関係	事前: 前回配布プリントの熟読(2時間程度)、事後: ノートの整理と補足プリントの学習(2時間程度)
第9回	現代社会と教育 ② 現代社会の変動と新たな文化の創造と教育の目標	事前: 前回配布プリントの熟読(2時間程度)、事後: ノートの整理と補足プリントの学習(2時間程度)
第10回	現代社会と教育 ③ ジェンダーを題材に学校教育を考える	事前: 前回配布プリントの熟読(2時間程度)、事後: ノートの整理と補足プリントの学習(2時間程度)
第11回	現代社会と教育 ④ ポスト・モダンの学校教育を考える	事前: 前回配布プリントの熟読(2時間程度)、事後: ノートの整理と補足プリントの学習(2時間程度)
第12回	教育の根源的意義と現代的意義・課題の振り返り	事前: 前回配布プリントの熟読(2時間程度)、事後: ノートの整理と補足プリントの学習(2時間程度)
第13回	教育の歴史 ① 学習施設発生の社会的契機についての歴史的考察	事前: ウェブページの検索(「文字の発明」、「文字の歴史」など 2時間程度)、事後: ノートの整理と補足プリントの学習(2時間程度)
第14回	教育の歴史 ② 古代文明と学習施設の発生から考える	事前: 前回配布プリントの熟読(2時間程度)、事後: ノートの整理と補足プリントの学習(2時間程度)
第15回	教育の歴史 ③ 西洋古代の社会と家族における教育	事前: 前回配布プリントの熟読(2時間程度)、事後: ノートの整理と補足プリントの学習(2時間程度)
第16回	教育の歴史 ④ 西洋古代の家庭、子どもと学習	事前: 前回配布プリントの熟読(2時間程度)、事後: ノートの整理と補足プリントの学習(2時間程度)
第17回	教育の歴史 ⑤ 西洋中世の大学と庶民の教育	事前: 前回配布プリントの熟読(2時間程度)、事後: ノートの整理と補足プリントの学習(2時間程度)
第18回	教育の歴史 ⑥ 西洋中世の社会と大学・学問から考える	事前: 前回配布プリントの熟読(2時間程度)、事後: ノートの整理と補足プリントの学習(2時間程度)
第19回	教育の歴史 ⑦ 「学校」の叢生とその系統化	事前: 前回配布プリントの熟読(2時間程度)、事後: ノートの整理と補足プリントの学習(2時間程度)
第20回	近代公教育の成立 ① 国民的義務教育制度(学校の制度化)の出現	事前: 前回配布プリントの熟読(2時間程度)、事後: ノートの整理と補足プリントの学習(2時間程度)
第21回	近代公教育の成立 ② 公教育制度存立の社会的基盤	事前: 前回配布プリントの熟読(2時間程度)、事後: ノートの整理と補足プリントの学習(2時間程度)
第22回	近代公教育の成立 ③ 公教育形成期の社会と家庭と子ども	事前: 前回配布プリントの熟読(2時間程度)、事後: ノートの整理と補足プリントの学習(2時間程度)
第23回	近代公教育の成立 ④ 公教育の思想と教育の制度理念	事前: 前回配布プリントの熟読(2時間程度)、事後: ノートの整理と補足プリントの学習(2時間程度)
第24回	欧米の教育思想家 ① 子どもと家庭的環境への注目	事前: 前回配布プリントの熟読(2時間程度)、事後: ノートの整理と補足プリントの学習(2時間程度)
第25回	欧米の教育思想家 ② 学校での学習に関する思想的転換	事前: 前回配布プリントの熟読(2時間程度)、事後: ノートの整理と補足プリントの学習(2時間程度)
第26回	日本における学校教育制度の導入 明治期から戦前の制度理念	事前: 前回配布プリントの熟読(2時間程度)、事後: ノートの整理と補足プリントの学習(2時間程度)
第27回	戦後日本の公教育 ① 教育を受ける権利と公教育の法理念	事前: 前回配布プリントの熟読(2時間程度)、事後: ノートの整理と補足プリントの学習(2時間程度)
第28回	戦後日本の公教育 ② 公教育の法理念と家庭や子ども	事前: ウェブページの検索(検索ワードは事前に提示する 2時間程度)、事後: ノートの整理と補足プリントの学習(2時間程度)
第29回	日本の公教育の今日的課題	事前: ウェブページの検索(検索ワードは事前に提示する 2時間程度)、事後: ノートの整理と補足プリントの学習(2時間程度)
第30回	教育のポスト・モダンの思想と学校改革の可能性	事前: ウェブページの検索(検索ワードは事前に提示する 2時間程度)、事後: ノートの整理と補足プリントの学習(2時間程度)

科目名	教職論		開講年度	2020年度春学期				
担当者	鈴木 清稔、上川 貴子、金井 年		配当年次	1234				
科目ナンバリング	教職課程 TTT0005		単位数	2単位				
			授業形態(方法)	講義				
グレード	—							
科目区分	教職課程科目							
テーマ	「教職」について知り、進路を考える							
授業の目的及び概要	この科目は、教職への進路選択を視野に入れつつ、現代社会における教職に関する様々な側面の理解を進めるために行う科目である。現代社会における教職の持つ意義、教職観、今日的な教師の役割、求められる資質能力、職務内容、職務上の諸義務などに関して取り上げて、理解を深める。なお、今日的な教師の役割、職務内容に関わって、「チーム学校」における教員の在り方についても取り上げる。							
履修の条件・注意	教職課程資格取得希望者							
DPとの関連	本科目は、以下の学位授与の方針(DP)と関連した科目です。 経済学部経済学科DP2.情報活用能力、数的処理能力、日本語及び外国語能力、コミュニケーション能力とともに幅広い教養及び国際感覚を身につけている。 法学部法律学科DP4.論理的な思考力と豊かな表現力とともに幅広い教養および実践感覚を身につけている。							
学修の到達目標	1) 現代日本社会にとって、学校教育と教員という「職」が持つ社会的な意義について理解する。 2) 教育をめぐる状況や教育改革の動向を視野に入れつつ、教員に求められる今日的役割や資質能力について理解する。 3) 教員の職務内容の全体像を認識し、教員に課せられた服務や身分に関わる諸義務について理解する。 4) 多様化し、拡大しつつある、学校の果たすべき役割について認識し、役割達成のために、学校内外の専門家との連携・分担する必要があることを理解する。							
授業の方法	教職課程の科目を担当する3名の教員によるオムニバス(リレー講義)の形を取る。それぞれの担当者が適宜、参考資料、配付プリントなどを配付しつつ、進める。 授業に関する重要な連絡がある場合は、授業時のアナウンス及びナイスポータル「連絡事項」によって行う。							
フィードバックの方法	授業中にコメント・ペーパーを書いてもらった場合は、翌週に補足の説明や論評を行う。							
アクティブ・ラーニングの取組み								
実務経験のある教員による授業科目								
テキスト・参考書	テキスト 特に指定しない。 参考書・参考資料等 『中学校学習指導要領』(平成29年3月告示 文部科学省) 『高等学校学習指導要領』(平成30年3月告示 文部科学省) (とくに鈴木担当分に関して) 鈴木清稔「補章「教員」を巡る諸問題」『教育行政学 講義 増補改訂版—教育の制度とその運営—』pp. 74—109、大阪経済法科大学経法学会、2018年)							
成績評価の方法・基準	積極的な参加度・取組み(%)	20	小テスト・理解度テストなど(%)	0	レポートなど授業外課題(%)	0	中間試験(%)	0
	レポート試験(%)	80	定期試験(%)	0	その他(%)			
この科目の履修にあたって	教員免許取得者としてふさわしいかどうか自問しつつ、「常識」ある行動や責任ある行動をとるよう心がけて欲しい。この「常識」とは、学生の常識ではなく、専門職として働く者としての「常識」であり、この「常識」がどのようなものであるかを意識することが求められているということである。 3人の担当者の評価の、成績評価に占める割合は、それぞれ、鈴木40%、金井40%、上川20%である。							
オフィスアワー	各教員のオフィスアワー受付曜日・時間・場所については、本学Webサイトの「オフィスアワー」ページに掲載しています。 <アクセス方法> 大学Webサイトの[トップページ]→[キャンパスライフ]→[教務情報]→[オフィスアワー] <URL> http://www.keiho-u.ac.jp/campuslife/affairs/officehour.html 授業の内容や学習上の問題などについて質問や相談を行いたい場合は、実施曜日・時限を確認のうえ実施場所を訪れてください。 ※なお、非専任講師については、担当授業前、終了後の教室や講師控室等での質問、相談を受け付けています。							

授業回	授業計画	事前事後学修(予習・復習等)
第1回	教職の意義と役割及び進路としての教職(鈴木)	事前:「補章「教員」を巡る諸問題」pp.74—76(2時間程度)、事後:ノートの整理と補足プリントの学習(2時間程度)
第2回	教職の職業的特性と様々な教職観と進路選択(鈴木)	事前:「補章「教員」を巡る諸問題」pp.76—81(2時間程度)、事後:ノートの整理と補足プリントの学習(2時間程度)
第3回	教職に求められる資質能力、職務、服務(鈴木)	事前:「補章「教員」を巡る諸問題」pp.82—87(2時間程度)、事後:ノートの整理と補足プリントの学習(2時間程度)
第4回	教職に求められる職務上、身分上の義務(鈴木)	事前:「補章「教員」を巡る諸問題」pp.82—87(2時間程度)、事後:ノートの整理と補足プリントの学習(2時間程度)
第5回	教育を取り巻く今日の状況と教師 チーム学校と教師の学び(鈴木)	事前:「補章「教員」を巡る諸問題」pp.88—91(2時間程度)、事後:ノートの整理と補足プリントの学習(2時間程度)
第6回	教職に求められる今日的役割 学び続ける教師 教師の働き方改革(鈴木)	事前:「補章「教員」を巡る諸問題」pp.92—99(2時間程度)、事後:ノートの整理と補足プリントの学習(2時間程度)
第7回	学校現場に見る教員の職務と役割 校務分掌(金井)	事前:配付プリントの学習(2時間程度)、事後:ノートの整理と補足プリントの学習(2時間程度)

第8回	教員の職務と役割 ① 教科指導から見る(金井)	事前: 配付プリントの学習(2時間程度)、事後: ノートの整理と補足プリントの学習(2時間程度)
第9回	教員の職務と役割 ② 生徒指導から見る(金井)	事前: 配付プリントの学習(2時間程度)、事後: ノートの整理と補足プリントの学習(2時間程度)
第10回	教員の職務と役割 ③ 学級経営と特別活動(金井)	事前: 配付プリントの学習(2時間程度)、事後: ノートの整理と補足プリントの学習(2時間程度)
第11回	学校現場における今日的状況への対応(金井)	事前: 配付プリントの学習(2時間程度)、事後: ノートの整理と補足プリントの学習(2時間程度)
第12回	学校現場における教員の職務に関する振り返り(金井)	事前: 「補章「教員」を巡る諸問題」pp.88—109(2時間程度)、事後: ノートの整理と補足プリントの学習(2時間程度)
第13回	学校心理臨床から見た学校教育(上川)	事前: ウェブによる検索(「学校臨床」「スクール・カウンセラー」「スクール・ソーシャルワーカー」2時間程度)、事後: 補足プリントの学習(2時間程度)
第14回	学校心理臨床から見た教師と教育相談(上川)	事前: 配付プリントの学習(2時間程度)、事後: ノートの整理と補足プリントの学習(2時間程度)
第15回	教師と専門家が連携したチーム的対応(上川) 定期試験は実施しない。	事前: 配付プリントの学習(2時間程度)、事後: ノートの整理と補足プリントの学習(2時間程度)

科目名	教職論		開講年度	2020年度秋学期				
担当者	鈴木 清稔、上川 貴子、金井 年		配当年次	1234				
科目ナンバリング	教職課程 TTT0005		単位数	2単位				
			授業形態(方法)	講義				
グレード	—							
科目区分	教職課程科目							
テーマ	「教職」について知り、進路を考える							
授業の目的及び概要	この科目は、教職への進路選択を視野に入れつつ、現代社会における教職に関する様々な側面の理解を進めるために行う科目である。現代社会における教職の持つ意義、教職観、今日的な教師の役割、求められる資質能力、職務内容、職務上の諸義務などに関して取り上げて、理解を深める。なお、今日的な教師の役割、職務内容に関わって、「チーム学校」における教員の在り方についても取り上げる。							
履修の条件・注意	教職課程資格取得希望者							
DPとの関連	本科目は、以下の学位授与の方針(DP)と関連した科目です。 経済学部経済学科DP2.情報活用能力、数的処理能力、日本語及び外国語能力、コミュニケーション能力とともに幅広い教養及び国際感覚を身につけている。 法学部法律学科DP4.論理的な思考力と豊かな表現力とともに幅広い教養および実践感覚を身につけている。							
学修の到達目標	1) 現代日本社会にとって、学校教育と教員という「職」が持つ社会的な意義について理解する。 2) 教育をめぐる状況や教育改革の動向を視野に入れつつ、教員に求められる今日的役割や資質能力について理解する。 3) 教員の職務内容の全体像を認識し、教員に課せられた服務や身分に関わる諸義務について理解する。 4) 多様化し、拡大しつつある、学校の果たすべき役割について認識し、役割達成のために、学校内外の専門家との連携・分担する必要があることを理解する。							
授業の方法	この科目は遠隔授業で行われます。詳細についてはLearning Portalを確認してください。なお、今後の新型コロナウイルスの感染状況等により授業方法が途中で変更となる場合があります。							
フィードバックの方法	授業中にコメント・ペーパーを書いてもらった場合は、翌週に補足の説明や論評を行う。							
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議							
実務経験のある教員による授業科目								
テキスト・参考書	テキスト 特に指定しない。 参考書・参考資料等 『中学校学習指導要領』(平成29年3月告示 文部科学省) 『高等学校学習指導要領』(平成30年3月告示 文部科学省) (とくに鈴木担当分に関して) 鈴木清稔『補章「教員」を巡る諸問題』(『教育行政学 講義 増補改訂版—教育の制度とその運営—』pp. 74—109、大阪経済法科大学経法学会、2018年)							
成績評価の方法・基準	積極的な参加度・ 取り組み(%)	0	小テスト・理解度テ ストなど(%)	30	レポートなど授業 外課題(%)	0	中間試験(%)	0
	レポート試験(%)	70	定期試験(%)	0	その他(%)			
この科目の履修にあたって	教員免許取得者としてふさわしいかどうか自問しつつ、「常識」ある行動や責任ある行動をとるよう心がけて欲しい。この「常識」とは、学生の常識ではなく、専門職として働く者としての「常識」であり、この「常識」がどのようなものであるかを意識することが求められているということである。 3人の担当者の評価の、成績評価に占める割合は、それぞれ、鈴木40%、金井40%、上川20%である。							
オフィスアワー	各教員のオフィスアワー受付曜日・時間・場所については、本学Webサイトの「オフィスアワー」ページに掲載しています。 <アクセス方法> 大学Webサイトの[トップページ]→[キャンパスライフ]→[教務情報]→[オフィスアワー] <URL> http://www.keiho-u.ac.jp/campuslife/affairs/officehour.html 授業の内容や学習上の問題などについて質問や相談を行いたい場合は、実施曜日・時限を確認のうえ実施場所を訪れてください。 ※なお、非専任講師については、担当授業前、終了後の教室や講師控室等での質問、相談を受け付けています。							

授業回	授業計画	事前事後学修(予習・復習等)
第1回	教職の意義と役割及び進路としての教職(鈴木)	事前:「補章「教員」を巡る諸問題」pp.74—76(2時間程度)、事後:ノートの整理と補足プリントの学習(2時間程度)
第2回	教職の職業的特性と様々な教職観と進路選択(鈴木)	事前:「補章「教員」を巡る諸問題」pp.76—81(2時間程度)、事後:ノートの整理と補足プリントの学習(2時間程度)
第3回	教職に求められる資質能力、職務、服務(鈴木)	事前:「補章「教員」を巡る諸問題」pp.82—87(2時間程度)、事後:ノートの整理と補足プリントの学習(2時間程度)
第4回	教職に求められる職務上、身分上の義務(鈴木)	事前:「補章「教員」を巡る諸問題」pp.82—87(2時間程度)、事後:ノートの整理と補足プリントの学習(2時間程度)
第5回	教育を取り巻く今日の状況と教師 チーム学校と教師の学び(鈴木)	事前:「補章「教員」を巡る諸問題」pp.88—91(2時間程度)、事後:ノートの整理と補足プリントの学習(2時間程度)
第6回	教職に求められる今日的役割 学び続ける教師 教師の働き方改革(鈴木)	事前:「補章「教員」を巡る諸問題」pp.92—99(2時間程度)、事後:ノートの整理と補足プリントの学習(2時間程度)
第7回	学校現場に見る教員の職務と役割 校務分掌(金井)	事前:配付プリントの学習(2時間程度)、事後:ノートの整理と補足プリントの学習(2時間程度)

第8回	教員の職務と役割 ① 教科指導から見る(金井)	事前: 配付プリントの学習(2時間程度)、事後: ノートの整理と補足プリントの学習(2時間程度)
第9回	教員の職務と役割 ② 生徒指導から見る(金井)	事前: 配付プリントの学習(2時間程度)、事後: ノートの整理と補足プリントの学習(2時間程度)
第10回	教員の職務と役割 ③ 学級経営と特別活動(金井)	事前: 配付プリントの学習(2時間程度)、事後: ノートの整理と補足プリントの学習(2時間程度)
第11回	学校現場における今日的状況への対応(金井)	事前: 配付プリントの学習(2時間程度)、事後: ノートの整理と補足プリントの学習(2時間程度)
第12回	学校現場における教員の職務に関する振り返り(金井)	事前: 「補章「教員」を巡る諸問題」pp.88—109(2時間程度)、事後: ノートの整理と補足プリントの学習(2時間程度)
第13回	学校心理臨床から見た学校教育(上川)	事前: ウェブによる検索(「学校臨床」「スクール・カウンセラー」「スクール・ソーシャルワーカー」2時間程度)、事後: 補足プリントの学習(2時間程度)
第14回	学校心理臨床から見た教師と教育相談(上川)	事前: 配付プリントの学習(2時間程度)、事後: ノートの整理と補足プリントの学習(2時間程度)
第15回	教師と専門家が連携したチーム的対応(上川) 定期試験は実施しない。	事前: 配付プリントの学習(2時間程度)、事後: ノートの整理と補足プリントの学習(2時間程度)

科目名	教育行政学			開講年度	2020年度秋学期			
担当者	鈴木 清稔			配当年次	234			
科目ナンバリング	教職課程 TTT0006			単位数	2単位			
				授業形態(方法)	講義			
グレード	—							
科目区分	教職課程科目							
テーマ	戦後日本の教育行政—教育の諸制度とその運営—							
授業の目的及び概要	現代日本の公教育制度と教育法規、教育行政に関わる諸論点、諸問題などについて学びながら、公教育制度運営のシステムについて理解を深める。まずは、地方教育行政システムの在り方を時系列的にたどりながら、公教育制度とその制度運営としての教育行政の成り立ちを教育法制や教育行政システムの制度原理や在り方について理解し、さらに近年の教育改革に見られる制度改革や学校の在り方の改革の動向についても理解を深める。その際、近年注目されてきた学校安全についても理解を深める。							
履修の条件・注意	教職課程履修登録書提出者							
DPとの関連	本科目は、以下の学位授与の方針(DP)と関連した科目です。 経済学部経済学科DP2.情報活用能力、数的処理能力、日本語及び外国語能力、コミュニケーション能力とともに幅広い教養及び国際感覚を身につけている。 法学部法律学科DP4.論理的な思考力と豊かな表現力とともに幅広い教養および実践感覚を身につけている。							
学修の到達目標	1)現代日本の公教育の制度とその運営としての行政及び教育法制に関わる基礎的知識を身につけるとともに、その過程で、現代公教育制度の持つ意義やその制度原理、構造についての理解を深める。 2)学校の地域運営学校化や地域学校協働本部の設置などに見られる、学校を核とした地域の創生と地域の子どもの育成に向かう動向を踏まえて、学校と地域が連携する意義や地域との協働の在り方について、具体的に事例を通して理解する。 3)学校管理下で生じる事件、事故及び災害の実情から学びつつ、学校保健安全法に規定された学校安全(危機管理を含む)の目的・目標と具体的な方策について理解を深める。							
授業の方法	この科目は遠隔授業で行われます。詳細についてはLearning Portalを確認してください。なお、今後の新型コロナウイルスの感染状況等により授業方法が途中で変更となる場合があります。							
フィードバックの方法	授業時のノート作成については、翌週の授業時に相談に応じる。また、再履修の者については、前回試験の答案をもとに答案作成上の助言のための面談に応じる。							
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議							
実務経験のある教員による授業科目								
テキスト・参考書	テキスト 鈴木清稔『教育行政学 講義 増補改訂版—教育の制度とその運営—』 (大阪経済法科大学経法学会、2018年) 参考書・参考資料等 『中学校学習指導要領』(平成29年3月告示 文部科学省) 『高等学校学習指導要領』(平成30年3月告示 文部科学省)							
成績評価の方法・基準	積極的な参加度・取組み(%)	0	小テスト・理解度テストなど(%)	30	レポートなど授業外課題(%)	0	中間試験(%)	0
	レポート試験(%)	70	定期試験(%)	0	その他(%)			
この科目の履修にあたって	授業は、履修学生が少人数であることを生かして、多くの発問をしながら進めるので、“能動的な”「聞き」と積極的な回答が要求される。 また、授業中の資料提示が多いので、授業をサボっておいて、事後に配布プリントとノートを手入するだけでは、学修が不十分となるので、この自覚を持って、受講すること。 なお、授業に際しては出席を取るが、これは試験が出来なくても出席をすれば単位認定されるということではない。試験問題は、積極的な受講態度と自主的な学修態度がなければ解答困難なものである。テストは、記述式で出題することを原則としているので、なおのこと、授業での「聞き」に基づく主体的な学修と「書く力」が必要である。普段の授業において、講義内容を要約しつつメモを取り、ノート作成に努めておかなければ、テストで十分な解答はできない。 また、みだりに欠席や遅刻をしないよう心がけることが大事であるし、授業に大幅に遅れての入室は慎んでほしい。 出席状況や受講態度がとくによくない者については、学期末試験の受験を辞退してもらう場合がある。							
オフィスアワー	各教員のオフィスアワー受付曜日・時間・場所については、本学Webサイトの「オフィスアワー」ページに掲載しています。 <アクセス方法> 大学Webサイトの[トップページ]→[キャンパスライフ]→[教務情報]→[オフィスアワー] <URL> http://www.keiho-u.ac.jp/campuslife/affairs/officehour.html 授業の内容や学習上の問題などについて質問や相談を行いたい場合は、実施曜日・時間を確認のうえ実施場所を訪れてください。 ※なお、非専任講師については、担当授業前、終了後の教室や講師控室等での質問、相談を受け付けています。							

授業回	授業計画	事前事後学修(予習・復習等)
第1回	公教育制度原理と教育権の理念とその保障	事後:テキストpp. 4-5および補足プリントの学習、(合計4時間程度)
第2回	公教育に関わる法制度と行政とその課題	事前: テキストpp. 6-7、 事後: ノートの整理および補足プリントの学習、(合計4時間程度)
第3回	教育行政と教育制度の運営及び運営上の課題	事前: テキストpp. 8-9、 事後: ノートの整理および補足プリントの学習、(合計4時間程度)
第4回	教育行政の概念と基本原則とその課題	事前: テキストpp. 10-13、 事後: ノートの整理および補足プリントの学習、(合計4時間程度)

第5回	憲法・教育基本法制と教育行政・制度	事前：テキストpp. 14-19、事後：ノートの整理および補足プリントの学習、(合計4時間程度)
第6回	改正教育基本法と教育行政・制度	事前：テキストpp. 20-21、事後：ノートの整理および補足プリントの学習、(合計4時間程度)
第7回	中央と地方の教育行政機関と関連法規	事前：テキストpp. 22-23、事後：ノートの整理および補足プリントの学習、(合計4時間程度)
第8回	戦後の教育行政 ① 地方教育行政の制度理念とシステム	事前：テキストpp. 22-25、事後：ノートの整理および補足プリントの学習、(合計4時間程度)
第9回	戦後の教育行政 ② 公選制教育委員会	事前：テキストpp. 26-31、事後：ノートの整理および補足プリントの学習、(合計4時間程度)
第10回	戦後の教育行政 ③ 任命制教育委員会	事前：テキストpp. 32-44、事後：ノートの整理および補足プリントの学習、(合計4時間程度)
第11回	戦後の教育行政 ④ 2007年までの改革	事前：テキストpp. 45-49、事後：ノートの整理および補足プリントの学習、(合計4時間程度)
第12回	教育基本法改正に伴う教育三法改正による改革	事前：テキストpp. 50-53、事後：ノートの整理および補足プリントの学習、(合計4時間程度)
第13回	第二次安倍内閣以降の教育改革 新教育委員会制度	事前：テキストpp. 54-67、事後：ノートの整理および補足プリントの学習、(合計4時間程度)
第14回	第三次安倍内閣以降の教育改革 ① 地域・学校創生と学校安全	事前：テキストpp. 68-73、88-93 事後：ノートの整理および補足プリントの学習、(合計4時間程度)
第15回	第三次安倍内閣以降の教育改革 ② 地域・学校創生と学校安全の実際と課題	事前：テキストpp. 94-99、事後：ノートの整理および補足プリントの学習、(合計4時間程度)

科目名	教育行政学	開講年度	2020年度春学期					
担当者	鈴木 清稔	配当年次	234					
科目ナンバリング	教職課程 TTT0006	単位数	2単位					
		授業形態(方法)	講義					
グレード	—							
科目区分	教職課程科目							
テーマ	戦後日本の教育行政—教育の諸制度とその運営—							
授業の目的及び概要	現代日本の公教育制度と教育法規、教育行政に関わる諸論点、諸問題などについて学びながら、公教育制度運営のシステムについて理解を深める。まずは、地方教育行政システムの在り方を時系列的にたどりながら、公教育制度とその制度運営としての教育行政の成り立ちを教育法制や教育行政システムの制度原理や在り方について理解し、さらに近年の教育改革に見られる制度改革や学校の在り方の改革の動向についても理解を深める。その際、近年注目されてきた学校安全についても理解を深める。							
履修の条件・注意	教職課程履修登録書提出者							
DPとの関連	本科目は、以下の学位授与の方針(DP)と関連した科目です。 経済学部経済学科DP2.情報活用能力、数的処理能力、日本語及び外国語能力、コミュニケーション能力とともに幅広い教養及び国際感覚を身につけている。 法学部法律学科DP4.論理的な思考力と豊かな表現力とともに幅広い教養および実践感覚を身につけている。							
学修の到達目標	1)現代日本の公教育の制度とその運営としての行政及び教育法制に関わる基礎的知識を身につけるとともに、その過程で、現代公教育制度の持つ意義やその制度原理、構造についての理解を深める。 2)学校の地域運営学校化や地域学校協働本部の設置などに見られる、学校を核とした地域の創生と地域の子どもの育成に向かう動向を踏まえて、学校と地域が連携する意義や地域との協働の在り方について、具体的に事例を通して理解する。 3)学校管理下で生じる事件、事故及び災害の実情から学びつつ、学校保健安全法に規定された学校安全(危機管理を含む)の目的・目標と具体的な方策について理解を深める。							
授業の方法	授業は、主に講義の形態を取る。 下記項目記載のテキストを使用し、板書、配布プリントによって授業を進める。このテキストに、板書を写したり、講義を聴いて各自がメモを書き込んだりしつつ、受講生各自がノートを作成していく。なお、受講生の復習やノート作成状況については、その次の授業時に確認し、フィードバックする。 また、ときには、パソコンによってウェブ上の資料を提示したり、写真等の視覚資料の提示も行う。							
フィードバックの方法	授業時のノート作成については、翌週の授業時に相談に応じる。また、再履修の者については、前回試験の答案をもとに答案作成上の助言のための面談に応じる。							
アクティブ・ラーニングの取組み								
実務経験のある教員による授業科目								
テキスト・参考書	テキスト 鈴木清稔『教育行政学 講義 増補改訂版—教育の制度とその運営—』 (大阪経済法科大学経法学会、2018年) 参考書・参考資料等 『中学校学習指導要領』(平成29年3月告示 文部科学省) 『高等学校学習指導要領』(平成30年3月告示 文部科学省)							
成績評価の方法・基準	積極的な参加度・取組み(%)	20	小テスト・理解度テストなど(%)	0	レポートなど授業外課題(%)	0	中間試験(%)	0
	レポート試験(%)	0	定期試験(%)	80	その他(%)			
この科目の履修にあたって	授業は、履修学生が少人数であることを生かして、多くの発問をしながら進めるので、 “能動的な”「聞き」と積極的な回答が要求される。 また、授業中の資料提示が多いので、授業をサボっておいて、事後に配布プリントとノートを入手するだけでは、学修が不十分となるので、この自覚を持って、受講すること。 なお、授業に際しては出席を取るが、これは試験が出来なくても出席をすれば単位認定されるということではない。試験問題は、積極的な受講態度と自主的な学修態度がなければ解答困難なものである。テストは、記述式で出題することを原則としているので、なおのこと、授業での「聞き」に基づく主体的な学修と「書く力」が必要である。普段の授業において、講義内容を要約しつつメモを取り、ノート作成に努めておかなければ、テストで十分な解答はできない。 また、みだりに欠席や遅刻をしないよう心がけることが大事であるし、授業に大幅に遅れての入室は慎んでもらいたい。 出席状況や受講態度がとくによくない者については、学期末試験の受験を辞退してもらう場合がある。							
オフィスアワー	各教員のオフィスアワー受付曜日・時間・場所については、本学Webサイトの「オフィスアワー」ページに掲載しています。 <アクセス方法> 大学Webサイトの「トップページ」→「キャンパスライフ」→「教務情報」→「オフィスアワー」 <URL> http://www.keiho-u.ac.jp/campuslife/affairs/officehour.html 授業の内容や学習上の問題などについて質問や相談を行いたい場合は、実施曜日・時限を確認のうえ実施場所を訪れてください。 ※なお、非専任講師については、担当授業前、終了後の教室や講師控室等での質問、相談を受け付けています。							

授業回	授業計画	事前事後学修(予習・復習等)
第1回	公教育制度原理と教育権の理念とその保障	事後:テキストpp. 4-5および補足プリントの学習、(合計4時間程度)
第2回	公教育に関わる法制度と行政とその課題	事前: テキストpp. 6-7、 事後: ノートの整理および補足プリントの学習、(合計4時間程度)
第3回	教育行政と教育制度の運営及び運営上の課題	事前: テキストpp. 8-9、 事後: ノートの整理および補足プリントの学習、(合計4時間程度)
第4回	教育行政の概念と基本原則とその課題	事前: テキストpp. 10-13、 事後: ノートの整理および補足プリントの学習、(合計4時間程度)

第5回	憲法・教育基本法制と教育行政・制度	事前：テキストpp. 14-19、事後：ノートの整理および補足プリントの学習、(合計4時間程度)
第6回	改正教育基本法と教育行政・制度	事前：テキストpp. 20-21、事後：ノートの整理および補足プリントの学習、(合計4時間程度)
第7回	中央と地方の教育行政機関と関連法規	事前：テキストpp. 22-23、事後：ノートの整理および補足プリントの学習、(合計4時間程度)
第8回	戦後の教育行政 ① 地方教育行政の制度理念とシステム	事前：テキストpp. 22-25、事後：ノートの整理および補足プリントの学習、(合計4時間程度)
第9回	戦後の教育行政 ② 公選制教育委員会	事前：テキストpp. 26-31、事後：ノートの整理および補足プリントの学習、(合計4時間程度)
第10回	戦後の教育行政 ③ 任命制教育委員会	事前：テキストpp. 32-44、事後：ノートの整理および補足プリントの学習、(合計4時間程度)
第11回	戦後の教育行政 ④ 2007年までの改革	事前：テキストpp. 45-49、事後：ノートの整理および補足プリントの学習、(合計4時間程度)
第12回	教育基本法改正に伴う教育三法改正による改革	事前：テキストpp. 50-53、事後：ノートの整理および補足プリントの学習、(合計4時間程度)
第13回	第二次安倍内閣以降の教育改革 新教育委員会制度	事前：テキストpp. 54-67、事後：ノートの整理および補足プリントの学習、(合計4時間程度)
第14回	第三次安倍内閣以降の教育改革 ① 地域・学校創生と学校安全	事前：テキストpp. 68-73、88-93 事後：ノートの整理および補足プリントの学習、(合計4時間程度)
第15回	第三次安倍内閣以降の教育改革 ② 地域・学校創生と学校安全の実際と課題	事前：テキストpp. 94-99、事後：ノートの整理および補足プリントの学習、(合計4時間程度)

科目名	教育心理学		開講年度	2020年度春学期、2020年度秋学期				
担当者	下山 恵子		配当年次	234				
科目ナンバリング	教職課程 TTT0007		単位数	4単位				
			授業形態(方法)	講義				
グレード	—							
科目区分	教職課程科目							
テーマ	幼児、児童及び生徒の発達と学習に関する知識及びその心理的特性を踏まえた教育指導の基盤形成							
授業の目的及び概要	<p>教育に関する、以下の心理学的知見を取り扱う。</p> <p>1)記憶や学習など認知に関わる心理学的知識を学ぶ。 2)教授の方法や過程に関する研究、学習評価といった学習に関わる心理過程について学ぶ。 3)運動、言語、認知、社会性といった人間の成長発達の理解とその特性について学ぶ。 4)個々の生徒の特性についての理解を深めるために、パーソナリティ心理学的内容を学ぶ。 5)学級経営など集団における人間関係、教師・生徒相互のかかわりについて社会心理学的内容を学ぶ。 6)生徒の心の悩みやカウンセリング、特別支援について臨床心理学的内容を学ぶ。</p>							
履修の条件・注意	教職課程履修登録書提出者							
DPとの関連	<p>本科目は、以下の学位授与の方針(DP)と関連した科目です。</p> <p>経済学部経済学科DP2. 情報活用能力、数的処理能力、日本語及び外国語能力、コミュニケーション能力とともに幅広い教養及び国際感覚を身につけている。</p> <p>法学部法律学科DP4. 論理的な思考力と豊かな表現力とともに幅広い教養および実践感覚を身につけている。</p>							
学修の到達目標	<p>1)発達と学習の過程の心理的特性を理解し、それらの特性に応じた教育指導の在り方を知る。</p> <p>2)生徒の発達と学習の過程の特性に応じた教育指導のための基礎となる知識や考え方について理解を深め、個に応じた適切な人間関係形成力をつける。</p> <p>3)生徒の教育・学習環境への適応を援助する教師の在り方について理解を深める。</p>							
授業の方法	この科目は遠隔授業で行われます。詳細についてはLearning Portalを確認してください。なお、今後の新型コロナウイルスの感染状況等により授業方法が途中で変更となる場合があります。							
フィードバックの方法	適時講評を行う。							
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議							
実務経験のある教員による授業科目								
テキスト・参考書	<p>テキスト</p> <p>笹井恵子『教育心理学Ⅰ』(大阪経済法科大学経済学会、2017年)</p> <p>笹井恵子『教育心理学Ⅱ』(大阪経済法科大学経済学会、2017年)</p> <p>参考書・参考資料等</p> <p>『中学校学習指導要領』(平成29年3月告示 文部科学省)</p> <p>『高等学校学習指導要領』(平成30年3月告示 文部科学省)</p>							
成績評価の方法・基準	積極的な参加度・取組み(%)	20	小テスト・理解度テストなど(%)	0	レポートなど授業外課題(%)	30	中間試験(%)	0
	レポート試験(%)	0	定期試験(%)	0	その他(%)	50%(授業内でのプレゼンテーションの実施)		
この科目の履修にあたって	問題意識を持って、主体的に授業に臨んでください。分からないことがあった時は、必ず、質問してください。小テストの実施、レポート課題などがあります。							
オフィスアワー	<p>各教員のオフィスアワー受付曜日・時間・場所については、本学Webサイトの「オフィスアワー」ページに掲載しています。</p> <p><アクセス方法></p> <p>大学Webサイトの[トップページ]→[キャンパスライフ]→[教務情報]→[オフィスアワー]</p> <p><URL></p> <p>http://www.keiho-u.ac.jp/campuslife/affairs/officehour.html</p> <p>授業の内容や学習上の問題などについて質問や相談を行いたい場合は、実施曜日・時限を確認のうえ実施場所を訪れてください。</p> <p>※なお、非専任講師については、担当授業前、終了後の教室や講師控室等での質問、相談を受け付けています。</p>							

授業回	授業計画	事前事後学修(予習・復習等)
第1回	学校と社会の現状 ① 学校と社会の現状と課題	教育心理学Ⅰの1~2ページを利用し、しっかりとノートまとめをして復習をしておくこと。(1時間程度)
第2回	学校と社会の現状 ② 生徒の生活を取り巻く状況と課題	教育心理学Ⅰの3~6ページを利用し、しっかりとノートまとめをして復習をすること。(1時間程度)
第3回	学校と社会の現状 ③ 教師を取り巻く状況と課題	教育心理学Ⅰの1~11ページを参考にし、教師のあり方について発表の準備をしておくこと。 授業後は、教育心理学Ⅰの7~11ページを利用し、しっかりとノートまとめをして復習をすること。しっかりとノートまとめをして復習をすること。(1時間程度)
第4回	生徒との関わりに関する知識と指導 ① 生徒との人間関係と傾聴	教育心理学Ⅰの12~16ページを利用し、しっかりとノートまとめをして復習をすること。 傾聴のスキルを日常生活でも活かしてみること。(1時間程度)
第5回	生徒との関わりに関する知識と指導 ② 人間関係上の問題とその解決	教育心理学Ⅰの17~19ページを利用し、しっかりとノートまとめをして復習をすること。 課題解決方法について、自身のテーマを実践して報告する準備をしておくこと。(1時間程度)

第6回	生徒との関わりに関する知識と指導 ③ 人間関係上の対立解消法	教育心理学Ⅰの20～23ページを利用し、しっかりとノートまとめをして復習をすること。 身近なところで、対立解消の方法を活かし、報告の準備をすること。(1時間程度)
第7回	発達過程を捉えるための知見 ① 発達過程の諸側面(運動・言語・認知・社会性)	教育心理学Ⅰの24～28ページを利用し、しっかりとノートまとめをして復習をし、小テストの準備をしておくこと。(1時間程度)
第8回	発達過程を捉えるための知見 ② 発達過程に関する諸理論にみる発達概念	教育心理学Ⅰの29～34ページを利用し、しっかりとノートまとめをして復習をし、小テストの準備をしておくこと。(1時間程度)
第9回	発達過程を捉えるための知見 ③ 発達の諸概念と教育における発達理解の意義	教育心理学Ⅰの35～40ページを利用し、しっかりとノートまとめをして復習をし、小テストの準備をしておくこと。(1時間程度)
第10回	学習指導に関わる心理学的知見 ① 学習に関する諸理論	教育心理学Ⅰの41～45ページを利用し、しっかりとノートまとめをして復習をし、小テストの準備をしておくこと。(1時間程度)
第11回	学習指導に関わる心理学的知見 ② 学習理論からみた学習指導の要点	教育心理学Ⅰの46～49ページを利用し、しっかりとノートまとめをして復習をし、小テストの準備をしておくこと。(1時間程度)
第12回	学習指導に関わる心理学的知見 ③ 動機付け・欲求理論と学習意欲	教育心理学Ⅰの50～54ページを利用し、しっかりとノートまとめをして復習をし、小テストの準備をしておくこと。(1時間程度)
第13回	学習指導に関わる心理学的知見 ④ 記憶理論からみた知識の獲得	教育心理学Ⅰの55～58ページを利用し、しっかりとノートまとめをして復習をし、小テストの準備をしておくこと。(1時間程度)
第14回	学習指導に関わる心理学的知見 ⑤ 学習指導と教育学	教育心理学Ⅰの59～61ページを利用し、しっかりとノートまとめをして復習をすること。(1時間程度)
第15回	学習指導に関わる心理学的知見 ⑥ 教育学と授業の実際	教育心理学Ⅰを参考に総復習をしておくこと。(1時間程度)
第16回	学習評価に関わる心理学的知見 さまざまな学習の評価法と評価の要点	教育心理学Ⅱの1ページ～5ページを利用し、しっかりとノートまとめして復習をし、小テストの準備をすること。(1時間程度)
第17回	生徒の評価に関わる心理学的知見 生徒の評価と生徒指導	教育心理学Ⅱの6ページ～9ページを利用し、しっかりとノートまとめして復習をし、小テストの準備をすること。(1時間程度)
第18回	学級経営に関わる心理学的知見 ① 学級の心理、集団作りとリーダーシップ	教育心理学Ⅱの10ページ～14ページを利用し、しっかりとノートまとめして復習をし、小テストの準備をすること。(1時間程度)
第19回	学級経営に関わる心理学的知見 ② 性格形成や性格理論と生徒理解	教育心理学Ⅱの15ページ～22ページを利用し、しっかりとノートまとめして復習をし、小テストの準備をすること。(1時間程度)
第20回	生徒の心に関わる心理学的知見 ① いじめにみる外的要因・内的要因	教育心理学Ⅱの23ページ～28ページを利用し、しっかりとノートまとめして復習をし、小テストの準備をすること。(1時間程度)
第21回	生徒の心に関わる心理学的知見 ② いじめの具体的事例から学ぶ	いじめに関し、事例を挙げ、具体的な対応方法について発表の準備をしておくこと。(1時間程度)
第22回	生徒の心に関わる心理学的知見 ③ 不登校にみる外的要因・内的要因	教育心理学Ⅱの29ページ～33ページを利用し、しっかりとノートまとめして復習をし、小テストの準備をすること。(1時間程度)
第23回	生徒の心に関わる心理学的知見 ④ 不登校の具体的事例から学ぶ	不登校に関し、事例を挙げ、具体的な対応方法について発表の準備をしておくこと。(1時間程度)
第24回	生徒の心に関わる心理学的知見 ⑤ 非行と学校の荒れにみる外的要因・内的要因	教育心理学Ⅱの34ページ～38ページを利用し、しっかりとノートまとめして復習をし、小テストの準備をすること。(1時間程度)
第25回	生徒の心に関わる心理学的知見 ⑥ 非行と学校の荒れに対する取り組みから学ぶ	非行や学校の荒れに関し、事例を挙げ、具体的な対応方法について、発表の準備をしておくこと。(1時間程度)
第26回	生徒の心に関わる心理学的知見 ⑦ 虐待から学ぶ	教育心理学Ⅱの39ページ～43ページを利用し、しっかりとノートまとめして復習をし、小テストの準備をすること。(1時間程度)
第27回	生徒の心に関わる心理学的知見 ⑧ 生徒のストレスと教師の関わり方	教育心理学Ⅱの44ページ～47ページを利用し、しっかりとノートまとめして復習をし、小テストの準備をすること。(1時間程度)
第28回	生徒の心に関わる心理学的知見 ⑨ 発達障がいの特徴と教師の関わり方	教育心理学Ⅱの48ページ～56ページを利用し、しっかりとノートまとめして復習をし、小テストの準備をすること。(1時間程度)
第29回	生徒の心に関わる心理学的知見 ⑩ 心の病と教師の関わり方	教育心理学Ⅱの57ページ～65ページを利用し、しっかりとノートまとめして復習をし、小テストの準備をすること。(1時間程度)
第30回	生徒の心に関わる心理学的知見 ⑪ カウンセリングと心理療法について学ぶ 定期試験は実施しない。	教育心理学Ⅱの66ページ～72ページを利用し、しっかりとノートまとめして復習をし、小テストの準備をすること。(1時間程度)

科目名	教育心理学			開講年度	2020年度春学期、2020年度秋学期			
担当者	下山 恵子			配当年次	234			
科目ナンバリング	教職課程 TTT0007			単位数	4単位			
				授業形態(方法)	講義			
グレード	—							
科目区分	教職課程科目							
テーマ	幼児、児童及び生徒の発達と学習に関する知識及びその心理的特性を踏まえた教育指導の基盤形成							
授業の目的及び概要	<p>教育に関する、以下の心理学的知見を取り扱う。</p> <p>1) 記憶や学習など認知に関わる心理学的知識を学ぶ。</p> <p>2) 教授の方法や過程に関する研究、学習評価といった学習に関わる心理過程について学ぶ。</p> <p>3) 運動、言語、認知、社会性といった人間の成長発達の理解とその特性について学ぶ。</p> <p>4) 個々の生徒の特性についての理解を深めるために、パーソナリティ心理学的内容を学ぶ。</p> <p>5) 学級経営など集団における人間関係、教師・生徒相互のかかわりについて社会心理学的内容を学ぶ。</p> <p>6) 生徒の心の悩みやカウンセリング、特別支援について臨床心理学的内容を学ぶ。</p>							
履修の条件・注意	教職課程履修登録書提出者							
DPとの関連	<p>本科目は、以下の学位授与の方針(DP)と関連した科目です。</p> <p>経済学部経済学科DP2. 情報活用能力、数的処理能力、日本語及び外国語能力、コミュニケーション能力とともに幅広い教養及び国際感覚を身につけている。</p> <p>法学部法律学科DP4. 論理的な思考力と豊かな表現力とともに幅広い教養および実践感覚を身につけている。</p>							
学修の到達目標	<p>1) 発達と学習の過程の心理的特性を理解し、それらの特性に応じた教育指導の在り方を知る。</p> <p>2) 生徒の発達と学習の過程の特性に応じた教育指導のための基礎となる知識や考え方について理解を深め、個に応じた適切な人間関係形成力をつける。</p> <p>3) 生徒の教育・学習環境への適応を援助する教師の在り方について理解を深める。</p>							
授業の方法	この科目は遠隔授業で行われます。詳細についてはLearning Portalを確認してください。なお、今後の新型コロナウイルスの感染状況等により授業方法が途中で変更となる場合があります。							
フィードバックの方法	適時講評を行う。							
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議							
実務経験のある教員による授業科目								
テキスト・参考書	<p>参考書・参考資料等</p> <p>『中学校学習指導要領』(平成29年3月告示 文部科学省)</p> <p>『高等学校学習指導要領』(平成30年3月告示 文部科学省)</p>							
成績評価の方法・基準	積極的な参加度・取組み(%)	20	小テスト・理解度テストなど(%)	0	レポートなど授業外課題(%)	30	中間試験(%)	0
	レポート試験(%)	0	定期試験(%)	0	その他(%)	50(授業内でのプレゼンテーションの実施)		
この科目の履修にあたって	<p>問題意識を持って、主体的に授業に臨んでください。</p> <p>分からないことがあった時は、必ず、質問してください。</p> <p>小テストの実施、レポート課題などがあります。</p>							
オフィスアワー	<p>各教員のオフィスアワー受付曜日・時間・場所については、本学Webサイトの「オフィスアワー」ページに掲載しています。</p> <p><アクセス方法></p> <p>大学Webサイトの[トップページ]→[キャンパスライフ]→[教務情報]→[オフィスアワー]</p> <p><URL></p> <p>http://www.keiho-u.ac.jp/campuslife/affairs/officehour.html</p> <p>授業の内容や学習上の問題などについて質問や相談を行いたい場合は、実施曜日・時限を確認のうえ実施場所を訪れてください。</p> <p>※なお、非専任講師については、担当授業前、終了後の教室や講師控室等での質問、相談を受け付けています。</p>							

授業回	授業計画	事前事後学修(予習・復習等)
第1回	学校と社会の現状 ① 学校と社会の現状と課題	教育心理学Ⅰの1～2ページを利用し、しっかりとノートまとめをして復習をしておくこと。(1時間程度)
第2回	学校と社会の現状 ② 生徒の生活を取り巻く状況と課題	教育心理学Ⅰの3～6ページを利用し、しっかりとノートまとめをして復習をすること。(1時間程度)
第3回	学校と社会の現状 ③ 教師を取り巻く状況と課題	教育心理学Ⅰの1～11ページを参考にし、教師のあり方について発表の準備をしておくこと。 授業後は、教育心理学Ⅰの7～11ページを利用し、しっかりとノートまとめをして復習をすること。しっかりとノートまとめをして復習をすること。(1時間程度)
第4回	生徒との関わりに関する知識と指導 ① 生徒との人間関係と傾聴	教育心理学Ⅰの12～16ページを利用し、しっかりとノートまとめをして復習をすること。 傾聴のスキルを日常生活でも活かしてみること。(1時間程度)
第5回	生徒との関わりに関する知識と指導 ② 人間関係上の問題とその解決	教育心理学Ⅰの17～19ページを利用し、しっかりとノートまとめをして復習をすること。 課題解決方法について、自身のテーマを実践して報告する準備をしておくこと。(1時間程度)
第6回	生徒との関わりに関する知識と指導 ③ 人間関係上の対立解消法	教育心理学Ⅰの20～23ページを利用し、しっかりとノートまとめをして復習をすること。 身近なところで、対立解消の方法を活かし、報告の準備をすること。(1時間程度)

第7回	発達過程を捉えるための知見 ① 発達過程の諸側面(運動・言語・認知・社会性)	教育心理学Ⅰの24～28ページを利用し、しっかりとノートまとめをして復習をし、小テストの準備をしておくこと。(1時間程度)
第8回	発達過程を捉えるための知見 ② 発達過程に関する諸理論にみる発達概念	教育心理学Ⅰの29～34ページを利用し、しっかりとノートまとめをして復習をし、小テストの準備をしておくこと。(1時間程度)
第9回	発達過程を捉えるための知見 ③ 発達の諸概念と教育における発達理解の意義	教育心理学Ⅰの35～40ページを利用し、しっかりとノートまとめをして復習をし、小テストの準備をしておくこと。(1時間程度)
第10回	学習指導に関わる心理学的知見 ① 学習に関する諸理論	教育心理学Ⅰの41～45ページを利用し、しっかりとノートまとめをして復習をし、小テストの準備をしておくこと。(1時間程度)
第11回	学習指導に関わる心理学的知見 ② 学習理論からみた学習指導の要点	教育心理学Ⅰの46～49ページを利用し、しっかりとノートまとめをして復習をし、小テストの準備をしておくこと。(1時間程度)
第12回	学習指導に関わる心理学的知見 ③ 動機付け・欲求理論と学習意欲	教育心理学Ⅰの50～54ページを利用し、しっかりとノートまとめをして復習をし、小テストの準備をしておくこと。(1時間程度)
第13回	学習指導に関わる心理学的知見 ④ 記憶理論からみた知識の獲得	教育心理学Ⅰの55～58ページを利用し、しっかりとノートまとめをして復習をし、小テストの準備をしておくこと。(1時間程度)
第14回	学習指導に関わる心理学的知見 ⑤ 学習指導と教育工学	教育心理学Ⅰの59～61ページを利用し、しっかりとノートまとめをして復習をすること。(1時間程度)
第15回	学習指導に関わる心理学的知見 ⑥ 教育工学と授業の実際	教育心理学Ⅰを参考に総復習をしておくこと。(1時間程度)
第16回	学習評価に関わる心理学的知見 さまざまな学習の評価法と評価の要点	教育心理学Ⅱの1ページ～5ページを利用し、しっかりとノートまとめして復習をし、小テストの準備をすること。(1時間程度)
第17回	生徒の評価に関わる心理学的知見 生徒の評価と生徒指導	教育心理学Ⅱの6ページ～9ページを利用し、しっかりとノートまとめして復習をし、小テストの準備をすること。(1時間程度)
第18回	学級経営に関わる心理学的知見 ① 学級の心理、集団作りとリーダーシップ	教育心理学Ⅱの10ページ～14ページを利用し、しっかりとノートまとめして復習をし、小テストの準備をすること。(1時間程度)
第19回	学級経営に関わる心理学的知見 ② 性格形成や性格理論と生徒理解	教育心理学Ⅱの15ページ～22ページを利用し、しっかりとノートまとめして復習をし、小テストの準備をすること。(1時間程度)
第20回	生徒の心に関わる心理学的知見 ① いじめにみる外的要因・内的要因	教育心理学Ⅱの23ページ～28ページを利用し、しっかりとノートまとめして復習をし、小テストの準備をすること。(1時間程度)
第21回	生徒の心に関わる心理学的知見 ② いじめの具体的事例から学ぶ	いじめに関し、事例を挙げ、具体的な対応方法について発表の準備をしておくこと。(1時間程度)
第22回	生徒の心に関わる心理学的知見 ③ 不登校にみる外的要因・内的要因	教育心理学Ⅱの29ページ～33ページを利用し、しっかりとノートまとめして復習をし、小テストの準備をすること。(1時間程度)
第23回	生徒の心に関わる心理学的知見 ④ 不登校の具体的事例から学ぶ	不登校に関し、事例を挙げ、具体的な対応方法について発表の準備をしておくこと。(1時間程度)
第24回	生徒の心に関わる心理学的知見 ⑤ 非行と学校の荒れにみる外的要因・内的要因	教育心理学Ⅱの34ページ～38ページを利用し、しっかりとノートまとめして復習をし、小テストの準備をすること。(1時間程度)
第25回	生徒の心に関わる心理学的知見 ⑥ 非行と学校の荒れに対する取り組みから学ぶ	非行や学校の荒れに関し、事例を挙げ、具体的な対応方法について、発表の準備をしておくこと。(1時間程度)
第26回	生徒の心に関わる心理学的知見 ⑦ 虐待から学ぶ	教育心理学Ⅱの39ページ～43ページを利用し、しっかりとノートまとめして復習をし、小テストの準備をすること。(1時間程度)
第27回	生徒の心に関わる心理学的知見 ⑧ 生徒のストレスと教師の関わり方	教育心理学Ⅱの44ページ～47ページを利用し、しっかりとノートまとめして復習をし、小テストの準備をすること。(1時間程度)
第28回	生徒の心に関わる心理学的知見 ⑨ 発達障がいの特徴と教師の関わり方	教育心理学Ⅱの48ページ～56ページを利用し、しっかりとノートまとめして復習をし、小テストの準備をすること。(1時間程度)
第29回	生徒の心に関わる心理学的知見 ⑩ 心の病と教師の関わり方	教育心理学Ⅱの57ページ～65ページを利用し、しっかりとノートまとめして復習をし、小テストの準備をすること。(1時間程度)
第30回	生徒の心に関わる心理学的知見 ⑪ カウンセリングと心理療法について学ぶ 定期試験は実施しない。	教育心理学Ⅱの66ページ～72ページを利用し、しっかりとノートまとめして復習をし、小テストの準備をすること。(1時間程度)

科目名	教育心理学	開講年度	2020年度春学期、2020年度秋学期					
担当者	下山 恵子	配当年次	234					
科目ナンバリング	教職課程 TTT0007	単位数	4単位					
		授業形態(方法)	講義					
グレード	—							
科目区分	教職課程科目							
テーマ	幼児、児童及び生徒の発達と学習に関する知識及びその心理的特性を踏まえた教育指導の基盤形成							
授業の目的及び概要	<p>教育に関する、以下の心理学的知見を取り扱う。</p> <p>1) 記憶や学習など認知に関わる心理学的知識を学ぶ。</p> <p>2) 教授の方法や過程に関する研究、学習評価といった学習に関わる心理過程について学ぶ。</p> <p>3) 運動、言語、認知、社会性といった人間の成長発達の理解とその特性について学ぶ。</p> <p>4) 個々の生徒の特性についての理解を深めるために、パーソナリティ心理学的内容を学ぶ。</p> <p>5) 学級経営など集団における人間関係、教師・生徒相互のかかわりについて社会心理学的内容を学ぶ。</p> <p>6) 生徒の心の悩みやカウンセリング、特別支援について臨床心理学的内容を学ぶ。</p>							
履修の条件・注意	教職課程履修登録書提出者							
DPとの関連	<p>本科目は、以下の学位授与の方針(DP)と関連した科目です。</p> <p>経済学部経済学科DP2. 情報活用能力、数的処理能力、日本語及び外国語能力、コミュニケーション能力とともに幅広い教養及び国際感覚を身につけている。</p> <p>法学部法律学科DP4. 論理的な思考力と豊かな表現力とともに幅広い教養および実践感覚を身につけている。</p>							
学修の到達目標	<p>1) 発達と学習の過程の心理的特性を理解し、それらの特性に応じた教育指導の在り方を知る。</p> <p>2) 生徒の発達と学習の過程の特性に応じた教育指導のための基礎となる知識や考え方について理解を深め、個に応じた適切な人間関係形成力をつける。</p> <p>3) 生徒の教育・学習環境への適応を援助する教師の在り方について理解を深める。</p>							
授業の方法	この科目は遠隔授業で行われます。詳細についてはLearning Portalを確認してください。なお、今後の新型コロナウイルスの感染状況等により授業方法が途中で変更となる場合があります。							
フィードバックの方法	適時講評を行う。							
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議							
実務経験のある教員による授業科目								
テキスト・参考書	<p>テキスト</p> <p>笹井恵子『教育心理学Ⅰ』(大阪経済法科大学経済学会、2017年)</p> <p>笹井恵子『教育心理学Ⅱ』(大阪経済法科大学経済学会、2017年)</p> <p>参考書・参考資料等</p> <p>『中学校学習指導要領』(平成29年3月告示 文部科学省)</p> <p>『高等学校学習指導要領』(平成30年3月告示 文部科学省)</p>							
成績評価の方法・基準	積極的な参加度・取組み(%)	20	小テスト・理解度テストなど(%)	0	レポートなど授業外課題(%)	30	中間試験(%)	0
	レポート試験(%)	0	定期試験(%)	0	その他(%)	50%(授業内でのプレゼンテーションの実施)		
この科目の履修にあたって	問題意識を持って、主体的に授業に臨んでください。分からないことがあった時は、必ず、質問してください。小テストの実施、レポート課題などがあります。							
オフィスアワー	<p>各教員のオフィスアワー受付曜日・時間・場所については、本学Webサイトの「オフィスアワー」ページに掲載しています。</p> <p><アクセス方法></p> <p>大学Webサイトの[トップページ]→[キャンパスライフ]→[教務情報]→[オフィスアワー]</p> <p><URL></p> <p>http://www.keiho-u.ac.jp/campuslife/affairs/officehour.html</p> <p>授業の内容や学習上の問題などについて質問や相談を行いたい場合は、実施曜日・時限を確認のうえ実施場所を訪れてください。</p> <p>※なお、非専任講師については、担当授業前、終了後の教室や講師控室等での質問、相談を受け付けています。</p>							

授業回	授業計画	事前事後学修(予習・復習等)
第1回	学校と社会の現状 ① 学校と社会の現状と課題	教育心理学Ⅰの1~2ページを利用し、しっかりとノートまとめをして復習をしておくこと。(1時間程度)
第2回	学校と社会の現状 ② 生徒の生活を取り巻く状況と課題	教育心理学Ⅰの3~6ページを利用し、しっかりとノートまとめをして復習をすること。(1時間程度)
第3回	学校と社会の現状 ③ 教師を取り巻く状況と課題	教育心理学Ⅰの7~11ページを参考にし、教師のあり方について発表の準備をしておくこと。 授業後は、教育心理学Ⅰの7~11ページを利用し、しっかりとノートまとめをして復習をすること。しっかりとノートまとめをして復習をすること。(1時間程度)
第4回	生徒との関わりに関する知識と指導 ① 生徒との人間関係と傾聴	教育心理学Ⅰの12~16ページを利用し、しっかりとノートまとめをして復習をすること。 傾聴のスキルを日常生活でも活かしてみること。(1時間程度)
第5回	生徒との関わりに関する知識と指導 ② 人間関係上の問題とその解決	教育心理学Ⅰの17~19ページを利用し、しっかりとノートまとめをして復習をすること。 課題解決方法について、自身のテーマを実践して報告する準備をしておくこと。(1時間程度)

第6回	生徒との関わりに関する知識と指導 ③ 人間関係上の対立解消法	教育心理学Ⅰの20～23ページを利用し、しっかりとノートまとめをして復習をすること。 身近なところで、対立解消の方法を活かし、報告の準備をすること。(1時間程度)
第7回	発達過程を捉えるための知見 ① 発達過程の諸側面(運動・言語・認知・社会性)	教育心理学Ⅰの24～28ページを利用し、しっかりとノートまとめをして復習をし、小テストの準備をしておくこと。(1時間程度)
第8回	発達過程を捉えるための知見 ② 発達過程に関する諸理論にみる発達概念	教育心理学Ⅰの29～34ページを利用し、しっかりとノートまとめをして復習をし、小テストの準備をしておくこと。(1時間程度)
第9回	発達過程を捉えるための知見 ③ 発達の諸概念と教育における発達理解の意義	教育心理学Ⅰの35～40ページを利用し、しっかりとノートまとめをして復習をし、小テストの準備をしておくこと。(1時間程度)
第10回	学習指導に関わる心理学的知見 ① 学習に関する諸理論	教育心理学Ⅰの41～45ページを利用し、しっかりとノートまとめをして復習をし、小テストの準備をしておくこと。(1時間程度)
第11回	学習指導に関わる心理学的知見 ② 学習理論からみた学習指導の要点	教育心理学Ⅰの46～49ページを利用し、しっかりとノートまとめをして復習をし、小テストの準備をしておくこと。(1時間程度)
第12回	学習指導に関わる心理学的知見 ③ 動機付け・欲求理論と学習意欲	教育心理学Ⅰの50～54ページを利用し、しっかりとノートまとめをして復習をし、小テストの準備をしておくこと。(1時間程度)
第13回	学習指導に関わる心理学的知見 ④ 記憶理論からみた知識の獲得	教育心理学Ⅰの55～58ページを利用し、しっかりとノートまとめをして復習をし、小テストの準備をしておくこと。(1時間程度)
第14回	学習指導に関わる心理学的知見 ⑤ 学習指導と教育学	教育心理学Ⅰの59～61ページを利用し、しっかりとノートまとめをして復習をすること。(1時間程度)
第15回	学習指導に関わる心理学的知見 ⑥ 教育学と授業の実際	教育心理学Ⅰを参考に総復習をしておくこと。(1時間程度)
第16回	学習評価に関わる心理学的知見 さまざまな学習の評価法と評価の要点	教育心理学Ⅱの1ページ～5ページを利用し、しっかりとノートまとめして復習をし、小テストの準備をすること。(1時間程度)
第17回	生徒の評価に関わる心理学的知見 生徒の評価と生徒指導	教育心理学Ⅱの6ページ～9ページを利用し、しっかりとノートまとめして復習をし、小テストの準備をすること。(1時間程度)
第18回	学級経営に関わる心理学的知見 ① 学級の心理、集団作りとリーダーシップ	教育心理学Ⅱの10ページ～14ページを利用し、しっかりとノートまとめして復習をし、小テストの準備をすること。(1時間程度)
第19回	学級経営に関わる心理学的知見 ② 性格形成や性格理論と生徒理解	教育心理学Ⅱの15ページ～22ページを利用し、しっかりとノートまとめして復習をし、小テストの準備をすること。(1時間程度)
第20回	生徒の心に関わる心理学的知見 ① いじめにみる外的要因・内的要因	教育心理学Ⅱの23ページ～28ページを利用し、しっかりとノートまとめして復習をし、小テストの準備をすること。(1時間程度)
第21回	生徒の心に関わる心理学的知見 ② いじめの具体的事例から学ぶ	いじめに関し、事例を挙げ、具体的な対応方法について発表の準備をしておくこと。(1時間程度)
第22回	生徒の心に関わる心理学的知見 ③ 不登校にみる外的要因・内的要因	教育心理学Ⅱの29ページ～33ページを利用し、しっかりとノートまとめして復習をし、小テストの準備をすること。(1時間程度)
第23回	生徒の心に関わる心理学的知見 ④ 不登校の具体的事例から学ぶ	不登校に関し、事例を挙げ、具体的な対応方法について発表の準備をしておくこと。(1時間程度)
第24回	生徒の心に関わる心理学的知見 ⑤ 非行と学校の荒れにみる外的要因・内的要因	教育心理学Ⅱの34ページ～38ページを利用し、しっかりとノートまとめして復習をし、小テストの準備をすること。(1時間程度)
第25回	生徒の心に関わる心理学的知見 ⑥ 非行と学校の荒れに対する取り組みから学ぶ	非行や学校の荒れに関し、事例を挙げ、具体的な対応方法について、発表の準備をしておくこと。(1時間程度)
第26回	生徒の心に関わる心理学的知見 ⑦ 虐待から学ぶ	教育心理学Ⅱの39ページ～43ページを利用し、しっかりとノートまとめして復習をし、小テストの準備をすること。(1時間程度)
第27回	生徒の心に関わる心理学的知見 ⑧ 生徒のストレスと教師の関わり方	教育心理学Ⅱの44ページ～47ページを利用し、しっかりとノートまとめして復習をし、小テストの準備をすること。(1時間程度)
第28回	生徒の心に関わる心理学的知見 ⑨ 発達障がいの特徴と教師の関わり方	教育心理学Ⅱの48ページ～56ページを利用し、しっかりとノートまとめして復習をし、小テストの準備をすること。(1時間程度)
第29回	生徒の心に関わる心理学的知見 ⑩ 心の病と教師の関わり方	教育心理学Ⅱの57ページ～65ページを利用し、しっかりとノートまとめして復習をし、小テストの準備をすること。(1時間程度)
第30回	生徒の心に関わる心理学的知見 ⑪ カウンセリングと心理療法について学ぶ 定期試験は実施しない。	教育心理学Ⅱの66ページ～72ページを利用し、しっかりとノートまとめして復習をし、小テストの準備をすること。(1時間程度)

科目名	教育心理学			開講年度	2020年度春学期、2020年度秋学期			
担当者	下山 恵子			配当年次	234			
科目ナンバリング	教職課程 TTT0007			単位数	4単位			
				授業形態(方法)	講義			
グレード	—							
科目区分	教職課程科目							
テーマ	幼児、児童及び生徒の発達と学習に関する知識及びその心理的特性を踏まえた教育指導の基盤形成							
授業の目的及び概要	<p>教育に関する、以下の心理学的知見を取り扱う。</p> <p>1) 記憶や学習など認知に関わる心理学的知識を学ぶ。</p> <p>2) 教授の方法や過程に関する研究、学習評価といった学習に関わる心理過程について学ぶ。</p> <p>3) 運動、言語、認知、社会性といった人間の成長発達の理解とその特性について学ぶ。</p> <p>4) 個々の生徒の特性についての理解を深めるために、パーソナリティ心理学的内容を学ぶ。</p> <p>5) 学級経営など集団における人間関係、教師・生徒相互のかかわりについて社会心理学的内容を学ぶ。</p> <p>6) 生徒の心の悩みやカウンセリング、特別支援について臨床心理学的内容を学ぶ。</p>							
履修の条件・注意	教職課程履修登録書提出者							
DPとの関連	<p>本科目は、以下の学位授与の方針(DP)と関連した科目です。</p> <p>経済学部経済学科DP2. 情報活用能力、数的処理能力、日本語及び外国語能力、コミュニケーション能力とともに幅広い教養及び国際感覚を身につけている。</p> <p>法学部法律学科DP4. 論理的な思考力と豊かな表現力とともに幅広い教養および実践感覚を身につけている。</p>							
学修の到達目標	<p>1) 発達と学習の過程の心理的特性を理解し、それらの特性に応じた教育指導の在り方を知る。</p> <p>2) 生徒の発達と学習の過程の特性に応じた教育指導のための基礎となる知識や考え方について理解を深め、個に応じた適切な人間関係形成力をつける。</p> <p>3) 生徒の教育・学習環境への適応を援助する教師の在り方について理解を深める。</p>							
授業の方法	この科目は遠隔授業で行われます。詳細についてはLearning Portalを確認してください。なお、今後の新型コロナウイルスの感染状況等により授業方法が途中で変更となる場合があります。							
フィードバックの方法	適時講評を行う。							
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議							
実務経験のある教員による授業科目								
テキスト・参考書	<p>参考書・参考資料等</p> <p>『中学校学習指導要領』(平成29年3月告示 文部科学省)</p> <p>『高等学校学習指導要領』(平成30年3月告示 文部科学省)</p>							
成績評価の方法・基準	積極的な参加度・取組み(%)	20	小テスト・理解度テストなど(%)	0	レポートなど授業外課題(%)	30	中間試験(%)	0
	レポート試験(%)	0	定期試験(%)	0	その他(%)	50(授業内でのプレゼンテーションの実施)		
この科目の履修にあたって	<p>問題意識を持って、主体的に授業に臨んでください。</p> <p>分からないことがあった時は、必ず、質問してください。</p> <p>小テストの実施、レポート課題などがあります。</p>							
オフィスアワー	<p>各教員のオフィスアワー受付曜日・時間・場所については、本学Webサイトの「オフィスアワー」ページに掲載しています。</p> <p><アクセス方法></p> <p>大学Webサイトの[トップページ]→[キャンパスライフ]→[教務情報]→[オフィスアワー]</p> <p><URL></p> <p>http://www.keiho-u.ac.jp/campuslife/affairs/officehour.html</p> <p>授業の内容や学習上の問題などについて質問や相談を行いたい場合は、実施曜日・時限を確認のうえ実施場所を訪れてください。</p> <p>※なお、非専任講師については、担当授業前、終了後の教室や講師控室等での質問、相談を受け付けています。</p>							

授業回	授業計画	事前事後学修(予習・復習等)
第1回	学校と社会の現状 ① 学校と社会の現状と課題	教育心理学Ⅰの1～2ページを利用し、しっかりとノートまとめをして復習をしておくこと。(1時間程度)
第2回	学校と社会の現状 ② 生徒の生活を取り巻く状況と課題	教育心理学Ⅰの3～6ページを利用し、しっかりとノートまとめをして復習をすること。(1時間程度)
第3回	学校と社会の現状 ③ 教師を取り巻く状況と課題	教育心理学Ⅰの7～11ページを参考にし、教師のあり方について発表の準備をしておくこと。 授業後は、教育心理学Ⅰの7～11ページを利用し、しっかりとノートまとめをして復習をすること。しっかりとノートまとめをして復習をすること。(1時間程度)
第4回	生徒との関わりに関する知識と指導 ① 生徒との人間関係と傾聴	教育心理学Ⅰの12～16ページを利用し、しっかりとノートまとめをして復習をすること。 傾聴のスキルを日常生活でも活かしてみること。(1時間程度)
第5回	生徒との関わりに関する知識と指導 ② 人間関係上の問題とその解決	教育心理学Ⅰの17～19ページを利用し、しっかりとノートまとめをして復習をすること。 課題解決方法について、自身のテーマを実践して報告する準備をしておくこと。(1時間程度)
第6回	生徒との関わりに関する知識と指導 ③ 人間関係上の対立解消法	教育心理学Ⅰの20～23ページを利用し、しっかりとノートまとめをして復習をすること。 身近なところで、対立解消の方法を活かし、報告の準備をすること。(1時間程度)

第7回	発達過程を捉えるための知見 ① 発達過程の諸側面(運動・言語・認知・社会性)	教育心理学Ⅰの24～28ページを利用し、しっかりとノートまとめをして復習をし、小テストの準備をしておくこと。(1時間程度)
第8回	発達過程を捉えるための知見 ② 発達過程に関する諸理論にみる発達概念	教育心理学Ⅰの29～34ページを利用し、しっかりとノートまとめをして復習をし、小テストの準備をしておくこと。(1時間程度)
第9回	発達過程を捉えるための知見 ③ 発達の諸概念と教育における発達理解の意義	教育心理学Ⅰの35～40ページを利用し、しっかりとノートまとめをして復習をし、小テストの準備をしておくこと。(1時間程度)
第10回	学習指導に関わる心理学的知見 ① 学習に関する諸理論	教育心理学Ⅰの41～45ページを利用し、しっかりとノートまとめをして復習をし、小テストの準備をしておくこと。(1時間程度)
第11回	学習指導に関わる心理学的知見 ② 学習理論からみた学習指導の要点	教育心理学Ⅰの46～49ページを利用し、しっかりとノートまとめをして復習をし、小テストの準備をしておくこと。(1時間程度)
第12回	学習指導に関わる心理学的知見 ③ 動機付け・欲求理論と学習意欲	教育心理学Ⅰの50～54ページを利用し、しっかりとノートまとめをして復習をし、小テストの準備をしておくこと。(1時間程度)
第13回	学習指導に関わる心理学的知見 ④ 記憶理論からみた知識の獲得	教育心理学Ⅰの55～58ページを利用し、しっかりとノートまとめをして復習をし、小テストの準備をしておくこと。(1時間程度)
第14回	学習指導に関わる心理学的知見 ⑤ 学習指導と教育学	教育心理学Ⅰの59～61ページを利用し、しっかりとノートまとめをして復習をすること。(1時間程度)
第15回	学習指導に関わる心理学的知見 ⑥ 教育学と授業の実際	教育心理学Ⅰを参考に総復習をしておくこと。(1時間程度)
第16回	学習評価に関わる心理学的知見 さまざまな学習の評価法と評価の要点	教育心理学Ⅱの1ページ～5ページを利用し、しっかりとノートまとめして復習をし、小テストの準備をすること。(1時間程度)
第17回	生徒の評価に関わる心理学的知見 生徒の評価と生徒指導	教育心理学Ⅱの6ページ～9ページを利用し、しっかりとノートまとめして復習をし、小テストの準備をすること。(1時間程度)
第18回	学級経営に関わる心理学的知見 ① 学級の心理、集団作りとリーダーシップ	教育心理学Ⅱの10ページ～14ページを利用し、しっかりとノートまとめして復習をし、小テストの準備をすること。(1時間程度)
第19回	学級経営に関わる心理学的知見 ② 性格形成や性格理論と生徒理解	教育心理学Ⅱの15ページ～22ページを利用し、しっかりとノートまとめして復習をし、小テストの準備をすること。(1時間程度)
第20回	生徒の心に関わる心理学的知見 ① いじめにみる外的要因・内的要因	教育心理学Ⅱの23ページ～28ページを利用し、しっかりとノートまとめして復習をし、小テストの準備をすること。(1時間程度)
第21回	生徒の心に関わる心理学的知見 ② いじめの具体的事例から学ぶ	いじめに関し、事例を挙げ、具体的な対応方法について発表の準備をしておくこと。(1時間程度)
第22回	生徒の心に関わる心理学的知見 ③ 不登校にみる外的要因・内的要因	教育心理学Ⅱの29ページ～33ページを利用し、しっかりとノートまとめして復習をし、小テストの準備をすること。(1時間程度)
第23回	生徒の心に関わる心理学的知見 ④ 不登校の具体的事例から学ぶ	不登校に関し、事例を挙げ、具体的な対応方法について発表の準備をしておくこと。(1時間程度)
第24回	生徒の心に関わる心理学的知見 ⑤ 非行と学校の荒れにみる外的要因・内的要因	教育心理学Ⅱの34ページ～38ページを利用し、しっかりとノートまとめして復習をし、小テストの準備をすること。(1時間程度)
第25回	生徒の心に関わる心理学的知見 ⑥ 非行と学校の荒れに対する取り組みから学ぶ	非行や学校の荒れに関し、事例を挙げ、具体的な対応方法について、発表の準備をしておくこと。(1時間程度)
第26回	生徒の心に関わる心理学的知見 ⑦ 虐待から学ぶ	教育心理学Ⅱの39ページ～43ページを利用し、しっかりとノートまとめして復習をし、小テストの準備をすること。(1時間程度)
第27回	生徒の心に関わる心理学的知見 ⑧ 生徒のストレスと教師の関わり方	教育心理学Ⅱの44ページ～47ページを利用し、しっかりとノートまとめして復習をし、小テストの準備をすること。(1時間程度)
第28回	生徒の心に関わる心理学的知見 ⑨ 発達障がいの特徴と教師の関わり方	教育心理学Ⅱの48ページ～56ページを利用し、しっかりとノートまとめして復習をし、小テストの準備をすること。(1時間程度)
第29回	生徒の心に関わる心理学的知見 ⑩ 心の病と教師の関わり方	教育心理学Ⅱの57ページ～65ページを利用し、しっかりとノートまとめして復習をし、小テストの準備をすること。(1時間程度)
第30回	生徒の心に関わる心理学的知見 ⑪ カウンセリングと心理療法について学ぶ 定期試験は実施しない。	教育心理学Ⅱの66ページ～72ページを利用し、しっかりとノートまとめして復習をし、小テストの準備をすること。(1時間程度)

科目名	特別支援教育概論		開講年度	2020年度春学期				
担当者	三盃 亜美		配当年次	234				
科目ナンバリング	教職課程 TTT0008		単位数	1単位				
			授業形態(方法)	講義				
グレード	—							
科目区分	教職課程科目							
テーマ	特別な支援を要する子どもへの指導や支援の在り方を理解する。							
授業の目的及び概要	様々な障害や、特別の教育的ニーズのある、特別な支援を要する子どもの特性や発達を理解し、一人一人の教育的ニーズを把握した指導や支援の在り方を学ぶ。体験的な学修を通して、特別支援教育に必要な基本的な知識・技能・態度を修得する。							
履修の条件・注意	—							
DPとの関連	本科目は、以下の学位授与の方針(DP)と関連した科目です。 経済学部経済学科DP2.情報活用能力、数的処理能力、日本語及び外国語能力、コミュニケーション能力とともに幅広い教養及び国際感覚を身につけている。 法学部法律学科DP4.論理的な思考力と豊かな表現力とともに幅広い教養および実践感覚を身につけている。							
学修の到達目標	インクルーシブ教育システムを含めた特別支援教育に関する制度の理念や現状の課題を踏まえ、様々な障害や、特別の教育的ニーズのある子どもへの理解をもとに、特別な支援を要する子どもへの指導や支援の在り方を理解する。							
授業の方法	講義とディスカッション							
フィードバックの方法	試験の解答を試験後にお知らせします。							
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議/グループワーク							
実務経験のある教員による授業科目								
テキスト・参考書	『中学校学習指導要領』(平成29年3月告示 文部科学省) 『高等学校学習指導要領』(平成30年3月告示 文部科学省)							
成績評価の方法・基準	積極的な参加度・取組み(%)	10	小テスト・理解度テストなど(%)	0	レポートなど授業外課題(%)	0	中間試験(%)	0
	レポート試験(%)	0	定期試験(%)	90	その他(%)			
この科目の履修にあたって	現在、特別支援教育に関する知識は、どの教員にも求められています。 覚えるべき基礎事項を覚え、その知識を使って柔軟に子どもへの支援を考える力を養ってほしいと思います。							
オフィスアワー	各教員のオフィスアワー受付曜日・時間・場所については、本学Webサイトの「オフィスアワー」ページに掲載しています。 <アクセス方法> 大学Webサイトの[トップページ]→[キャンパスライフ]→[教務情報]→[オフィスアワー] <URL> http://www.keiho-u.ac.jp/campuslife/affairs/officehour.html 授業の内容や学習上の問題などについて質問や相談を行いたい場合は、実施曜日・時間を確認のうえ実施場所を訪れてください。 ※なお、非専任講師については、担当授業前、終了後の教室や講師控室等での質問、相談を受け付けています。							

授業回	授業計画	事前事後学修(予習・復習等)
第1回	第1回: 授業概要障害とは	講義内容を復習しておくこと(4時間程度)
第2回	第2回: 特別支援教育の理念 現状と課題	講義内容を復習しておくこと(4時間程度)
第3回	第3回: 教育課程における特別支援教育 発達障害や軽度知的障害など	講義内容を復習しておくこと(4時間程度)
第4回	第4回: 特別な支援を要する子どもの学習上・生活上の困難 視覚障害・聴覚障害・知的障害・肢体不自由・病弱、母国語や貧困の問題等の特別な教育的ニーズ	講義内容を復習しておくこと(4時間程度)
第5回	第5回: 特別な支援を要する子どもの発達・特性と支援	講義内容を復習しておくこと(4時間程度)
第6回	第6回: 特別支援学級や通級による支援と自立活動	講義内容を復習しておくこと(4時間程度)
第7回	第7回: 通常の学校における特別支援教育 ① 支援と指導計画	講義内容を復習しておくこと(4時間程度)
第8回	第8回: 通常の学校における特別支援教育 ② 連携	講義内容を復習しておくこと(4時間程度)

科目名	教育課程論		開講年度	2020年度秋学期				
担当者	鈴木 清稔		配当年次	234				
科目ナンバリング	教職課程 TTT0009		単位数	2単位				
			授業形態(方法)	講義				
グレード	—							
科目区分	教職課程科目							
テーマ	学校のカリキュラムの意義と編成の方法、マネジメント							
授業の目的及び概要	<p>「確かな学力」と「生きる力」を備えた生徒の育成が求められる学校教育において、教育課程の意義は大きく、その編成は重要な課題である。そこで、この科目では、学校教育の教育課程に関する知識の修得及びその意義、編成の方法についての理解、各学校の実情に合わせたカリキュラム・マネジメントを実施する意義についての理解を、学習指導要領に即して深める。</p> <p>具体的には、今日的な教育課程の在り方について、歴史的視点、教育改革の動向、教育実践との関わりから、アプローチする。授業の内容として、① 種々の教育課程の概念と編成原理、② 学習指導要領の構成・内容、その変遷、③ 実際の授業や学習指導の評価と教育課程のマネジメントを扱う。</p>							
履修の条件・注意	教職課程履修登録書提出者							
DPとの関連	<p>本科目は、以下の学位授与の方針(DP)と関連した科目です。</p> <p>経済学部経済学科DP2.情報活用能力、数的処理能力、日本語及び外国語能力、コミュニケーション能力とともに幅広い教養及び国際感覚を身につけている。</p> <p>法学部法律学科DP4.論理的な思考力と豊かな表現力とともに幅広い教養および実践感覚を身につけている。</p>							
学修の到達目標	<p>1) 学習指導要領に関する知識の修得と理解を深めるとともに、教育課程が果たす役割や機能、意義を理解する。</p> <p>2) 教育課程編成の基本原則と、実際の教育課程編成方法について理解する。</p> <p>3) 教育課程と、実際の授業や学習の評価との関わりについて学び、教科・領域・学年をまたいで教育課程全体のマネジメントにつなげることの意義を理解する。</p>							
授業の方法	この科目は遠隔授業で行われます。詳細についてはLearning Portalを確認してください。なお、今後の新型コロナウイルスの感染状況等により授業方法が途中で変更となる場合があります。							
フィードバックの方法	授業中のコメントに対しては、できるだけ適宜、回答、補足説明などをします。内容によっては、翌週の授業にて行います。							
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議							
実務経験のある教員による授業科目								
テキスト・参考書	<p>テキスト 古川治 他編『改訂新版 教職を目指す人のための教育課程論』(北大路書房、2019年)</p> <p>参考書・参考資料等 『中学校学習指導要領』(平成29年3月告示 文部科学省) 『高等学校学習指導要領』(平成30年3月告示 文部科学省) 『中学校学習指導要領解説 総則編』(文部科学省、平成29年) 『高等学校学習指導要領解説 総則編』(文部科学省、平成30年) 鈴木清稔『教育行政学 講義 増補改訂版—教育の制度とその運営—』(大阪経済法科大学経済法学会、2017年):教育課程・教育内容に関する法制度について(pp.6—9)、「次世代の学校・地域」創生プランおよびアクティブ・ラーニングに関して(pp.88—108)</p>							
成績評価の方法・基準	積極的な参加度・取組み(%)	0	小テスト・理解度テストなど(%)	30	レポートなど授業外課題(%)	0	中間試験(%)	0
	レポート試験(%)	70	定期試験(%)	0	その他(%)			
この科目の履修にあたって	<p>授業は、履修学生が少人数であることを生かして、多くの発問をしながら進めるので、“能動的な”「聞き」と積極的な回答が要求される。</p> <p>また、授業中の資料提示が多いので、授業をサボっておいて、事後に配布プリントとノートを手するだけでは、学修が不十分となるので、この自覚を持って、受講すること。</p> <p>なお、授業に際しては出席を取るが、これは試験が出来なくても出席をすれば単位認定されるということではない。試験問題は、積極的な受講態度と自主的な学修態度がなければ解答困難なものである。</p> <p>また、みだりに欠席や遅刻をしないよう心がけることが大事であるし、授業に大幅に遅れての入室は慎んでもらいたい。</p> <p>出席状況や受講態度がとくによい者については、学期末試験の受験を辞退してもらった場合がある。</p>							
オフィスアワー	<p>各教員のオフィスアワー受付曜日・時間・場所については、本学Webサイトの「オフィスアワー」ページに掲載しています。</p> <p><アクセス方法> 大学Webサイトの[トップページ]→[キャンパスライフ]→[教務情報]→[オフィスアワー] <URL> http://www.keiho-u.ac.jp/campuslife/affairs/officehour.html</p> <p>授業の内容や学習上の問題などについて質問や相談を行いたい場合は、実施曜日・時限を確認のうえ実施場所を訪れてください。</p> <p>※なお、非専任講師については、担当授業前、終了後の教室や講師控室等での質問、相談を受け付けています。</p>							

授業回	授業計画	事前事後学修(予習・復習等)
第1回	教育課程の概念と学校教育における意義と社会的役割	事前: テキスト第1章(2時間程度)、事後: ノートの整理と補足プリントの学習(2時間程度)
第2回	学校教育における教育課程の編成と目的とその役割 学習指導要領	事前: テキスト第4章およびColum1(2時間程度)、事後: ノートの整理と補足プリントの学習(2時間程度)
第3回	種々の教育課程の編成原理とその特質	事前: 補足プリントの予習(2時間程度)、事後: ノートの整理と補足プリントの学習(2時間程度)
第4回	教育課程と学習観・学習指導の関わりや機能	事前: テキスト第2章(2時間程度)、事後: ノートの整理と補足プリントの学習(2時間程度)
第5回	様々なカリキュラムの検討:教科別編成から領域横断的編成まで	事前: テキスト第2章およびColum2、Colum3(2時間程度)、事後: ノートの整理と補足プリント(2時間程度)

第6回	教育課程改革の歩み(1950年代まで)	事前: 補足プリントの予習(2時間程度)、事後: ノートの整理と補足プリントの学習(2時間程度)
第7回	教育改革の歩み(1950年代以降)	事前: 補足プリントの予習(2時間程度)、事後: ノートの整理と補足プリントの学習(2時間程度)
第8回	教育課程と授業・学習指導の形態と方法	事前: 補足プリントの予習(2時間程度)、事後: ノートの整理と補足プリントの学習(2時間程度)
第9回	学習指導要領の変遷 ① 改訂と社会的背景(高度経済成長期まで)	事前: 補足プリントの予習(2時間程度)、事後: ノートの整理と補足プリントの学習(2時間程度)
第10回	学習指導要領の変遷 ② 改訂と社会的背景(学習負担の軽減期)	事前: 補足プリントの予習(2時間程度)、事後: ノートの整理と補足プリントの学習(2時間程度)
第11回	学習指導要領の変遷 ③ 改訂と社会的背景(「生きる力」の育成期)	事前: テキスト第13章(2時間程度)、事後: ノートの整理と補足プリントの学習(2時間程度)
第12回	科目横断的・問題解決的学習の発想「総合的な学習の時間」から学ぶ	事前: テキスト第13章(2時間程度)、事後: ノートの整理と補足プリントの学習(2時間程度)
第13回	新学習指導要領と教育課程 地域・学校の創生と教育課程	事前: テキスト第10章(2時間程度)、事後: ノートの整理と補足プリントの学習(2時間程度)
第14回	新学習指導要領における主体的・対話的で深い学びとその社会背景	事前: テキスト第14章(2時間程度)、事後: ノートの整理と補足プリントの学習(2時間程度)
第15回	学習評価とカリキュラム・マネジメント	事前: テキスト第9章、第11章(2時間程度)、事後: ノートの整理と補足プリントの学習(2時間程度)

科目名	教育課程論		開講年度	2020年度春学期				
担当者	鈴木 清稔		配当年次	234				
科目ナンバリング	教職課程 TTT0009		単位数	2単位				
			授業形態(方法)	講義				
グレード	—							
科目区分	教職課程科目							
テーマ	学校のカリキュラムの意義と編成の方法、マネジメント							
授業の目的及び概要	「確かな学力」と「生きる力」を備えた生徒の育成が求められる学校教育において、教育課程の意義は大きく、その編成は重要な課題である。そこで、この科目では、学校教育の教育課程に関する知識の修得及びその意義、編成の方法についての理解、各学校の実情に合わせたカリキュラム・マネジメントを実施する意義についての理解を、学習指導要領に即して深める。具体的には、今日的な教育課程の在り方について、歴史的視点、教育改革の動向、教育実践との関わりから、アプローチする。授業の内容として、① 種々の教育課程の概念と編成原理、② 学習指導要領の構成・内容、その変遷、③ 実際の授業や学習指導の評価と教育課程のマネジメントを扱う。							
履修の条件・注意	教職課程履修登録書提出者							
DPとの関連	本科目は、以下の学位授与の方針(DP)と関連した科目です。 経済学部経済学科DP2.情報活用能力、数的処理能力、日本語及び外国語能力、コミュニケーション能力とともに幅広い教養及び国際感覚を身につけている。 法学部法律学科DP4.論理的な思考力と豊かな表現力とともに幅広い教養および実践感覚を身につけている。							
学修の到達目標	1) 学習指導要領に関する知識の修得と理解を深めるとともに、教育課程が果たす役割や機能、意義を理解する。 2) 教育課程編成の基本原則と、実際の教育課程編成方法について理解する。 3) 教育課程と、実際の授業や学習の評価との関わりについて学び、教科・領域・学年をまたいで教育課程全体のマネジメントにつなげることの意義を理解する。							
授業の方法	主として、講義形式で授業を進めるが、板書をノートに筆写するだけでは伝達できる知識・情報に限界があるので、プリント配布によって補う。また、受講生が主に高校までに体験してきた教科カリキュラムによる系統学修と対比しながら、そのほかのカリキュラムや学修論について講義を進める。したがって、受講生への発問と受講生の回答による「やり取り」が授業の重要な要素となる。							
フィードバックの方法	授業中のコメントに対しては、できるだけ適宜、回答、補足説明などをします。内容によっては、翌週の授業にて行います。							
アクティブ・ラーニングの取組み								
実務経験のある教員による授業科目								
テキスト・参考書	テキスト 古川治 他編『改訂新版 教職を目指す人のための教育課程論』(北大路書房、2019年) 参考書・参考資料等 『中学校学習指導要領』(平成29年3月告示 文部科学省) 『高等学校学習指導要領』(平成30年3月告示 文部科学省) 『中学校学習指導要領解説 総則編』(文部科学省、平成29年) 『高等学校学習指導要領解説 総則編』(文部科学省、平成30年) 鈴木清稔『教育行政学 講義 増補改訂版—教育の制度とその運営—』(大阪経済法科大学経済法学会、2017年):教育課程・教育内容に関する法制度について(pp.6—9)、「次世代の学校・地域」創生プランおよびアクティブ・ラーニングに関して(pp.88—108)							
成績評価の方法・基準	積極的な参加度・取組み(%)	20	小テスト・理解度テストなど(%)	0	レポートなど授業外課題(%)	0	中間試験(%)	0
	レポート試験(%)	0	定期試験(%)	80	その他(%)			
この科目の履修にあたって	授業は、履修学生が少人数であることを生かして、多くの発問をしながら進めるので、“能動的な”「聞き」と積極的な回答が要求される。また、授業中の資料提示が多いので、授業をサボっておいて、事後に配布プリントとノートを手するだけでは、学修が不十分となるので、この自覚を持って、受講すること。 なお、授業に際しては出席を取るが、これは試験が出来なくても出席をすれば単位認定されるということではない。試験問題は、積極的な受講態度と自主的な学修態度がなければ解答困難なものである。 また、みだりに欠席や遅刻をしないよう心がけることが大事であるし、授業に大幅に遅れての入室は慎んでもらいたい。出席状況や受講態度がとくによい者については、学期末試験の受験を辞退してもらおう場合がある。							
オフィスアワー	各教員のオフィスアワー受付曜日・時間・場所については、本学Webサイトの「オフィスアワー」ページに掲載しています。 <アクセス方法> 大学Webサイトの[トップページ]→[キャンパスライフ]→[教務情報]→[オフィスアワー] <URL> http://www.keiho-u.ac.jp/campuslife/affairs/officehour.html 授業の内容や学習上の問題などについて質問や相談を行いたい場合は、実施曜日・時限を確認のうえ実施場所を訪れてください。 ※なお、非専任講師については、担当授業前、終了後の教室や講師控室等での質問、相談を受け付けています。							

授業回	授業計画	事前事後学修(予習・復習等)
第1回	教育課程の概念と学校教育における意義と社会的役割	事前: テキスト第1章(2時間程度)、事後: ノートの整理と補足プリントの学習(2時間程度)
第2回	学校教育における教育課程の編成と目的とその役割 学習指導要領	事前: テキスト第4章およびColum1(2時間程度)、事後: ノートの整理と補足プリントの学習(2時間程度)
第3回	種々の教育課程の編成原理とその特質	事前: 補足プリントの予習(2時間程度)、事後: ノートの整理と補足プリントの学習(2時間程度)
第4回	教育課程と学習観・学習指導の関わりや機能	事前: テキスト第2章(2時間程度)、事後: ノートの整理と補足プリントの学習(2時間程度)
第5回	様々なカリキュラムの検討:教科別編成から領域横断的編成まで	事前: テキスト第2章およびColum2、Colum3(2時間程度)、事後: ノートの整理と補足プリント(2時間程度)

第6回	教育課程改革の歩み(1950年代まで)	事前: 補足プリントの予習(2時間程度)、事後: ノートの整理と補足プリントの学習(2時間程度)
第7回	教育改革の歩み(1950年代以降)	事前: 補足プリントの予習(2時間程度)、事後: ノートの整理と補足プリントの学習(2時間程度)
第8回	教育課程と授業・学習指導の形態と方法	事前: 補足プリントの予習(2時間程度)、事後: ノートの整理と補足プリントの学習(2時間程度)
第9回	学習指導要領の変遷 ① 改訂と社会的背景(高度経済成長期まで)	事前: 補足プリントの予習(2時間程度)、事後: ノートの整理と補足プリントの学習(2時間程度)
第10回	学習指導要領の変遷 ② 改訂と社会的背景(学習負担の軽減期)	事前: 補足プリントの予習(2時間程度)、事後: ノートの整理と補足プリントの学習(2時間程度)
第11回	学習指導要領の変遷 ③ 改訂と社会的背景(「生きる力」の育成期)	事前: テキスト第13章(2時間程度)、事後: ノートの整理と補足プリントの学習(2時間程度)
第12回	科目横断的・問題解決的学習の発想「総合的な学習の時間」から学ぶ	事前: テキスト第13章(2時間程度)、事後: ノートの整理と補足プリントの学習(2時間程度)
第13回	新学習指導要領と教育課程 地域・学校の創生と教育課程	事前: テキスト第10章(2時間程度)、事後: ノートの整理と補足プリントの学習(2時間程度)
第14回	新学習指導要領における主体的・対話的で深い学びとその社会背景	事前: テキスト第14章(2時間程度)、事後: ノートの整理と補足プリントの学習(2時間程度)
第15回	学習評価とカリキュラム・マネジメント	事前: テキスト第9章、第11章(2時間程度)、事後: ノートの整理と補足プリントの学習(2時間程度)

科目名	道徳理論と指導法		開講年度	2020年度秋学期				
担当者	松岡 靖		配当年次	234				
科目ナンバリング	教職課程 TTT0010		単位数	2単位				
			授業形態(方法)	講義				
グレード	—							
科目区分	教職課程科目							
テーマ	道徳教育の指導案を組み立てよう							
授業の目的及び概要	この科目の目標は、第一に教育基本法や学校教育法に示された方針に基づき、主体的かつ自立した人間として、他者と共生する基盤となる道徳性について、学生が理解を深めることである。第二に道徳の意義や原理を踏まえた上で、中学校における道徳教育の目標と内容を、学生が修得することである。第三に道徳教育が学校の教育活動全体を通じて行われることを理解して、その要となる道徳科の指導方針と指導方法を、学生が修得することである。そのために、具体的には授業序盤は講義を中心とし、中盤で倫理学の視点で指導案を検討・作成し、終盤で学生が模擬授業を実施する。							
履修の条件・注意	教職課程履修登録書提出者							
DPとの関連	本科目は、以下の学位授与の方針(DP)と関連した科目です。 経済学部経済学科DP2.情報活用能力、数的処理能力、日本語及び外国語能力、コミュニケーション能力とともに幅広い教養及び国際感覚を身につけている。 法学部法律学科DP4.論理的な思考力と豊かな表現力とともに幅広い教養および実践感覚を身につけている。							
学修の到達目標	道徳の意義や原理などを踏まえ、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育と、その要となる道徳科の目標・内容・指導計画等を学生が理解し、教材研究・学習指導案の作成・模擬授業の実践などを通じて、学生が実践的な指導力を身につける。							
授業の方法	この科目は対面授業で行われます。なお、今後の新型コロナウイルスの感染状況等により授業方法が途中で変更となる場合があります。							
フィードバックの方法	1. 毎回の授業の最後に学生がコメントを提出し、次の授業の最初に教員がコメントを返す。 2. 模擬授業の学習指導案を学生が作る過程で、教員が改善のためのアドバイスをします。 3. 学生が実施した模擬授業についてレポートを作成し、教員がコメントを付けて返却する。							
アクティブ・ラーニングの取組み	PBL(課題解決型学習)/ディスカッション、ディベート、討議/グループワーク/プレゼンテーション、発表、報告							
実務経験のある教員による授業科目								
テキスト・参考書	テキスト 特に指定しない。 参考書・参考資料等 『中学校学習指導要領』(平成29年3月告示 文部科学省) 『高等学校学習指導要領』(平成30年3月告示 文部科学省) 『中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編』(文部科学省、平成29年) 松下良平『道徳教育はホントに道徳的か?』(日本図書センター、2011年) 広岡義之編著『新しい道徳教育—理論と実践—』(ミネルヴァ書房、2009年) 川本隆史『マイクロ・エシックス—小銭で払う倫理学—』(昭和堂、1993年)							
成績評価の方法・基準	積極的な参加度・取組み(%)	15	小テスト・理解度テストなど(%)	15	レポートなど授業外課題(%)	30	中間試験(%)	0
	レポート試験(%)	0	定期試験(%)	0	その他(%)	全学生が中学校道徳科の模擬授業を実施する。		40
この科目の履修にあたって	1. 参考書と学習指導要領を読めば単位の修得は難しくありません。 2. 履修者が模擬授業の実施に責任をもたないと迷惑になります。 3. 中学校教員免許状の必修科目なので確実に履修してください。							
オフィスアワー	各教員のオフィスアワー受付曜日・時間・場所については、本学Webサイトの「オフィスアワー」ページに掲載しています。 <アクセス方法> 大学Webサイトの[トップページ]→[キャンパスライフ]→[教務情報]→[オフィスアワー] <URL> http://www.keiho-u.ac.jp/campuslife/affairs/officehour.html 授業の内容や学習上の問題などについて質問や相談を行いたい場合は、実施曜日・時限を確認のうえ実施場所を訪れてください。 ※なお、非専任講師については、担当授業前、終了後の教室や講師控室等での質問、相談を受け付けています。							

授業回	授業計画	事前事後学修(予習・復習等)
第1回	オリエンテーション 道徳の本質	中学校学習指導要領の総則を通読すること(4時間程度)。
第2回	道徳教育の歴史と現代社会における課題	参考書『道徳教育はホントに道徳的か?』の第1章を通読すること(4時間程度)。
第3回	指導要領にみる道徳科 ① 学校教育の役割と指導計画	中学校学習指導要領の第2章を通読すること(4時間程度)。
第4回	指導要領にみる道徳科 ② 他教科との関係	中学校学習指導要領解説道徳編を通読すること(4時間程度)。
第5回	道徳科の教材研究 ① 自己との関わり(心の成長と道徳性の発達)	参考書『道徳教育はホントに道徳的か?』の第3章を通読すること(4時間程度)。
第6回	道徳科の教材研究 ② 他者との関わりと課題	参考書『道徳教育はホントに道徳的か?』の第4章を通読すること(4時間程度)。
第7回	道徳科の教材研究 ③ 集団・社会との関わりを踏まえた多様な指導法	参考書『道徳教育はホントに道徳的か?』の第5章を通読すること(4時間程度)。
第8回	道徳科の教材研究 ④ 生命・自然との関わりを活かした授業設計	参考書『道徳教育はホントに道徳的か?』の第6章を通読すること(4時間程度)。

第9回	指導案の作成 ① 資料・ねらい・発問の工夫	中学校道徳科の学習指導案の素材となる資料を探して持ってくること(4時間程度)。
第10回	指導案の作成 ② 導入・展開・終末の工夫、学修評価の在り方	中学校道徳科の学習指導案を導入・展開・終末で組み立ててくること(4時間程度)。
第11回	模擬授業の実践 ① 自己との関わり	中学校道徳科の学習指導案を作成して模擬授業の練習をしてくること(4時間程度)。
第12回	模擬授業の実践 ② 他者との関わり	中学校道徳科の学習指導案を作成して模擬授業の練習をしてくること(4時間程度)。
第13回	模擬授業の実践 ③ 集団・社会との関わり	中学校道徳科の学習指導案を作成して模擬授業の練習をしてくること(4時間程度)。
第14回	模擬授業の実践 ④ 生命・自然との関わり	中学校道徳科の学習指導案を作成して模擬授業の練習をしてくること(4時間程度)。
第15回	まとめ・相互評価・レポート返却・成績説明 定期試験は実施しない。	学生が自らの模擬授業についてレポートを良かった点・悪かった点・改善案で作成すること(4時間程度)。

科目名	道徳理論と指導法			開講年度	2020年度春学期			
担当者	塩見 剛一			配当年次	234			
科目ナンバリング	教職課程 TTT0010			単位数	2単位			
				授業形態(方法)	講義			
グレード	—							
科目区分	教職課程科目							
テーマ	学校教育「特別の教科 道徳」での授業実践について理解し、指導方法の基礎を身につける。							
授業の目的及び概要	本講義では、社会生活を営む人間が不可避免的に遭遇する規範である道徳について、いかに学ばれ、教えられるのかを考察する。学校教育における道徳の指導にかかわる科目であるため、「道徳の時間」および「特別の教科・道徳」を要として、各教育領域でおこなわれる道徳教育の指導方法など、現在の学修指導要領および今後の教科化を見据えた道徳教育の実践について理解することを授業内容の中心に据える。そのうえでさらに道徳そのものである「道徳性」や「倫理」について、哲学的・倫理的な視点からの考察を紹介し、道徳教育の歴史を振り返ることによって道徳、および「道徳を教育すること」に対する多様な考え方に触れる。それを踏まえて、今後の学校教育における道徳教育の変化について考える。							
履修の条件・注意	教職課程履修登録書提出者							
DPとの関連	本科目は、以下の学位授与の方針(DP)と関連した科目です。 経済学部経済学科DP2.情報活用能力、数的処理能力、日本語及び外国語能力、コミュニケーション能力とともに幅広い教養及び国際感覚を身につけている。 法学部法律学科DP4.論理的な思考力と豊かな表現力とともに幅広い教養および実践感覚を身につけている。							
学修の到達目標	学校教育の一領域である「道徳教育」について、現行の学修指導要領に基づく学校道徳教育の基礎的な知識を得たうえで、道徳教育の実践にあたって必要な、指導方法の基本的理解と基礎的な実践力の獲得を授業の到達目標とする。 そのうえで、一元的な道徳理解にとどまらない、多様な道徳観に触れることで自らがこれまで意識することのなかった道徳への問いかけや、道徳に対する自己の面的な思い込みを疑問をもち、道徳観の広がりを得ることを、より高次の到達目標とする。							
授業の方法	講義による知識理解に加えて、適宜グループ活動等による協同的な議論、考察をおこなう。							
フィードバックの方法	フィードバックの方法として、中間試験(小テスト)については、実施した次の授業回に内容にかんする解説をおこなう。また、授業中試験は、個別の質問の申し出に応じて回答する。							
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議/グループワーク							
実務経験のある教員による授業科目								
テキスト・参考書	テキスト:『中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編』教育出版、2018年(授業時に頻回使用のため、テキストは購入が必要) 参考書:広岡義之編『新しい道徳教育』ミネルヴァ書房、2009年(その他参考書の紹介、取り扱いは授業中に説明)							
成績評価の方法・基準	積極的な参加度・取組み(%)	10	小テスト・理解度テストなど(%)	0	レポートなど授業外課題(%)	10	中間試験(%)	0
	レポート試験(%)	0	定期試験(%)	80	その他(%)			
この科目の履修にあたって	小学校・中学校での道徳教育は従来の「道徳の時間」が「特別の教科 道徳」へと変更し、その充実が求められています。それゆえ道徳の授業で用いることのできる「魅力的な教材」となる書物や、授業を豊かにする話題、経験などを今のうちから探しておくといでしょう。一方で「道徳」は、ただ授業実践のためだけの題材ではなく、ひとりの教師、ひいてはひとりの人間としての自らの生き方にかかわります。それゆえ、ただ題材として客観的に捉えるだけでなく、自分にとって「道徳的」であるとはどういうことなのか、日々の暮らしのなかで主観的に省察し、道徳にかかわりながら「生きることを実践していただければ」と考えています。							
オフィスアワー	各教員のオフィスアワー受付曜日・時間・場所については、本学Webサイトの「オフィスアワー」ページに掲載しています。 <アクセス方法> 大学Webサイトの[トップページ]→[キャンパスライフ]→[教務情報]→[オフィスアワー] <URL> http://www.keiho-u.ac.jp/campuslife/affairs/officehour.html 授業の内容や学習上の問題などについて質問や相談を行いたい場合は、実施曜日・時限を確認のうえ実施場所を訪れてください。 ※なお、非専任講師については、担当授業前、終了後の教室や講師控室等での質問、相談を受け付けています。							

授業回	授業計画	事前事後学修(予習・復習等)
第1回	「学校教育における道徳教育とは」と「道徳とは何か、道徳教育とは何か」という二段階で道徳教育を考え、学ぶことについて	事前:『学習指導要領解説 特別の教科 道徳編』を入手し、目次に目を通しておく。(30分) 事後:講義ノートと配布プリントを照会し、ノートをまとめなおす。(90分)
第2回	「改正教育基本法」に即した学習指導要領における道徳教育の役割について	『学習指導要領解説 特別の教科 道徳編』の第1章を事前に読んでおく。(60分) 事後:講義ノートと配布プリントを照会し、ノートをまとめなおす。(90分)
第3回	学制～修身科の位置づけ	前回の授業時に指定した、配布プリントおよびテキストの該当箇所を事前に読んでおく。(60分) 事後:講義ノートと配布プリントを照会し、ノートをまとめなおす。(90分)
第4回	特設道徳～「教科化」をめぐるこれまでの議論	前回の授業時に指定した、配布プリントおよびテキストの該当箇所を事前に読んでおく。(60分) 事後:講義ノートと配布プリントを紹介し、ノートをまとめなおす。(90分)
第5回	エリクソン・ピアジェの理論から道徳性の発達について考える	前回の授業時に指定した、配布プリントおよびテキストの該当箇所を事前に読んでおく。(60分) 事後:講義ノートと配布プリントを照会し、ノートをまとめなおす。(90分)
第6回	道徳性の芽生え、「教育的雰囲気」について	事前:中間試験に向けたこれまでの学習内容の復習(120分)、 前回の授業時に指定した、配布プリントおよびテキストの該当箇所を事前に読んでおく。(60分) 事後:講義ノートと配布プリントを照会し、ノートをまとめなおす。(90分)

第7回	「教育の根本精神」にもとづく道徳教育の基本理念について	事前: 中間試験に向けたこれまでの学習内容の復習(120分)、 前回の授業時に指定した、配布プリントおよびテキストの該当箇所を事前に読んでおく。(60分) 事後に、講義ノートと配布プリントを照会し、ノートをまとめなおす。(90分)
第8回	道徳的価値と4つの視点について 中間試験	事前: 中間試験に向けたこれまでの学習内容の復習(180分)、 前回の授業時に指定した、配布プリントおよびテキストの該当箇所を事前に読んでおく。(30分) 事後: 試験の補充プリントによる学び直し(120分) 講義ノートと配布プリントを照会し、ノートをまとめなおす。(60分)
第9回	内容と指導時期の明確化について	前回の授業時に指定した、配布プリントおよびテキストの該当箇所を事前に読んでおく。(60分) 事後に、講義ノートと配布プリントを照会し、ノートをまとめなおす。(90分) 事後: 指定プリントへの学習内容のまとめなおし(120分) 事後: 第13回目授業時に使用する指導案の作成(60分)
第10回	全面主義と特設主義について	前回の授業時に指定した、配布プリントおよびテキストの該当箇所を事前に読んでおく。(60分) 事後に、講義ノートと配布プリントを照会し、ノートをまとめなおす。(90分) 事後: 指定プリントへの学習内容のまとめなおし(120分) 事後: 第13回目授業時に使用する指導案の作成(60分)
第11回	読み物資料、話し合い、数値化された評価との違いについて	前回の授業時に指定した、配布プリントおよびテキストの該当箇所を事前に読んでおく。(60分) 事後に、講義ノートと配布プリントを照会し、ノートをまとめなおす。(90分) 事後: 指定プリントへの学習内容のまとめなおし(120分) 事後: 第13回目授業時に使用する指導案の作成(60分)
第12回	道徳指導の進め方、指導案の書き方について	前回の授業時に指定した、配布プリントおよびテキストの該当箇所を事前に読んでおく。(60分) 事後に、講義ノートと配布プリントを照会し、ノートをまとめなおす。(90分) 事後: 指定プリントへの学習内容のまとめなおし(90分) 事後: 第13回目授業時に使用する指導案の作成(60分)
第13回	各自の作成した指導案をグループ間で相互に論評する	前回の授業時に指定した、配布プリントおよびテキストの該当箇所を事前に読んでおく。(60分) 事後に、講義ノートと配布プリントを照会し、ノートをまとめなおす。(90分) 事後: 指定プリントへの学習内容のまとめなおし(90分)
第14回	道徳の教科化、世界の価値関係教育について	前回の授業時に指定した、配布プリントおよびテキストの該当箇所を事前に読んでおく。(60分) 事後に、講義ノートと配布プリントを照会し、ノートをまとめなおす。(90分) 事後: 指定プリントへの学習内容のまとめなおし(60分)
第15回	これまでの授業の振り返りと理解度の確認をおこなう。	前回の授業時に指定した、配布プリントおよびテキストの該当箇所を事前に読んでおく。(60分) 事後に、講義ノートと配布プリントを照会し、ノートをまとめなおす。(90分) 事後: 指定プリントへの学習内容のまとめなおし(60分)

科目名	総合的な学習の時間の指導法			開講年度	2020年度秋学期			
担当者	武田 章			配当年次	234			
科目ナンバリング	教職課程 TTT0011			単位数	2単位			
				授業形態(方法)	講義			
グレード	—							
科目区分	教職課程科目							
テーマ	総合的な学習の時間における学習指導の立案と実施							
授業の目的及び概要	中学校高等学校における総合的な学習の時間の実施にあたって、その全体的な計画および年間指導計画、単元計画の立案とその実施、実施後の評価などの在り方について学ぶ。それらに基づいて、実際に総合的な学習の時間の授業を計画立案し、模擬授業を行ったうえで、よりよい授業の在り方について検討する。							
履修の条件・注意	教職課程履修登録書提出者							
DPとの関連	本科目は、以下の学位授与の方針(DP)と関連した科目です。 経済学部経済学科DP2.情報活用能力、数的処理能力、日本語及び外国語能力、コミュニケーション能力とともに幅広い教養及び国際感覚を身につけている。 法学部法律学科DP4.論理的な思考力と豊かな表現力とともに幅広い教養および実践感覚を身につけている。							
学修の到達目標	中学校高等学校における総合的な学習の時間の実施にあたり、さまざまな側面から学習指導の立案と実施に関することがらを学び、グループ討議などを経て実施する模擬授業などを通じて、その充実を図る方法を検討し、実際に教育現場に立って学習を推進していく上で必要な素養を高めることを目標とする。							
授業の方法	この科目は対面授業で行われます。なお、今後の新型コロナウイルスの感染状況等により授業方法が途中で変更となる場合があります。							
フィードバックの方法	毎授業におけ質問感想意見等の収集を行い、次時において必要に応じてそれらに対するコメントを行います。							
アクティブ・ラーニングの取組み	PBL(課題解決型学習)／ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告／PCを用いた実技							
実務経験のある教員による授業科目								
テキスト・参考書	<p>テキスト 田村学『平成29年版 中学校新学習指導要領の展開 総合的な学習編』(明治図書出版、2017)</p> <p>参考図書 『中学校学習指導要領』(平成29年3月告示 文部科学省) 『高等学校学習指導要領』(平成30年3月告示 文部科学省) 『今、求められる力を高める総合的な学習の時間の展開 中学校編』(文部科学省、平成22年) 『今、求められる力を高める総合的な学習の時間の展開 高等学校編』(文部科学省、平成25年)</p> <p>教員による講義の際には配布プリントも使用しながらテキストの参照をすることもあり、授業構想案及び模擬授業案を学生諸君が作成する際の重要な参考図書になりますので、テキストは入手しておいて下さい。 参考図書は、授業構想案及び模擬授業案を学生諸君が作成する際に参考になるものです。</p>							
成績評価の方法・基準	積極的な参加度・取組み(%)	40	小テスト・理解度テストなど(%)	0	レポートなど授業外課題(%)	30	中間試験(%)	0
	レポート試験(%)	0	定期試験(%)	0	その他(%)	模擬授業等		30
この科目の履修にあたって	総合的な学習の時間の具体的な取り組みについては、各学校独自の取り組みも多いため多種多様であり、国語科や社会科などの教科科目等とは異なり、とらえどころの無い部分がひとつの特徴ともいえるかも知れません。それは同時に、多様な学問分野や現代社会のさまざまな側面にまたがる事象を取り扱うことにもなるため、大変刺激的な取り組みになる可能性も秘めていることとなります。ただし、あくまで学校教育の中で行われる授業であるかぎり、一定の学力を生徒に付けることが必要であり、そのためには何をどのような方法で身に付けさせるのかという「教育内容」と「教育方法」の両輪を教員側がしっかりと認識しつつ進めていく必要があります。履修中はそのような観点を忘れることなく、授業構想や模擬授業等にも積極的に取り組んでください。							
オフィスアワー	<p>各教員のオフィスアワー受付曜日・時間・場所については、本学Webサイトの「オフィスアワー」ページに掲載しています。 <アクセス方法> 大学Webサイトの[トップページ]→[キャンパスライフ]→[教務情報]→[オフィスアワー] <URL> http://www.keiho-u.ac.jp/campuslife/affairs/officehour.html</p> <p>授業の内容や学習上の問題などについて質問や相談を行いたい場合は、実施曜日・時限を確認のうえ実施場所を訪れてください。 ※なお、非専任講師については、担当授業前、終了後の教室や講師控室等での質問、相談を受け付けています。</p>							

授業回	授業計画	事前事後学修(予習・復習等)
第1回	総合的な学習の時間を通じて育成を期待する力	教科書該当部分の予習と授業内容の振り返り(約2時間)
第2回	総合的な学習の時間の実施にあたっての校内体制の構築について	教科書該当部分の予習と授業内容の振り返り(約2時間)
第3回	全体計画の立案について	教科書該当部分の予習と授業内容の振り返り(約2時間)
第4回	年間指導計画の立案について	教科書該当部分の予習と授業内容の振り返り(約2時間)
第5回	単元計画の立案について	教科書該当部分の予習と授業内容の振り返り(約2時間)

第6回	総合的な学習の時間の教材研究	教科書該当部分の予習と授業内容の振り返り(約2時間)
第7回	総合的な学習の時間の評価について	教科書該当部分の予習と授業内容の振り返り(約2時間)
第8回	各教科科目との関連性について	教科書該当部分の予習と授業内容の振り返り(約2時間)
第9回	学習指導案の立案①:地域の伝統や文化	教科書該当部分の予習と授業内容の振り返り(約2時間)
第10回	学習指導案の立案②:環境問題	教科書該当部分の予習と授業内容の振り返り(約2時間)
第11回	学習指導案の立案③:職業選択	教科書該当部分の予習と授業内容の振り返り(約2時間)
第12回	学習指導案(地域の伝統や文化)に基づく模擬授業の実施と振り返り	教科書該当部分の予習と授業内容の振り返り(約2時間)
第13回	学習指導案(環境問題)に基づく模擬授業の実施と振り返り	教科書該当部分の予習と授業内容の振り返り(約2時間)
第14回	学習指導案(職業選択)に基づく模擬授業の実施と振り返り	教科書該当部分の予習と授業内容の振り返り(約2時間)
第15回	まとめ:総合的な学習の意義と目標・指導計画の作成法・指導と評価についての再確認	教科書該当部分の予習と授業内容の振り返り(約2時間)

科目名	特別活動論	開講年度	2020年度秋学期					
担当者	橋本 幸一	配当年次	234					
科目ナンバリング	教職課程 TTT0012	単位数	2単位					
		授業形態(方法)	講義					
グレード	—							
科目区分	教職課程科目							
テーマ	特別活動の意義や目標を理解し、指導の在り方について考える。							
授業の目的及び概要	学校教育の基本は、生徒の「自ら課題を見つけ、判断し、行動し、解決する力」と「他人を尊重し、よりよい人間関係を築こうとする力」を育てることである。そこで、学校教育の一領域をなす特別活動について、その意義・目標から内容、指導の在り方や実際について理解する。その際、実践例も紹介するとともに、体験的な学修を通して理解を深め、受講生が身につけるべき基本的な知識、技能態度を修得する。							
履修の条件・注意	教職課程履修登録書提出者							
DPとの関連	本科目は、以下の学位授与の方針(DP)と関連した科目です。 経済学部経済学科DP2.情報活用能力、数的処理能力、日本語及び外国語能力、コミュニケーション能力とともに幅広い教養及び国際感覚を身につけている。 法学部法律学科DP4.論理的な思考力と豊かな表現力とともに幅広い教養および実践感覚を身につけている。							
学修の到達目標	この科目においては、以下の3点を到達目標とする。 1)特別活動の意義・目標・内容について理解する。 2)教育課程における特別活動の位置、他領域との関係を理解し、その内容(学級活動、生徒会活動、学校行事など)の特質を理解する。 3)特別活動の指導の在り方とその評価、改善について理解するとともに、集団における合意形成のための話し合いや、意思決定に向けた集団活動の在り方、さらに家庭、地域などとの関係の在り方を理解する。							
授業の方法	この科目は遠隔授業で行われます。詳細についてはLearning Portalを確認してください。なお、今後の新型コロナウイルスの感染状況等により授業方法が途中で変更となる場合があります。							
フィードバックの方法	コメントシートを翌週の授業で紹介し、質問への回答や補足説明をします。レポートや小テストは、評価をした上で返却します。							
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議							
実務経験のある教員による授業科目								
テキスト・参考書	テキスト 特に指定しない。 参考書・参考資料等 『中学校学習指導要領』(平成29年3月告示 文部科学省) 『高等学校学習指導要領』(平成30年3月告示 文部科学省) 『文部科学省学習指導要領解説 特別活動編』(文部科学省、平成29年)							
成績評価の方法・基準	積極的な参加度・取組み(%)	0	小テスト・理解度テストなど(%)	30	レポートなど授業外課題(%)	30	中間試験(%)	0
	レポート試験(%)	0	定期試験(%)	40	その他(%)			
この科目の履修にあたって	授業内のレポートやふりかえり(考察)などの提出が中心なので、授業に出席することが最重要である。							
オフィスアワー	各教員のオフィスアワー受付曜日・時間・場所については、本学Webサイトの「オフィスアワー」ページに掲載しています。 <アクセス方法> 大学Webサイトの[トップページ]→[キャンパスライフ]→[教務情報]→[オフィスアワー] <URL> http://www.keiho-u.ac.jp/campuslife/affairs/officehour.html 授業の内容や学習上の問題などについて質問や相談を行いたい場合は、実施曜日・時限を確認のうえ実施場所を訪れてください。 ※なお、非専任講師については、担当授業前、終了後の教室や講師控室等での質問、相談を受け付けています。							

授業回	授業計画	事前事後学修(予習・復習等)
第1回	学校教育、教育課程の領域としての特別活動	授業後に、授業で配付した資料を読んでおくこと。(4時間程度)
第2回	特別活動の意義	授業後に、授業で配付した資料を読んでおくこと。(4時間程度)
第3回	教育課程における特別活動	授業後に、授業で配付した資料を読んでおくこと。(4時間程度)
第4回	特別活動の歴史 学習指導要領と特別活動の変遷	授業後に、授業で配付した資料を読んでおくこと。(4時間程度)
第5回	学級活動・ホームルーム活動① 学級担任の役割	授業後に、授業で配付した資料を読んでおくこと。(4時間程度)
第6回	学級活動・ホームルーム活動② 目標と内容	授業後に、授業で配付した資料を読んでおくこと。(4時間程度)
第7回	学級活動・ホームルーム活動③ 学級づくりの実際	授業後に、授業で配付した資料を読んでおくこと。(4時間程度)
第8回	生徒会活動とクラブ活動	授業後に、授業で配付した資料を読んでおくこと。(4時間程度)
第9回	学校行事	授業後に、テキストの指定したページと授業で配付した資料を読んでおくこと。(4時間程度)

第10回	教科・道徳・総合的な学習の時間との関連	授業後に、授業で配付した資料を読んでおくこと。(4時間程度)
第11回	生徒指導・進路指導との関連	授業後に、授業で配付した資料を読んでおくこと。(4時間程度)
第12回	家庭・地域・関係機関との連携	授業後に、授業で配付した資料を読んでおくこと。(4時間程度)
第13回	指導計画の作成と評価	授業後に、授業で配付した資料を読んでおくこと。(4時間程度)
第14回	実践上の危機管理	授業後に、授業で配付した資料を読んでおくこと。(4時間程度)
第15回	特別活動の意義・目標、内容、実際についての総括	授業後に、授業で配付した資料を読んでおくこと。(4時間程度)

科目名	特別活動論			開講年度	2020年度春学期			
担当者	橋本 幸一			配当年次	234			
科目ナンバリング	教職課程 TTT0012			単位数	2単位			
				授業形態(方法)	講義			
グレード	—							
科目区分	教職課程科目							
テーマ	特別活動の意義や目標を理解し、指導の在り方について考える。							
授業の目的及び概要	学校教育の基本は、生徒の「自ら課題を見つけ、判断し、行動し、解決する力」と「他人を尊重し、よりよい人間関係を築こうとする力」を育てることである。そこで、学校教育の一領域をなす特別活動について、その意義・目標から内容、指導の在り方や実際について理解する。その際、実践例も紹介するとともに、体験的な学修を通して理解を深め、受講生が身につけるべき基本的な知識、技能態度を修得する。							
履修の条件・注意	教職課程履修登録書提出者							
DPとの関連	本科目は、以下の学位授与の方針(DP)と関連した科目です。 経済学部経済学科DP2.情報活用能力、数的処理能力、日本語及び外国語能力、コミュニケーション能力とともに幅広い教養及び国際感覚を身につけている。 法学部法律学科DP4.論理的な思考力と豊かな表現力とともに幅広い教養および実践感覚を身につけている。							
学修の到達目標	この科目においては、以下の3点を到達目標とする。 1)特別活動の意義・目標・内容について理解する。 2)教育課程における特別活動の位置、他領域との関係を理解し、その内容(学級活動、生徒会活動、学校行事など)の特質を理解する。 3)特別活動の指導の在り方とその評価、改善について理解するとともに、集団における合意形成のための話し合いや、意思決定に向けた集団活動の在り方、さらに家庭、地域などとの関係の在り方を理解する。							
授業の方法	まず、小・中・高校の各段階に設定されている「特別活動」について、学校の教育活動全体の中での位置づけをしっかりと認識する必要がある。その上で、特別活動の目標や内容、授業構成上の課題、その特質などの理解を図っていく。また、法的側面、他領域との関連性や歴史的変遷等の視点から、講義形式で解説したり、作業活動を取り入れたりして授業を展開していく。その中に、グループ活動、コメントカード(確認テスト)の記入等を、適宜取り入れていくようにする。まとめとして、発表にも取り組んでいく。使用するテキストとして、『中学校学習指導要領解説 特別活動編』『中学校学習指導要領』、『高等学校学習指導要領』をダウンロードして活用する。『高等学校学習指導要領解説 特別活動編』『中学校学習指導要領』、『高等学校学習指導要領』をダウンロードして活用する。現代の教育問題について課題図書も紹介するので、図書の紹介・交流に取り組み、教育活動における読書の意義についても考えていく。							
フィードバックの方法	コメントシートを翌週の授業で紹介し、質問への回答や補足説明をします。レポートや小テストは評価をした上で返却します。							
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議/グループワーク/プレゼンテーション、発表、報告							
実務経験のある教員による授業科目								
テキスト・参考書	テキスト 特に指定しない。 参考書・参考資料等 『中学校学習指導要領』(平成29年3月告示 文部科学省) 『高等学校学習指導要領』(平成30年3月告示 文部科学省) 『文部科学省学習指導要領解説 特別活動編』(文部科学省、平成29年)							
成績評価の方法・基準	積極的な参加度・取組み(%)	0	小テスト・理解度テストなど(%)	0	レポートなど授業外課題(%)	50	中間試験(%)	0
	レポート試験(%)	0	定期試験(%)	50	その他(%)			
この科目の履修にあたって	授業内のレポートやふりかえり(考察)などの提出が中心なので、授業に出席することが最重要である。							
オフィスアワー	各教員のオフィスアワー受付曜日・時間・場所については、本学Webサイトの「オフィスアワー」ページに掲載しています。 <アクセス方法> 大学Webサイトの[トップページ]→[キャンパスライフ]→[教務情報]→[オフィスアワー] <URL> http://www.keiho-u.ac.jp/campuslife/affairs/officehour.html 授業の内容や学習上の問題などについて質問や相談を行いたい場合は、実施曜日・時間を確認のうえ実施場所を訪れてください。 ※なお、非専任講師については、担当授業前、終了後の教室や講師控室等での質問、相談を受け付けています。							

授業回	授業計画	事前事後学修(予習・復習等)
第1回	学校教育、教育課程の領域としての特別活動	授業後に、授業で配付した資料を読んでおくこと。(4時間程度)
第2回	特別活動の意義	授業後に、授業で配付した資料を読んでおくこと。(4時間程度)
第3回	教育課程における特別活動	授業後に、授業で配付した資料を読んでおくこと。(4時間程度)
第4回	特別活動の歴史 学習指導要領と特別活動の変遷	授業後に、授業で配付した資料を読んでおくこと。(4時間程度)
第5回	学級活動・ホームルーム活動 ① 学級担任の役割	授業後に、授業で配付した資料を読んでおくこと。(4時間程度)
第6回	学級活動・ホームルーム活動 ② 目標と内容	授業後に、授業で配付した資料を読んでおくこと。(4時間程度)
第7回	学級活動・ホームルーム活動 ③ 学級づくりの実際	授業後に、授業で配付した資料を読んでおくこと。(4時間程度)

第8回	生徒会活動とクラブ活動	授業後に、授業で配付した資料を読んでおくこと。(4時間程度)
第9回	学校行事	授業後に、テキストの指定したページと授業で配付した資料を読んでおくこと。(4時間程度)
第10回	教科・道徳・総合的な学習の時間との関連	授業後に、授業で配付した資料を読んでおくこと。(4時間程度)
第11回	生徒指導・進路指導との関連	授業後に、授業で配付した資料を読んでおくこと。(4時間程度)
第12回	家庭・地域・関係機関との連携	授業後に、授業で配付した資料を読んでおくこと。(4時間程度)
第13回	指導計画の作成と評価	授業後に、授業で配付した資料を読んでおくこと。(4時間程度)
第14回	実践上の危機管理	授業後に、授業で配付した資料を読んでおくこと。(4時間程度)
第15回	特別活動の意義・目標、内容、実際についての総括	授業後に、授業で配付した資料を読んでおくこと。(4時間程度)

科目名	教育方法論	開講年度	2020年度秋学期					
担当者	西口 利文	配当年次	234					
科目ナンバリング	教職課程 TTT0013	単位数	2単位					
		授業形態(方法)	講義					
グレード	—							
科目区分	教職課程科目							
テーマ	教授＝学習活動の理論的・実践的探究							
授業の目的及び概要	この科目では、教育学の立場から提案されてきた主要な学習指導の理論について概説する。また、各理論を背景に開発され実践されてきた教育方法や技術、情報機器を用いた教育について、受講者が実際に体験したり、受講者同士が意見交換をしたりしながら、授業づくりのあり方を検討する。							
履修の条件・注意	教職課程履修登録書提出者							
DPとの関連	本科目は、以下の学位授与の方針(DP)と関連した科目です。 経済学部経済学科DP2.情報活用能力、数的処理能力、日本語及び外国語能力、コミュニケーション能力とともに幅広い教養及び国際感覚を身につけている。 法学部法律学科DP4.論理的な思考力と豊かな表現力とともに幅広い教養および実践感覚を身につけている。							
学修の到達目標	教育の情報化の動きの中で、教育方法に期待されていることを理論的・実践的に学ぶとともに、子どもたちが教育内容に取り組む際にそれを支援する学習環境の在り方を、事例研究及びカリキュラムデザインの実際を通して学ぶ。 この科目の到達目標は、以下の3点である。 1)教育方法や授業設計・評価に関する基礎的な方法を知っている。 2)教育方法(ICTの活用を含む)に関する基礎的な事項や方法を知っている。 3)指導案の作成や分析を通して、実際の授業設計をする力を培う。							
授業の方法	この科目は遠隔授業で行われます。詳細についてはLearning Portalを確認してください。なお、今後の新型コロナウイルスの感染状況等により授業方法が途中で変更となる場合があります。							
フィードバックの方法	授業の最後に、「ふりかえり」の課題を実施する。提出された「ふりかえり」の課題に、コメントを付けて次の授業時間にフィードバックする。							
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議							
実務経験のある教員による授業科目								
テキスト・参考書	<p>テキスト 西口利文『グループディスカッションのためのコミュニケーション演習』(ナカニシヤ出版、2015年) *テキストと配布資料を併用して授業を進めます。ならびに、テキストに掲載している課題を行います。そのため、テキストは必ず購入してください。</p> <p>参考書・参考資料等 『中学校学習指導要領』(平成29年3月告示 文部科学省) 『高等学校学習指導要領』(平成30年3月告示 文部科学省) 佐藤学『教育の方法(放送大学叢書)』(左右社、2010年) 恒吉宏典・深澤広明編『授業研究－重要用語300の基礎知識』(明治図書、1999年) 溝上慎一『アクティブラーニングと教授学習パラダイムの転換』(東信堂、2014年) 田中耕治編『よくわかる教育評価 第二版』(ミネルヴァ、2010年) *以上の参考書・参考資料等は、授業内容の理解を深める目的で、特に予習や復習の教材として活用してください。</p>							
成績評価の方法・基準	積極的な参加度・取組み(%)	20	小テスト・理解度テストなど(%)	0	レポートなど授業外課題(%)	40	中間試験(%)	0
	レポート試験(%)	0	定期試験(%)	40	その他(%)			
この科目の履修にあたって	テキストを事前にひととおり読んでおくことが望ましい。また、自身が児童生徒の立場であったときに経験した教育方法について、振り返っておいでほしい。							
オフィスアワー	<p>各教員のオフィスアワー受付曜日・時間・場所については、本学Webサイトの「オフィスアワー」ページに掲載しています。 <アクセス方法> 大学Webサイトの[トップページ]→[キャンパスライフ]→[教務情報]→[オフィスアワー] <URL> http://www.keiho-u.ac.jp/campuslife/affairs/officehour.html</p> <p>授業の内容や学習上の問題などについて質問や相談を行いたい場合は、実施曜日・時間を確認のうえ実施場所を訪れてください。 ※なお、非専任講師については、担当授業前、終了後の教室や講師控室等での質問、相談を受け付けています。</p>							

授業回	授業計画	事前事後学修(予習・復習等)
第1回	オリエンテーション及び教育方法の基礎知識	予習:『中学校学習指導要領』『高等学校学習指導要領』のうち、自身が教員免許状の取得を予定している教科の記述内容について概要を理解する。(120分) 復習:『中学校学習指導要領』『高等学校学習指導要領』のうち、自身が教員免許状の取得を予定している教科の記述内容について詳細を理解する。(120分)
第2回	教育方法としての分かりやすい説明及び発問	予習:テキストP32からP36の内容についての概要を理解する。(120分) 復習:授業で配布した資料およびテキストP32からP36の内容について他者に説明できるように理解する。(120分)
第3回	学習指導案、板書計画書の作成	予習:学習指導案、板書計画書がいかなる文書であるかについて、Web等も活用しながら調べておく。(120分) 復習:授業で配布した資料および学習指導案、板書計画書について、他者に説明できるように理解する。(120分)

第4回	学び合いの教育方法 ① 協同学習の理論	予習:テキストP63からP64の内容について概要を理解する。(120分) 復習:授業で配布した資料およびテキストP63からP64の内容について詳細を理解する。(120分)
第5回	学び合いの教育方法 ② 協同学習の考え方に基づく実践を支えるための具体的ないくつかの方法	予習:協同学習の5つの要素(テキストP64)について再度確認し、それを実現するための具体的な授業のしかけについて考えておく。(120分) 復習:協同学習の5つの要素を実現するために自らが考案した具体的な授業のしかけについて他者に説明できるようにする。(120分)
第6回	探究を促す教育方法 ① 仮説実験授業	予習:仮説実験授業とは何かについて調べておく。(120分) 復習:授業で配布した資料について他者に説明できるように理解する。(120分)
第7回	探究を促す教育方法 ② 発見学習の考え方	予習:発見学習とは何かについて調べておく。(120分) 復習:授業で配布した資料をもとに、発見学習と仮説実験授業との関係について他者に説明できるように理解する。(120分)
第8回	文章表現力を高める教育方法 BRD方式の理論と方法	予習:BRD方式とは何かについて理解する。またテキストP37からP44の内容についての概要を理解する。(120分) 復習:授業で配布した資料をもとに、BRD方式について他者に説明できるように理解する。またテキストP37からP44の内容について他者に説明できるように理解する。(120分)
第9回	思考力、判断力、表現力を高める教育方法 ① 思考力、判断力、表現力を育む手法としての、賛否両論図を活用した授業	予習:テキストP65からP68の内容についての概要を理解する。(120分) 復習:授業で配布した資料およびテキストP65からP68の内容について他者に説明できるように理解する。(120分)
第10回	思考力、判断力、表現力を高める教育方法 ② 賛否両論図を活用した授業の特徴	予習:テキストP69からP71の内容についての概要を理解する。(120分) 復習:授業で配布した資料およびテキストP69からP71の内容について他者に説明できるように理解する。(120分)
第11回	情報機器を活用した教育方法 コンピュータ及びWebを効果的に活用した授業の在り方	予習:情報機器やコンピュータ及びWebを効果的に活用した授業の事例について、Webも活用しながら調べておく。(120分) 復習:授業で配布した資料および情報機器やコンピュータ及びWebを効果的に活用した授業の特徴について他者に説明できるようにする。(120分)
第12回	教育方法の検討 ① 動機づけを高める授業づくりの在り方	予習:動機づけを高める授業づくりの事例について調べておく。またテキストP48からP50の内容についての概要を理解する。(120分) 復習:動機づけを高めるために自らが考案した具体的な授業のしかけについて他者に説明できるようにする。(120分)
第13回	教育方法の検討 ② 情報活用能力・情報モラルを高める授業づくりの在り方	予習:情報活用能力・情報モラルを高める授業づくりの事例について調べておく。(120分) 復習:情報活用能力・情報モラルを高めるために自らが考案した具体的な授業のしかけについて他者に説明できるようにする。(120分)
第14回	教育方法の検討 ③ 主体的・対話的で深い学びを支える授業づくりの在り方	予習:学習指導要領を参照しつつ、主体的・対話的で深い学びが何かを理解しておく。その上で、主体的・対話的で深い学びを支える授業づくりの事例について調べておく。(120分) 復習:主体的・対話的で深い学びを支えるために自らが考案した具体的な授業のしかけについて他者に説明できるようにする。(120分)
第15回	教育方法の検討 ④ 創造的思考を高める授業づくりの在り方	予習:創造的思考を高める授業づくりの事例について調べておく。(120分) 復習:創造的思考を高めるために自らが考案した具体的な授業のしかけについて他者に説明できるようにする。(120分)

科目名	教育方法論			開講年度	2020年度春学期			
担当者	北川 剛司			配当年次	234			
科目ナンバリング	教職課程 TTT0013			単位数	2単位			
				授業形態(方法)	講義			
グレード	—							
科目区分	教職課程科目							
テーマ	教授＝学習活動の理論的・実践的探究							
授業の目的及び概要	<p>本授業は、教師の仕事を様々な視点で捉え教育方法に関する基礎的な理解を目指す。とりわけ、教授＝学習活動としての授業に焦点を当て、教育の方法・技術への理解を深める。また、21世紀を生きる子どもたちの教育に携わる教師の専門性について理解を深める。</p> <p>本授業の内容は、教育方法に関する基礎的な事項を中心とするため、教職に就く学生が広く受講し、学んだことをその後の教職課程での学修の中で応用・発展していくことを期待する。</p> <p>講義の前半に授業計画で予定されているテーマと関わって、配布した資料および電子教材を使って、教育方法、授業設計と関わる専門知識を学ぶ。</p> <p>続いて取り上げた話題に関わって、各自が考えるための課題(3回程度)を出し、ワークシートへの記入や指導案作成を求める。提出されたものに関わって、受講者相互に意見交換したり、コメントし返却したり、授業中に取り上げたりしながら講義で話されたテーマに関わっての理解を深める。</p> <p>また、指導案作成の具体を1つ1つ学んでいく活動を行う。繰り返し行う指導案作成の活動を通じて、最終的に、まとめとして授業設計の方法を本人が他人にわかりやすく語る場面を用意する。</p>							
履修の条件・注意	教職課程履修登録書提出者							
DPとの関連	<p>本科目は、以下の学位授与の方針(DP)と関連した科目です。</p> <p>経済学部経済学科DP2.情報活用能力、数的処理能力、日本語及び外国語能力、コミュニケーション能力とともに幅広い教養及び国際感覚を身につけている。</p> <p>法学部法律学科DP4.論理的な思考力と豊かな表現力とともに幅広い教養および実践感覚を身につけている。</p>							
学修の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ○授業を構成する基礎的な項目(アクティブ・ラーニング、発問づくり、教材づくり、学習評価、授業規律、授業形態、情報機器の活用、子ども理解、等)に関する知識を習得する。 ○教育方法としてのアクティブ・ラーニングの理念について概ね説明することができる。 ○学習評価による教育課程改善に関する基本的な事項を理解する。 							
授業の方法	<p>本講義は夏季集中講義の形式で行います。まず講義の前半に授業計画で予定されているテーマと関わって、配布した資料および電子教材を使って、教育方法、授業設計と関わる専門知識を学びます。</p> <p>続いて取り上げた話題に関わって、各自が考えるための課題(3回程度)を出し、ワークシートへの記入や指導案作成が求めます。提出されたものに関わって、受講者相互に意見交換したり、コメントし返却したり、授業中に取り上げたりしながら講義で話されたテーマに関わっての理解を深めます。</p> <p>また、指導案作成の具体を1つ1つ学んでいく活動を行います。繰り返し行う指導案作成の活動を通じて、最終的に、まとめとして授業設計の方法を本人が他人にわかりやすく語る場面が用意します。</p>							
フィードバックの方法	主として各授業の前後の休み時間等を使って、授業への取り組みの様子や達成についてフィードバックを行う予定です。また、必要に応じて、授業中の提出物にコメント記入をし返却を行います。							
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議/グループワーク/プレゼンテーション、発表、報告							
実務経験のある教員による授業科目								
テキスト・参考書	<p>受講者は次のものは必ず購入してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成29年度告示 中学校学習指導要領解説(総則編) <p>授業内容にかかわる参考図書は以下のとおりです。(購入必須ではありません)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・深澤広明、吉田成章『学習集団づくりが描く「学びの地図」(学習集団研究の現在)』溪水社、2018年。 ・佐藤学『教育の方法(放送大学叢書)』左右社、2010年。 ・恒吉宏典・深澤広明編『授業研究-重要用語300の基礎知識(重要用語300基礎知識)』明治図書、1999年。 ・溝上慎一『アクティブラーニングと教授学習パラダイムの転換』東信堂、2014年。 ・田中耕治編『よくわかる教育評価 第二版』ミネルウア、2010年。 <p>このほか、授業中に、適宜、参考図書を紹介し、資料を配布します。</p>							
成績評価の方法・基準	積極的な参加度・取組み(%)	40	小テスト・理解度テストなど(%)	30	レポートなど授業外課題(%)	5	中間試験(%)	0
	レポート試験(%)	0	定期試験(%)	25	その他(%)			
この科目の履修にあたって	「よい授業とはどんなものだろう」と思ったことはありませんか。本授業ではこの問いに受講後に各自が答えられるようになることを目指します。よい授業ができるようになると、子どもにとってよいというだけでなく、教師にとってもやりがいや自信につながります。よい授業についての目指すべき方向をまずは理解することが大切です。よい授業についてのイメージを受講者全員で深めていきましょう。							
オフィスアワー	<p>各教員のオフィスアワー受付曜日・時間・場所については、本学Webサイトの「オフィスアワー」ページに掲載しています。</p> <p><アクセス方法> 大学Webサイトの[トップページ]→[キャンパスライフ]→[教務情報]→[オフィスアワー] <URL> http://www.keiho-u.ac.jp/campuslife/affairs/officehour.html</p> <p>授業の内容や学習上の問題などについて質問や相談を行いたい場合は、実施曜日・時限を確認のうえ実施場所を訪れてください。 ※なお、非専任講師については、担当授業前、終了後の教室や講師控室等での質問、相談を受け付けています。</p>							

授業回	授業計画	事前事後学修(予習・復習等)
第1回	学力論争について理解し、何が問題として指摘されているのかを考える。そして学力を子ども達が身につけていくために何が可能かを教育方法から考える。また学校が社会の求めるもののかかわりでのように変遷してきたか、今何が求められているのかという現在の教育課題を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・事前に平成29年度告示 中学校学習指導要領解説(総則編)pp.1-5を読んでおくようにしてください。(1h) (※事前事後学修欄に記載されている「h」、「m」とはそれぞれ「hour(時間)」、「minutes(分)」の意。以下同じ。)
第2回	教授学のキーワード(アクティブ・ラーニング、発問づくり、教材づくり)を紹介し、それにもとづいて、実際にどのような教育方法が求められるかについて考えます。	<ul style="list-style-type: none"> ・第1回授業中に配布する資料を必ず授業の後読んで復習をしてください。(10m)

第3回	教授学のキーワード(授業規律、授業形態、情報機器の活用)を紹介し、それにもとづいて、実際にどのような教育方法が求められるかについて考えます。	・第2回授業中に配布する資料を必ず授業の後読んで復習をしてください。(10m)
第4回	意図的な教育的働きかけである「授業」をデザインする場合、目標の設定が重要となる。目標は達成可能な目標なのか、方向を指し示す目標なのか、など、授業の目標設定をどのように考えていくのか、その手続きと方法を学ぶ。また目標の達成を確かめ、目標設定自体をいかに評価するのかについてもあわせて考える。指導案作成2(目標の作成)	・第3回授業中に配布する資料を必ず授業の後読んで復習をしてください。(10m)
第5回	授業は、教授活動と学習活動が効果的に機能するときにその成果を生み出す。そのため、ここでは、学習活動を支援するための考え方を、先行する学習理論を通じて学ぶ。	・第4回授業中に配布する資料を必ず授業の後読んで復習をしてください。(10m) ・第5回授業中に配布した新学習指導要領の重要事項に関わる資料を使って復習を行ってください。(1h)
第6回	授業は、子ども達の学習スタイルや認知スタイルによって多様な形態をもつ。子どもの学びに可能な限り即した柔軟な授業方法を考える。	・第5回授業後に配布する資料を必ず授業の後読んで予習をしてください。(1h)
第7回	授業において、教師が語る、子どもが語る、お互いに話し合う場面に着目し、個別指導と集団指導におけるコミュニケーションについて考える。指導案作成3(本時の展開の記入方法)	・第6回授業中に配布する資料を必ず授業の後読んで復習をしてください。(10m)
第8回	子どもにとって学びたいくなる状況を導く教材はどのような設計コンセプトを持つといいのか？ここでは作成方法を学ぶ。	・第7回授業中に配布する資料を必ず授業の後読んで復習をしてください。(10m)
第9回	子ども達の学びを支援するものとして教材教具、学習環境がある。どのような環境が子ども達の効果的な学びを導くのかを探る。	・第8回授業中に配布する資料を必ず授業の後読んで復習をしてください。(10m)
第10回	子ども達の学びをどのように評価するのか？評価に関する基礎を学び、相対評価、絶対評価、個人内評価それぞれの長所と短所を学ぶ。そしてその効果的な連携利用を考える。	・第9回授業中に配布する資料を必ず授業の後読んで復習をしてください。(10m) (特に、前近代、近代、現代の授業論の特徴が分かるように整理しておくこと)
第11回	授業実践の計画書としての指導案について考える。その作成の基礎知識を身につける。単元案と本時案の作成	・第10回授業中に配布する資料を必ず授業の後読んで復習をしてください。(1h)
第12回	課題として出された指導案作成を通して、中学校社会の単元案と1時間の授業をデザインする方法、その実践的な知識を身につける。	・第11回授業中に配布する資料を必ず授業の後読んで復習をしてください。(10m)
第13回	デザインした指導案のそれぞれの課題を互いに検討し合い、実践イメージを深め、確かな指導案作成のポイント、その知識をおさえる。	・第12回授業中に配布する資料を必ず授業の後読んで復習をしてください。(10m)
第14回	課題やある場面に即した指導・対応の仕方をデザインし、互いに検討し合い、実践イメージを深める。	・第13回授業中に配布する資料を必ず授業の後読んで復習をしてください。(10m)
第15回	これまでの講義を振り返る。授業に関する基本的な知識を習得し、理解を深めることができたかどうかを確認する。	・第14回授業中に配布する資料を必ず授業の後読んで復習をしてください。(10m) ・教育課程の近年の定義と指導案の対応について説明できるようにしておくこと(20h) ・教育評価の基本的な考え方としてのパフォーマンス評価、ルーブリックについて説明できるようにしておくこと(20h) ・授業実践における陶冶と訓育の理論について説明できるようにしておくこと(20h)

科目名	生徒指導・進路指導論			開講年度	2020年度秋学期			
担当者	市原 由美子			配当年次	234			
科目ナンバリング	教職課程 TTT0014			単位数	2単位			
				授業形態(方法)	講義			
グレード	—							
科目区分	教職課程科目							
テーマ	生徒の個性尊重と自立をめざす生徒指導・進路指導の研究・展開と教師の指導力							
授業の目的及び概要	<p>生徒指導・進路指導およびキャリア教育について、その意義や基本的な考え方、その実際的なあり方について学習する。</p> <p>1)今日の中学生・高校生の学校内外の生活と学びの実態を知り、それらをどのように捉えるのか、そして、それらの問題点、課題は何かについて理解を深める。</p> <p>2)これらの理解に基づいて、生活指導・進路指導のあり方、方法について理解し、考察する。</p> <p>3)懲戒・体罰など生徒指導に関わる法令について理解するとともに、学級づくり、不登校、いじめ、暴力行為など生徒指導上の課題と対応の基本的な考え方を理解する。</p> <p>4)思春期、青年期における進路選択・決定を、生き方、将来のキャリア形成について考える課題として認識を深め、教育実践につながる力を養う。</p>							
履修の条件・注意	教職課程履修登録書提出者							
DPとの関連	<p>本科目は、以下の学位授与の方針(DP)と関連した科目です。</p> <p>経済学部経済学科DP2.情報活用能力、数的処理能力、日本語及び外国語能力、コミュニケーション能力とともに幅広い教養及び国際感覚を身につけている。</p> <p>法学部法律学科DP4.論理的な思考力と豊かな表現力とともに幅広い教養および実践感覚を身につけている。</p>							
学修の到達目標	<p>生徒指導および進路指導は、生徒の人格を尊重し個性のより良い伸長を図りながら、社会の担い手としての資質や行動力を高めつつ、将来の進路選択と、その後の生活への適応に向けて、キャリア教育の視点も加えて、組織的・継続的に行われる教育活動である。</p> <p>この科目においては、以下の4点を到達目標としている。</p> <p>1)生徒指導、進路指導の意義や原理、教育課程上の位置づけについて理解する。</p> <p>2)学級、学年などの集団指導や個別指導による生徒指導の進め方や進路指導・キャリア教育の考え方と指導のあり方を理解する。</p> <p>3)生徒指導上の課題や教職員、学校外の専門家などとの連携を含めた対応のあり方を理解する。</p> <p>4)生徒が自らの生きる道(=進路)を切り開くための進路指導・キャリア教育の課題とそれに対する指導の考え方とあり方を理解する。</p>							
授業の方法	この科目は遠隔授業で行われます。詳細についてはLearning Portalを確認してください。なお、今後の新型コロナウイルスの感染状況等により授業方法が途中で変更となる場合があります。							
フィードバックの方法	<p>①受講生が提出した「振り返りシート」に対してコメントを書いて返却すると同時に、受講生同士が相互評価や課題点を指摘しあう。</p> <p>②課題に対する意欲や成果を書面だけではなく、面談または受講生全体の中で評価する。</p> <p>③レポートについては添削して返却する。</p>							
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議							
実務経験のある教員による授業科目								
テキスト・参考書	<p>参考書・参考資料等『中学校学習指導要領』(平成29年3月告示 文部科学省)</p> <p>『高等学校学習指導要領』(平成30年3月告示 文部科学省)</p> <p>『生徒指導提要』(文部科学省、平成22年)</p>							
成績評価の方法・基準	積極的な参加度・取組み(%)	30	小テスト・理解度テストなど(%)	10	レポートなど授業外課題(%)	20	中間試験(%)	10
	レポート試験(%)	10	定期試験(%)	20	その他(%)			
この科目の履修にあたって	今日の教育とくに中学校・高校教育、そして中学生・高校生一人ひとりにさまざまな問題・課題がある。また生徒たちの家庭にも課題は多い。さらに生徒たちが生きている社会にも問題や課題は多い。学校教育はそれから離れてはあり得ないし成り立たない。教師自らがこの教育・社会・世界の現在の問題と未来の課題にどうか関わって生きていこうと問われていると言える。生徒指導・進路指導は教科指導とともに教育の原点であることから、指導論の学びを通して力をつけていってほしい。							
オフィスアワー	<p>各教員のオフィスアワー受付曜日・時間・場所については、本学Webサイトの「オフィスアワー」ページに掲載しています。</p> <p><アクセス方法></p> <p>大学Webサイトの[トップページ]→[キャンパスライフ]→[教務情報]→[オフィスアワー]</p> <p><URL></p> <p>http://www.keiho-u.ac.jp/campuslife/affairs/officehour.html</p> <p>授業の内容や学習上の問題などについて質問や相談を行いたい場合は、実施曜日・時限を確認のうえ実施場所を訪れてください。</p> <p>※なお、非専任講師については、担当授業前、終了後の教室や講師控室等での質問、相談を受け付けています。</p>							

授業回	授業計画	事前事後学修(予習・復習等)
第1回	生徒指導・進路指導の意義と原理	<p>事前 自分の受けてきた生徒指導・進路指導を振り返りその問題点を考える</p> <p>事後 本来の生徒指導・進路指導とは何かを理解し、そのあり方を考える。(4時間程度)</p>
第2回	生徒の生活実態・課題の把握と生徒指導	<p>事前 今日の生徒の学校生活・くらしの状況、その意識などを知る。</p> <p>事後 今日の生徒の状況の背景と学校・教職員の課題を考える。(4時間程度)</p>
第3回	生徒の生活実態・課題のとらえ方と生徒指導のあり方、考え方	<p>事前 自身の学校生活を振り返り生徒への集団的な指導と個別指導の大切さを考える。</p> <p>事後 生徒指導における集団的指導と個別指導のあり方を確認し実践的課題を考える。(4時間程度)</p>
第4回	生徒の発達段階と課題 ① 不登校、ひきこもりなどを通して考える	<p>事前 不登校・ひきこもりの現状、生徒の思いや願いを知る。</p> <p>事後 不登校・ひきこもりの生徒への学校・教職員の対応のあり方を確認し、実践的課題を考える。(4時間程度)</p>

第5回	生徒の発達段階と課題 ② 発達障害などを通して考える	事前 発達障害を知る。 事後 発達障害を理解し、教職員の実践的課題を考える。 (4時間程度)
第6回	集団生活と生徒指導 ① いじめ問題を通して考える	事前 いじめ問題の実態と背景を知る。 事後 いじめ問題に対応する教職員の実践的課題を考える。 (4時間程度)
第7回	集団生活と生徒指導 ② 学級づくり、学級のとりくみを通して考える	事前 自身に学級での生活を振り返り学級とは何かを考える。 事後 学級指導の意義・目的・あり方を確認し学級担任の実践的課題を考える。 (4時間程度)
第8回	集団生活と生徒指導 ③ 学年、学校のとりくみを通して考える	事前 自身の生徒会活動・学校行事などを振り返りその問題点や課題を考える。 事後 生徒会活動・学校行事の意義を理解しその指導のあり方について考える。 (4時間程度)
第9回	集団生活と生徒指導 ④ 部活動を通して考える	事前 自身の部活動の経験からその意義を確かめるとともに現状や課題を知る。 事後 部活動の持つ意義を理解し、その現状とこれからのあり方考える。 (4時間程度)
第10回	家庭と生徒指導 家庭の問題と生徒指導について考える	事前 保護者・家庭と教職員の関係の現状を考える。 事後 学校現場での保護者との関係づくりの実践的課題を考える。 (4時間程度)
第11回	教職員集団と生徒指導 教職員集団や教職員のあり方から考える	事前 個々の教職員と学年・学校の教職員集団との連携・共同関係の現状を考える。 事後 現場での教職員相互の共同関係づくりを考える。 (4時間程度)
第12回	進路指導の概念と目標	事前 自分の受けてきた進路指導を振り返り、本来の進路指導とは何かを考える。 事後 本来の進路指導とは何かを確認し教職員の課題を考える。 (4時間程度)
第13回	生徒のキャリア・進路と学習・学力	事前 キャリア教育とは本来何かを知り、人間にとって学習・学力とは何かを考える。 事後 キャリア教育の本来のあり方を確認する。 (4時間程度)
第14回	キャリア教育と進路指導のあり方	事前 本来のキャリア教育・進路指導とは何かを考える。 事後 学校現場でのキャリア教育・進路指導のあり方と実践的課題を考える。 (4時間程度)
第15回	生徒指導、進路指導、キャリア教育の総括	事前 全授業を通して、今日の学校における生徒指導・進路指導のあり方と実践的課題を考える。 事後 「授業の全体のコメント集」(授業終了後送付する)を読み、今日の生徒指導・進路指導の実践的課題を再確認する。 (4時間程度)

科目名	生徒指導・進路指導論		開講年度	2020年度春学期				
担当者	市原 由美子		配当年次	234				
科目ナンバリング	教職課程 TTT0014		単位数	2単位				
			授業形態(方法)	講義				
グレード	—							
科目区分	教職課程科目							
テーマ	生徒の個性尊重と自立をめざす生徒指導・進路指導の研究・展開と教師の指導力							
授業の目的及び概要	<p>生徒指導・進路指導およびキャリア教育について、その意義や基本的な考え方、その実際的なあり方について学習する。</p> <p>1)今日の中学生・高校生の学校内外の生活と学びの実態を知り、それらをどのように捉えるのか、そして、それらの問題点、課題は何かについて理解を深める。</p> <p>2)これらの理解に基づいて、生活指導・進路指導のあり方、方法について理解し、考察する。</p> <p>3)懲戒・体罰など生徒指導に関わる法令について理解するとともに、学級づくり、不登校、いじめ、暴力行為など生徒指導上の課題と対応の基本的な考え方を理解する。</p> <p>4)思春期、青年期における進路選択・決定を、生き方、将来のキャリア形成について考える課題として認識を深め、教育実践につながる力を養う。</p>							
履修の条件・注意	教職課程履修登録書提出者							
DPとの関連	<p>本科目は、以下の学位授与の方針(DP)と関連した科目です。</p> <p>経済学部経済学科DP2.情報活用能力、数的処理能力、日本語及び外国語能力、コミュニケーション能力とともに幅広い教養及び国際感覚を身につけている。</p> <p>法学部法律学科DP4.論理的な思考力と豊かな表現力とともに幅広い教養および実践感覚を身につけている。</p>							
学修の到達目標	<p>生徒指導および進路指導は、生徒の人格を尊重し個性のより良い伸長を図りながら、社会の担い手としての資質や行動力を高めつつ、将来の進路選択と、その後の生活への適応に向けて、キャリア教育の視点も加えて、組織的・継続的に行われる教育活動である。</p> <p>この科目においては、以下の4点を到達目標としている。</p> <p>1)生徒指導・進路指導の意義や原理、教育課程上の位置づけについて理解する。</p> <p>2)学級、学年などの集団指導や個別指導による生徒指導の進め方や進路指導・キャリア教育の考え方と指導のあり方を理解する。</p> <p>3)生徒指導上の課題や教職員、学校外の専門家などとの連携を含めた対応のあり方を理解する。</p> <p>4)生徒が自らの生きる道(=進路)を切り開くための進路指導・キャリア教育の課題とそれに対する指導の考え方とあり方を理解する。</p>							
授業の方法	<p>①受講生が主体的に授業にとりくめるように、毎回の授業テーマに関する受講生(個人またはグループ)からの事前レポート・問題提起を求める。</p> <p>②受講生からのレポート・問題提起に応える資料・論考などを準備し論議・解説を通して深める。</p> <p>③受講生に毎回の授業の学びの「振り返りシート」の提出を求め、次回の授業で紹介する。これを通して相互の学びを確しめ合うとともに、残された課題や問題点を確認する。</p> <p>④テーマ・受講生の人数によりグループ討議なども取り入れる。</p>							
フィードバックの方法	<p>①受講生が提出した「振り返りシート」に対してコメントを書いて返却すると同時に、受講生同士が相互評価や課題点を指摘しあう。</p> <p>②課題に対する意欲や成果を書面だけではなく、面談または受講生全体の中で評価する。</p> <p>③レポートについては添削して返却する。</p>							
アクティブ・ラーニングの取組み	PBL(課題解決型学習)/ディスカッション、ディベート、討議/グループワーク/プレゼンテーション、発表、報告							
実務経験のある教員による授業科目								
テキスト・参考書	<p>参考書・参考資料等『中学校学習指導要領』(平成29年3月告示 文部科学省)</p> <p>『高等学校学習指導要領』(平成30年3月告示 文部科学省)</p> <p>『生徒指導提要』(文部科学省、平成22年)</p>							
成績評価の方法・基準	積極的な参加度・取組み(%)	30	小テスト・理解度テストなど(%)	10	レポートなど授業外課題(%)	20	中間試験(%)	10
	レポート試験(%)	10	定期試験(%)	20	その他(%)			
この科目の履修にあたって	今日の教育とくに中学校・高校教育、そして中学生・高校生一人ひとりにさまざまな問題・課題がある。また生徒たちの家庭にも課題は多い。さらに生徒たちが生きている社会にも問題や課題は多い。学校教育はそれから離れてはあり得ないし成り立たない。教師自らがこの教育・社会・世界の現在の問題と未来の課題にどう関わって生きていくかが問われていると言える。生徒指導・進路指導は教科指導とともに教育の原点であることから、指導論の学びを通して力をつけていってほしい。							
オフィスアワー	<p>各教員のオフィスアワー受付曜日・時間・場所については、本学Webサイトの「オフィスアワー」ページに掲載しています。</p> <p><アクセス方法></p> <p>大学Webサイトの[トップページ]→[キャンパスライフ]→[教務情報]→[オフィスアワー]</p> <p><URL></p> <p>http://www.keiho-u.ac.jp/campuslife/affairs/officehour.html</p> <p>授業の内容や学習上の問題などについて質問や相談を行いたい場合は、実施曜日・時限を確認のうえ実施場所を訪れてください。</p> <p>※なお、非専任講師については、担当授業前、終了後の教室や講師控室等での質問、相談を受け付けています。</p>							

授業回	授業計画	事前事後学修(予習・復習等)
第1回	生徒指導・進路指導の意義と原理	<p>事前 自分の受けてきた生徒指導・進路指導を振り返りその問題点を考える</p> <p>事後 本来の生徒指導・進路指導とは何かを理解し、そのあり方を考える。</p> <p>(4時間程度)</p>
第2回	生徒の生活実態・課題の把握と生徒指導	<p>事前 今日の生徒の学校生活・くらしの状況、その意識などを知る。</p> <p>事後 今日の生徒の状況の背景と学校・教職員の課題を考える。</p> <p>(4時間程度)</p>
第3回	生徒の生活実態・課題のとらえ方と生徒指導のあり方、考え方	<p>事前 自身の学校生活を振り返り生徒への集団的な指導と個別指導の大切さを考える。</p> <p>事後 生徒指導における集団的指導と個別指導のあり方を確認し実践的課題を考える。</p> <p>(4時間程度)</p>

第4回	生徒の発達段階と課題 ① 不登校、ひきこもりなどを通して考える	事前 不登校・ひきこもりの現状、生徒の思いや願いを知る。 事後 不登校・ひきこもりの生徒への学校・教職員の対応のあり方を確認し、実践的課題を考える。 (4時間程度)
第5回	生徒の発達段階と課題 ② 発達障害などを通して考える	事前 発達障害を知る。 事後 発達障害を理解し、教職員の実践的課題を考える。 (4時間程度)
第6回	集団生活と生徒指導 ① いじめ問題を通して考える	事前 いじめ問題の実態と背景を知る。 事後 いじめ問題に対応する教職員の実践的課題を考える。 (4時間程度)
第7回	集団生活と生徒指導 ② 学級づくり、学級のとりくみを通して考える	事前 自身に学級での生活を振り返り学級とは何かを考える。 事後 学級指導の意義・目的・あり方を確認し学級担任の実践的課題を考える。 (4時間程度)
第8回	集団生活と生徒指導 ③ 学年、学校のとりくみを通して考える	事前 自身の生徒会活動・学校行事などを振り返りその問題点や課題を考える。 事後 生徒会活動・学校行事の意義を理解しその指導のあり方について考える。 (4時間程度)
第9回	集団生活と生徒指導 ④ 部活動を通して考える	事前 自身の部活動の経験からその意義を確かめるとともに現状や課題を知る。 事後 部活動の持つ意義を理解し、その現状とこれからのあり方考える。 (4時間程度)
第10回	家庭と生徒指導 家庭の問題と生徒指導について考える	事前 保護者・家庭と教職員の関係の現状を考える。 事後 学校現場での保護者との関係づくりの実践的課題を考える。 (4時間程度)
第11回	教職員集団と生徒指導 教職員集団や教職員のあり方から考える	事前 個々の教職員と学年・学校の教職員集団との連携・共同関係の現状を考える。 事後 現場での教職員相互の共同関係づくりを考える。 (4時間程度)
第12回	進路指導の概念と目標	事前 自分の受けてきた進路指導を振り返り、本来の進路指導とは何かを考える。 事後 本来の進路指導とは何かを確認し教職員の課題を考える。 (4時間程度)
第13回	生徒のキャリア・進路と学習・学力	事前 キャリア教育とは本来何かを知り、人間にとって学習・学力とは何かを考える。 事後 キャリア教育の本来のあり方を確認する。 (4時間程度)
第14回	キャリア教育と進路指導のあり方	事前 本来のキャリア教育・進路指導とは何かを考える。 事後 学校現場でのキャリア教育・進路指導のあり方と実践的課題を考える。 (4時間程度)
第15回	生徒指導、進路指導、キャリア教育の総括	事前 全授業を通して、今日の学校における生徒指導・進路指導のあり方と実践的課題を考える。 事後 「授業の全体のコメント集」(授業終了後送付する)を読み、今日の生徒指導・進路指導の実践的課題を再確認する。 (4時間程度)

科目名	教育相談論			開講年度	2020年度春学期			
担当者	梅川 康治			配当年次	34			
科目ナンバリング	教職課程 TTT0015			単位数	2単位			
				授業形態(方法)	講義			
グレード	—							
科目区分	教職課程科目							
テーマ	カウンセリングの知見を活かした教育相談							
授業の目的及び概要	この科目は、教員免許取得者としての必須の知識を習得するための授業である。 教育相談の基本は、生徒自身の自己理解と他者との適切な関係構築を支援することにある。 この観点を基本として、まず教育相談の現場に必要な課題意識や理論、方法について学習する。具体的には、生徒の発達状況に応じた行動の理解やカウンセリングに関する基礎的知識(意義・理論・技法)などを学習し、さらにこれらの知識を持って教育相談の具体的な事例を取り上げつつ、学び、理解を深める。							
履修の条件・注意	教職課程履修登録書提出者							
DPとの関連	本科目は、以下の学位授与の方針(DP)と関連した科目です。 経済学部経済学科DP2.情報活用能力、数的処理能力、日本語及び外国語能力、コミュニケーション能力とともに幅広い教養及び国際感覚を身につけている。 法学部法律学科DP4.論理的な思考力と豊かな表現力とともに幅広い教養および実践感覚を身につけている。							
学修の到達目標	この科目における、学修の到達目標めやすは以下の4点です。 1. 学校教育における教育相談の意義・役割について理解している。 2. 教育相談に関するさまざまな理論や方法について理解し、その概ねを説明できる。 3. 教育相談がしうるカウンセリングの基礎的知識、技法について理解を深める。 4. 教育相談の実際的な進め方とその要点、学校の組織的な取り組みと専門家などとの連携の必要性を理解している。							
授業の方法	授業は教育相談の実践的特質を考慮して、理論学修に偏らず、特にカウンセリングや心理検査に関しては、事例の紹介のみならず、可能な限り実習的要素(ロールプレイ、アクティブラーニング等)を取り入れておこないます。 ICTの活用としては、Power Pointも活用します。							
フィードバックの方法	毎回の授業終了時に、授業についての理解・質問・意見・感想を記述するミニレポートの課題提出があります。その内容に関して、次の授業時に、補足説明をし、守秘義務を守りつつ回答します。そのことにより、受講者個々の理解促進と受講者全員の共通理解を図ります。							
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議/グループワーク							
実務経験のある教員による授業科目								
テキスト・参考書	配布プリントを使用します。テキストは使用しません。参考書は必要に応じて授業時に紹介します。							
成績評価の方法・基準	積極的な参加度・取組み(%)	50	小テスト・理解度テストなど(%)	0	レポートなど授業外課題(%)	0	中間試験(%)	0
	レポート試験(%)	0	定期試験(%)	50	その他(%)			
この科目の履修にあたって	受講者には、自身の「学校体験」を見つめ直し、生徒の支援に資することのできる教育相談論を構築していただきたい。							
オフィスアワー	各教員のオフィスアワー受付曜日・時間・場所については、本学Webサイトの「オフィスアワー」ページに掲載しています。 <アクセス方法> 大学Webサイトの[トップページ]→[キャンパスライフ]→[教務情報]→[オフィスアワー] <URL> http://www.keiho-u.ac.jp/campuslife/affairs/officehour.html 授業の内容や学習上の問題などについて質問や相談を行いたい場合は、実施曜日・時限を確認のうえ実施場所を訪れてください。 ※なお、非専任講師については、担当授業前、終了後の教室や講師控室等での質問、相談を受け付けています。							

授業回	授業計画	事前事後学修(予習・復習等)
第1回	生徒の問題や不適応行動に関する受講者の認識と関心を高め、その解決に資することの意義や課題、及びカウンセリングマインドについて実践的な見地から解説する。講義ノートを読み返し要点を整理復習しておく。	授業で学修した内容を復習しておく。(2時間程度)
第2回	心理学の基礎理論や概念及び心の問題と不適応行動に関する理論や概念について、最新の知見を取り込みながら具体的な事例の紹介とともに解説する。紹介・配布プリントや文献に目を通し、受講者は自己の関心のあるテーマは何かを明確にしておく。	授業で学修した内容を復習しておく。(2時間程度)
第3回	教育相談における心の問題と不適応行動に関するこれまでの経緯と処遇の変遷も含めて解説し、受講者の学習課題意識を促す。受講者は討議を通して自己の課題意識や疑問点を更に明確にする。	授業で学修した内容を復習しておく。(2時間程度)
第4回	いじめ、不登校、発達障害、虐待、非行等の生徒の心の問題や不適応行動について解説し、生徒の発達段階や課題に応じた生徒の行動に対する的確な判断力や生徒が発信するシグナルをキャッチする力を身につける。また、心理・医療・福祉・法律等の専門家や機関と連携する力を養う。新聞やネットの記事などに普段から注意しておく。	授業で学修した内容を復習しておく。(2時間程度)
第5回	教育相談における査定法としての心理検査の意義と役割について解説する。ノートを読み返し、心理検査の必要性について復習しておく。	授業で学修した内容を復習しておく。(2時間程度)
第6回	教育相談に有用な検査の技法と実際例を紹介し、心理検査の実施法や結果の利用法を学習する。結果に基づき討議をするので、その成果を疑問点も含めて整理し、復習しておくこと。	授業で学修した内容を復習しておく。(2時間程度)

第7回	カウンセリングの主要な理論や方法及びカウンセリングマインドについて事例の紹介とともに解説する。受講者は教育相談の理論と実際について討議をおこなう。受講者は自己の考えや問題意識をまとめておく。	授業で学修した内容を復習しておく。(2時間程度)
第8回	教育相談に必要な技法論の解説と技法訓練の実際例を紹介したあと、カウンセリングの基本技法(受容・傾聴・共感等)をロールプレイングを通して体験学習する。体験学習の要点を記録し整理しておくこと。	授業で学修した内容を復習しておく。(2時間程度)
第9回	カウンセリングの技法(受容・傾聴・共感等)をロールプレイングを通して体験学習及び討議を行い、教育相談における基礎的な技法や態度、特にカウンセリングマインドについての理解を深める。自己の学習内容を整理し記録しておく。	授業で学修した内容を復習しておく。(2時間程度)
第10回	教育相談に必要な物理的・人的条件、教師間及び他の専門家(機関)との連携などチーム学校としての組織的な取り組みについて具体例を紹介し、解説する。講義ノートを読み返し、受講者は教師にとっての連携とは何かを整理しておく。	授業で学修した内容を復習しておく。(2時間程度)
第11回	教育相談における一般的な対応とカウンセリングによる対応の方法論的な特質の違いについて解説し、生徒並びに保護者に対する教育相談の実際的対応(目標の立て方・計画の立て方・進め方等)を考える。受講者自身の小中高における学校体験を明確にしておく。	授業で学修した内容を復習しておく。(2時間程度)
第12回	SCおよびSSWの意義や役割の違い等について正しく理解し、生徒の心のケアと支援のための協力関係を構築する力を養う。小中高でのSCやSSWに対する認識はどうであったかなど、自己の学校体験を明確にして授業に臨むこと。	授業で学修した内容を復習しておく。(2時間程度)
第13回	主要なカウンセリング理論に関する事例研究の紹介を通して、心理・医療・福祉・法律等の専門家やその機関との連携に有用な考え方や視点を提供する。教育相談における具体的な事例を紹介し、意見や感想を含む討議をおこなう。受講者は自分の考えていることを発言できるようにまとめておく。	授業で学修した内容を復習しておく。(2時間程度)
第14回	本授業で学習した内容や体験を踏まえて、生徒の心の問題や不適応行動とその解決について討議する。討議の要点を整理しておく。	授業で学修した内容を復習しておく。(2時間程度)
第15回	本授業で学習した内容や体験を踏まえて、生徒の心の健康とケアに資する教師の役割と意義について討議する。討議の要点を整理しておく。	授業で学修した内容を復習しておく。(2時間程度)

科目名	教育相談論			開講年度	2020年度秋学期			
担当者	梅川 康治			配当年次	34			
科目ナンバリング	教職課程 TTT0015			単位数	2単位			
				授業形態(方法)	講義			
グレード	—							
科目区分	教職課程科目							
テーマ	カウンセリングの知見を活かした教育相談							
授業の目的及び概要	この科目は、教員免許取得者としての必須の知識を習得するための授業である。 教育相談の基本は、生徒自身の自己理解と他者との適切な関係構築を支援することにある。 この観点の基本として、まず教育相談の現場に必要な課題意識や理論、方法について学習する。具体的には、生徒の発達状況に応じた行動の理解やカウンセリングに関する基礎的知識(意義・理論・技法)などを学習し、さらにこれらの知識を持って教育相談の具体的な事例を取り上げつつ、学び、理解を深める。							
履修の条件・注意	教職課程履修登録書提出者							
DPとの関連	本科目は、以下の学位授与の方針(DP)と関連した科目です。 経済学部経済学科DP2.情報活用能力、数的処理能力、日本語及び外国語能力、コミュニケーション能力とともに幅広い教養及び国際感覚を身につけている。 法学部法律学科DP4.論理的な思考力と豊かな表現力とともに幅広い教養および実践感覚を身につけている。							
学修の到達目標	この科目における、学修の到達目標めやすは以下の4点です。 1. 学校教育における教育相談の意義・役割について理解している。 2. 教育相談に関するさまざまな理論や方法について理解し、その概ねを説明できる。 3. 教育相談がしるカウンセリングの基礎的知識、技法について理解を深める。 4. 教育相談の実際的な進め方とその要点、学校の組織的な取り組みと専門家などとの連携の必要性を理解している。							
授業の方法	この科目は遠隔授業で行われます。詳細についてはLearning Portalを確認してください。なお、今後の新型コロナウイルスの感染状況等により授業方法が途中で変更となる場合があります。							
フィードバックの方法	毎回の授業終了時に、授業についての理解・質問・意見・感想を記述するミニレポートの課題提出があります。その内容に関して、次の授業時に、補足説明をし、守秘義務を守りつつ回答します。そのことにより、受講者個々の理解促進と受講者全員の共通理解を図ります。							
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議							
実務経験のある教員による授業科目								
テキスト・参考書	テキストは使用しません。参考書は必要に応じて授業時に紹介します。							
成績評価の方法・基準	積極的な参加度・取組み(%)	50	小テスト・理解度テストなど(%)	0	レポートなど授業外課題(%)	0	中間試験(%)	0
	レポート試験(%)	50	定期試験(%)	0	その他(%)	授業への積極的な参加度取組みは、授業中に課すミニレポート(受講した感想等)の内容で判断する。		
この科目の履修にあたって	受講者には、自身の「学校体験」を見つめ直し、生徒の支援に資することのできる教育相談論を構築していただきたい。							
オフィスアワー	各教員のオフィスアワー受付曜日・時間・場所については、本学Webサイトの「オフィスアワー」ページに掲載しています。 <アクセス方法> 大学Webサイトの[トップページ]→[キャンパスライフ]→[教務情報]→[オフィスアワー] <URL> http://www.keiho-u.ac.jp/campuslife/affairs/officehour.html 授業の内容や学習上の問題などについて質問や相談を行いたい場合は、実施曜日・時限を確認のうえ実施場所を訪れてください。 ※なお、非専任講師については、担当授業前、終了後の教室や講師控室等での質問、相談を受け付けています。							

授業回	授業計画	事前事後学修(予習・復習等)
第1回	生徒の抱える課題や不適応行動に関する受講者の認識と関心を高め、その解決に資することの意義や課題、及び学校教育でのカウンセリングについて実践的な見地から解説する。	授業で学修した内容を復習しておく。(2時間程度)
第2回	心理学の基礎理論や概念及び教育に使えるカウンセリングについて、最新の知見を取り込みながら具体的な事例の紹介とともに解説する。	授業で学修した内容を復習しておく。(2時間程度)
第3回	教育相談における心の問題と不適応行動に関する事例を通して、課題の捉え方や課題解決に必要な視点について解説する。解決に役立つ心理療法等も紹介する。	授業で学修した内容を復習しておく。(2時間程度)
第4回	いじめ、不登校、発達障害、虐待、非行等の生徒の心の問題や不適応行動について概要を解説し、生徒の発達段階や課題に応じた対応を紹介する。また、心理・医療・福祉・法律等の専門家や機関と連携する重要性を解説する。新聞やネットの記事などにも普段から注意しておく。	授業で学修した内容を復習しておく。(2時間程度)
第5回	教育相談における査定法としての心理検査の意義と役割について解説する。自己理解と他者理解について、自己の特性を知って他者と良好な関係を築く方法などを紹介する。	授業で学修した内容を復習しておく。(2時間程度)
第6回	教育相談に有用な検査の技法と実際例を紹介し、心理検査の実施法や結果の利用法を解説する。	授業で学修した内容を復習しておく。(2時間程度)
第7回	教育におけるカウンセリングについて、実際の場面での技法などを具体的に紹介する。また、仮想事例を基に教育相談の進め方を解説する。	授業で学修した内容を復習しておく。(2時間程度)
第8回	人間関係づくりに役立つワークや参考書の紹介をする。教育相談に必要な技法論(受容・傾聴・共感等)の具体的な進め方を事例を通して解説する。	授業で学修した内容を復習しておく。(2時間程度)

第9回	カウンセリングをするにあたり、簡潔に質問するなどの技法のポイントを紹介する。事例を通して教育相談における基礎的な技法や態度の理解を深める。	授業で学修した内容を復習しておく。(2時間程度)
第10回	教育相談に必要な物理的・人的条件、教師間及び他の専門家(機関)との連携などチーム学校としての組織的な取り組みについて具体例を紹介し、解説する。	授業で学修した内容を復習しておく。(2時間程度)
第11回	生徒の保護者との教育相談について、事例を通して解説する。保護者の抱える悩みや役割、家族の抱える問題、保護者との相談のあり方など、具体的な進め方を紹介し解説する。	授業で学修した内容を復習しておく。(2時間程度)
第12回	発達や不登校などの課題を抱える生徒の保護者との相談の中で、陥りがちな問題点を紹介し、連携の方法を解説する。SCおよびSSWの意義や役割の違い等について解説する。	授業で学修した内容を復習しておく。(2時間程度)
第13回	いじめや虐待の事例を通して、教育相談における具体的な対応を紹介し、解説する。	授業で学修した内容を復習しておく。(2時間程度)
第14回	生徒の心の問題や不適応行動などの解決の手段としてピア・サポート活動などのトレーニング内容や取り組みを紹介し、支援の方法を解説する。	授業で学修した内容を復習しておく。(2時間程度)
第15回	本授業で学修したこれまでの内容を整理し、それらを踏まえて生徒の心の健康とケアに資する教師の役割と意義について解説する。	授業で学修した内容を復習しておく。(2時間程度)

科目名	教育実践指導論			開講年度	2020年度春学期			
担当者	原 幸夫			配当年次	34			
科目ナンバリング	教職課程 TTT0016			単位数	2単位			
				授業形態(方法)	講義			
グレード	—							
科目区分	教職課程科目							
テーマ	教育実習を行うためのより実践的な力量形成と教育実習後の振り返り							
授業の目的及び概要	この科目は、3年次の教育実践指導論と一体のものであり、教職関係科目で習得した理論や指導技術を教育実践的な視点から総合した教育実習のための力量形成をはかるものです。特に教育実習ガイダンスにおいては、教育実習の意義と目的、その基本的心構えを理解し、学校経営、教員の服務、校務分掌、学級経営、生活指導の内容を学習します。教育実習のための具体的な準備や実習日誌の記入などの実務についても理解します。教育実習前に、それまでの学修をふまえて自身の教育実習の達成課題を設定し、教育実習終了後は、その体験を丁寧にふり返って総括レポートを作成し、発表・交流によってその成果と課題を整理します。これらの事後学習は教職に対する意欲をさらに高めるとともに、生徒の成長にたいする温かいまなざしと教育者としての使命感を養うことにつながります。この科目の履修にあたっては、生徒の人格形成にかかわる教職の社会的使命をしっかりと自覚して、真摯な姿勢で受講することが求められます。							
履修の条件・注意	教職課程履修登録書提出者で、「教職実践指導論(3年生)」を履修した者。							
DPとの関連	本科目は、以下の学位授与の方針(DP)と関連した科目です。 経済学部経済学科DP2.情報活用能力、数的処理能力、日本語及び外国語能力、コミュニケーション能力とともに幅広い教養及び国際感覚を身につけている。 法学部法律学科DP4.論理的な思考力と豊かな表現力とともに幅広い教養および実践感覚を身につけている。							
学修の到達目標	教育実習とは、教育現場で生徒と直接に接する教育活動を体験し、教員の仕事や学校経営、生徒の実態についての総合的な認識と理解を獲得するとともに、知識・理論・技術と実際の教育活動との相互関係を認識し、自身の実習課題をつかみ実践することです。教育実習を充実したものとするため、本科目の到達目標は以下の3点を設定しています。 ①教育実習の意義と目的を十分に理解し、その責任を自覚したうえで意欲的に教育実習に参加することができる。 ②教育実習における自身の達成課題を設定できる。 ③教育実習体験を多面的な視点から総括し、レポート作成・発表・交流によって成果と今後の課題をあらかじめすることができる。							
授業の方法	直前ガイダンスは講義中心となります。すぐれた教育実践記録も紹介し、教科指導や教材研究、授業方法を実践的に習得することをめざします。受講生は教育実習に向けて各自で達成課題を設定して教育実習に臨み、終了後に総括レポートを作成します。レポートの発表と交流、教員のコメントなどをもとに総括を深めて、各自の成果と今後の課題をあらかじめにします。							
フィードバックの方法	毎回の授業の中で行うディスカッションや総括レポートを基にした発表、討議のなかでコメントしていきます。							
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議/プレゼンテーション、発表、報告							
実務経験のある教員による授業科目								
テキスト・参考書	テキストは特に定めません。毎回、授業プリントを配布します。参考文献としては文部科学省の『中学校学習指導要領』『高等学校学習指導要領』を、そして『教育六法』を活用してください。また随時推薦図書を紹介いたしますから、積極的に読破してください。							
成績評価の方法・基準	積極的な参加度・取組み(%)	50	小テスト・理解度テストなど(%)	0	レポートなど授業外課題(%)	50	中間試験(%)	0
	レポート試験(%)	0	定期試験(%)	0	その他(%)			
この科目の履修にあたって	受講生の皆さんにとって、教職課程のなかで最も努力と集中力を注がねばならないものが教育実習であることは間違いありません。けれども、教育実習は教職課程におけるハイライトといえる経験であるといえます。ほとんどの受講生が春学期の期間にそれぞれの母校で教育実習をおこない、2～3週間後に本学に帰ってきます。みなさん自身は気づかないのですが、みなさんの顔つきが以前と変わったことを伝えます。みなさんは「学ぶ」立場でなく「教える」立場で、「自分の意志で判断して選択し」、「実践と省察」をくり返す体験をとおして「成長」してきます。生徒は全員で「新しい先生」を迎え、実習生はさまざまな場面での生徒の「反応」を感動的に、あるいは憔悴して経験します。こうして人間的ふれあいというかけがえのない貴重な体験が教育実習であり、人生の上でも大きな財産ともなります。有意義な教育実習にするために、事前準備と事後の振り返りを精一杯してほしいと思います。							
オフィスアワー	各教員のオフィスアワー受付曜日・時間・場所については、本学Webサイトの「オフィスアワー」ページに掲載しています。 <アクセス方法> 大学Webサイトの[トップページ]→[キャンパスライフ]→[教務情報]→[オフィスアワー] <URL> http://www.keiho-u.ac.jp/campuslife/affairs/officehour.html 授業の内容や学習上の問題などについて質問や相談を行いたい場合は、実施曜日・時間を確認のうえ実施場所を訪れてください。 ※なお、非専任講師については、担当授業前、終了後の教室や講師控室等での質問、相談を受け付けています。							

授業回	授業計画	事前事後学修(予習・復習等)
第1回	①春学期の授業予定と概要(春学期の3つの区分とその内容) ②教育実習の目的と心構え(4つの目的、準備と心構え、実習校との連絡実務) ③教育実習のイメージ化(自身にとっての教育実習の課題を考える)	授業のレジュメにある先輩の教育実習体験記を読み直して、自身の教育実習の達成課題をまとめる。(4時間程度)
第2回	①学校の長い1日(教員の学校勤務の実際) ②学校経営と校務分掌(組織体としての学校とその実際) ③教職員、生徒との接し方(「教える立場」・指導をうける・学びあう・社会的常識)	学校の日常業務の内容をふりかえり、学校教員の仕事の特徴をまとめる。(4時間程度)
第3回	①実習日誌の記録(書くことの意義、記入項目と記入方法、活用) ②実習期間中の過ごし方 ③レポート課題(教育実習における達成課題を設定する)	教育実習校の指導教諭の先生との接し方や指導・助言をどのように受けとめるのか、再度受講生どうして各自の弱点をおさえながらふり返る。(4時間程度)
第4回	①ホームルーム指導の実務(特別活動、基礎集団としてのホームルーム、ホームルーム活動の目標) ②「クラスづくり」の実践例(読み合わせと分析)	中学校でのクラスづくりの実践記録を読み直し、担任としての気構えとクラスづくりの視点をふりかえる。次回分析する小学校での実践記録から保護者との連携の意味について考察する。(4時間程度)
第5回	①ホームルーム指導の実務(学校行事の目的と意義、進め方、) ②学年担任団の役割(学年集団の指導と連携) ③保護者との連携(信頼と協力) ④課題(次回の学習指導案の目標、ねらいの設定)	配布する教科書本文の資料「南北に引き裂かれる一朝鮮戦争と冷戦一」をもとに、授業プランを構想する。(4時間程度)

第6回	①学習指導案の作成(中学社会・歴史的分野「現代の日本と世界」の単元の指導案作成)	教育実習中に実習授業で使用する教材資料について、どれか1つをとりあげて、どのように活用するかを構想する。(4時間程度)
第7回	①資料(文字・図・映像)の作成と使い方(PCを使用した教材の作成とプロジェクトによる活用)	配布する地形図について地形図のしくみを調べ、その地域の特徴を把握する。(4時間程度)
第8回	①板書の作成・書き方 ②地図の作成、活用方法	教育実習を総括し、文章にまとめる。(4時間程度)
第9回	教育実習の振り返り(受講生による教育実習の報告、受講生の質疑応答・討議)	教育実習を総括し、文章にまとめる。発表後は、討議内容をふまえて書き直す。(4時間程度)
第10回	教育実習の振り返り(受講生による教育実習の報告、受講生の質疑応答・討議)	教育実習を総括し、文章にまとめる。発表後は、討議内容をふまえて書き直す。(4時間程度)
第11回	教育実習の振り返り(受講生による教育実習の報告、受講生の質疑応答・討議)	教育実習を総括し、文章にまとめる。発表後は、討議内容をふまえて書き直す。(4時間程度)
第12回	教育実習の振り返り(受講生による教育実習の報告、受講生の質疑応答・討議)	教育実習を総括し、文章にまとめる。発表後は、討議内容をふまえて書き直す。(4時間程度)
第13回	教育実習の振り返り(受講生による教育実習の報告、受講生の質疑応答・討議)	教育実習を総括し、文章にまとめる。発表後は、討議内容をふまえて書き直す。(4時間程度)
第14回	教育実習の振り返り(受講生による教育実習の報告、受講生の質疑応答・討議)	教育実習を総括し、文章にまとめる。発表後は、討議内容をふまえて書き直す。(4時間程度)
第15回	①教育実習の成果と課題 ②教育実習をどう生かすか	秋学期の「教職実践演習」にむけて自身の課題を明確にする。(4時間程度)

科目名	教育実践指導論			開講年度	2020年度秋学期			
担当者	原 幸夫			配当年次	34			
科目ナンバリング	教職課程 TTT0016			単位数	2単位			
				授業形態(方法)	講義			
グレード	—							
科目区分	教職課程科目							
テーマ	教育実習を行うためのより実践的な力量形成と教育実習後の振り返り							
授業の目的及び概要	この科目は、3年次の教育実践指導論と一体のものであり、教職関係科目で習得した理論や指導技術を教育実践的な視点から総合した教育実習のための力量形成をはかるものです。特に教育実習ガイダンスにおいては、教育実習の意義と目的、その基本的心構えを理解し、学校経営、教員の服務、校務分掌、学級経営、生活指導の内容を学習します。教育実習のための具体的な準備や実習日誌の記入などの実務についても理解します。教育実習前に、それまでの学修をふまえて自身の教育実習の達成課題を設定し、教育実習終了後は、その体験を丁寧に戻り総括レポートを作成し、発表・交流によってその成果と課題を整理します。これらの事後学習は教職に対する意欲をさらに高めるとともに、生徒の成長にたいする温かいまなざしと教育者としての使命感を養うことにつながります。この科目の履修にあたっては、生徒の人格形成にかかわる教職の社会的使命をしっかりと自覚して、真摯な姿勢で受講することが求められます。							
履修の条件・注意	教職課程履修登録書提出者で、「教職実践指導論(3年生)」を履修した者。							
DPとの関連	本科目は、以下の学位授与の方針(DP)と関連した科目です。 経済学部経済学科DP2.情報活用能力、数的処理能力、日本語及び外国語能力、コミュニケーション能力とともに幅広い教養及び国際感覚を身につけている。 法学部法律学科DP4.論理的な思考力と豊かな表現力とともに幅広い教養および実践感覚を身につけている。							
学修の到達目標	教育実習とは、教育現場で生徒と直接に接する教育活動を体験し、教員の仕事や学校経営、生徒の実態についての総合的な認識と理解を獲得するとともに、知識・理論・技術と実際の教育活動との相互関係を認識し、自身の実習課題をつかみ実践することです。教育実習を充実したものとするため、本科目の到達目標は以下の3点を設定しています。 ①教育実習の意義と目的を十分に理解し、その責任を自覚したうえで意欲的に教育実習に参加することができる。 ②教育実習における自身の達成課題を設定できる。 ③教育実習体験を多面的な視点から総括し、レポート作成・発表・交流によって成果と今後の課題をあきらかにすることができる。							
授業の方法	この科目は対面授業で行われます。なお、今後の新型コロナウイルスの感染状況等により授業方法が途中で変更となる場合があります。							
フィードバックの方法	毎回の授業の中で行うディスカッションや総括レポートを基にした発表、討議のなかでコメントしていきます。							
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議/プレゼンテーション、発表、報告							
実務経験のある教員による授業科目								
テキスト・参考書	テキストは特に定めません。毎回、授業プリントを配布します。参考文献としては文部科学省の『中学校学習指導要領』『高等学校学習指導要領』を、そして『教育六法』を活用してください。また随時推薦図書を紹介いたしますから、積極的に読破してください。							
成績評価の方法・基準	積極的な参加度・取り組み(%)	50	小テスト・理解度テストなど(%)	0	レポートなど授業外課題(%)	50	中間試験(%)	0
	レポート試験(%)	0	定期試験(%)	0	その他(%)			
この科目の履修にあたって	受講生の皆さんにとって、教職課程のなかで最も労力と集中力を注がねばならないものが教育実習であることは間違いありません。けれども、教育実習は教職課程におけるハイライトといえる経験であるといえます。ほとんどの受講生が春学期の期間にそれぞれの母校で教育実習をおこない、2～3週間後に本学に帰ってきます。みなさん自身は気づかないのですが、みなさんの顔つきが以前と変わったことを伝えます。みなさんは「学ぶ」立場でなく「教える」立場で、「自分の意志で判断して選択し」、「実践と省察」をくり返す体験をとおして「成長」していきます。生徒は全員で「新しい先生」を迎え、実習生はさまざまな場面の生徒の「反応」を感動的に、あるいは憔悴して経験します。こうして人間的ふれあいというかけがえのない貴重な体験が教育実習であり、人生の上でも大きな財産ともなります。有意義な教育実習にするために、事前準備と事後の振り返りを精一杯してほしいと思います。							
オフィスアワー	各教員のオフィスアワー受付曜日・時間・場所については、本学Webサイトの「オフィスアワー」ページに掲載しています。 <アクセス方法> 大学Webサイトの[トップページ]→[キャンパスライフ]→[教務情報]→[オフィスアワー] <URL> http://www.keiho-u.ac.jp/campuslife/affairs/officehour.html 授業の内容や学習上の問題などについて質問や相談を行いたい場合は、実施曜日・時間を確認のうえ実施場所を訪れてください。 ※なお、非専任講師については、担当授業前、終了後の教室や講師控室等での質問、相談を受け付けています。							

授業回	授業計画	事前事後学修(予習・復習等)
第1回	①春学期の授業予定と概要(春学期の3つの区分とその内容) ②教育実習の目的と心構え(4つの目的、準備と心構え、実習校との連絡実務) ③教育実習のイメージ化(自身にとっての教育実習の課題を考える)	授業のレジュメにある先輩の教育実習体験記を読み直して、自身の教育実習の達成課題をまとめる。(4時間程度)
第2回	①学校の長い1日(教員の学校勤務の実際) ②学校経営と校務分掌(組織体としての学校とその実際) ③教職員、生徒との接し方(「教える立場」・指導をうける・学びあう・社会的常識)	学校の日常業務の内容をふりかえり、学校教員の仕事の特徴をまとめる。(4時間程度)
第3回	①実習日誌の記録(書くことの意義、記入項目と記入方法、活用) ②実習期間中の過ごし方 ③レポート課題(教育実習における達成課題を設定する)	教育実習校の指導教諭の先生との接し方や指導・助言をどのように受けとめるのか、再度受講生どうして各自の弱点をおさえながらふり返る。(4時間程度)
第4回	①ホームルーム指導の実務(特別活動、基礎集団としてのホームルーム、ホームルーム活動の目標) ②「クラスづくり」の実践例(読み合わせと分析)	中学校でのクラスづくりの実践記録を読み直し、担任としての気構えとクラスづくりの視点をふりかえる。次回分析する小学校での実践記録から保護者との連携の意味について考察する。(4時間程度)
第5回	①ホームルーム指導の実務(学校行事の目的と意義、進め方、) ②学年担任団の役割(学年集団の指導と連携) ③保護者との連携(信頼と協力) ④課題(次回の学習指導案の目標、ねらいの設定)	配布する教科書本文の資料「南北に引き裂かれる一朝鮮戦争と冷戦一」をもとに、授業プランを構想する。(4時間程度)

第6回	①学習指導案の作成(中学社会・歴史的分野「現代の日本と世界」の単元の指導案作成)	教育実習中に実習授業で使用する教材資料について、どれか1つをとりあげて、どのように活用するかを構想する。(4時間程度)
第7回	①資料(文字・図・映像)の作成と使い方(PCを使用した教材の作成とプロジェクトによる活用)	配布する地形図について地形図のしくみを調べ、その地域の特徴を把握する。(4時間程度)
第8回	①板書の作成・書き方 ②地図の作成、活用方法	教育実習を総括し、文章にまとめる。(4時間程度)
第9回	教育実習の振り返り(受講生による教育実習の報告、受講生の質疑応答・討議)	教育実習を総括し、文章にまとめる。発表後は、討議内容をふまえて書き直す。(4時間程度)
第10回	教育実習の振り返り(受講生による教育実習の報告、受講生の質疑応答・討議)	教育実習を総括し、文章にまとめる。発表後は、討議内容をふまえて書き直す。(4時間程度)
第11回	教育実習の振り返り(受講生による教育実習の報告、受講生の質疑応答・討議)	教育実習を総括し、文章にまとめる。発表後は、討議内容をふまえて書き直す。(4時間程度)
第12回	教育実習の振り返り(受講生による教育実習の報告、受講生の質疑応答・討議)	教育実習を総括し、文章にまとめる。発表後は、討議内容をふまえて書き直す。(4時間程度)
第13回	教育実習の振り返り(受講生による教育実習の報告、受講生の質疑応答・討議)	教育実習を総括し、文章にまとめる。発表後は、討議内容をふまえて書き直す。(4時間程度)
第14回	教育実習の振り返り(受講生による教育実習の報告、受講生の質疑応答・討議)	教育実習を総括し、文章にまとめる。発表後は、討議内容をふまえて書き直す。(4時間程度)
第15回	①教育実習の成果と課題 ②教育実習をどう生かすか	秋学期の「教職実践演習」にむけて自身の課題を明確にする。(4時間程度)

科目名	教育実習 I			開講年度	2020年度春学期			
担当者	原 幸夫			配当年次	4			
科目ナンバリング	教職課程 TTT0017			単位数	2単位			
				授業形態(方法)	実習			
グレード	—							
科目区分	教職課程科目							
テーマ	教育現場の実体験の中から学ぶ							
授業の目的及び概要	<p>高等学校の教員免許取得のために、中学・高等学校の教育現場において、実際に生徒に触れつつ、生徒理解の必要性を実感するとともに、教員の仕事や教育現場の「実際」を体験的に理解することを、目的とする。</p> <p>教育実習のプロセスとしては、実習校において、授業をはじめとした教育活動の「観察」とそれらへの「参加」の段階を経て、指導案の作成とそれに基づく授業を行うことで、授業や生徒指導などについて実体験していく。</p>							
履修の条件・注意	<ul style="list-style-type: none"> ・教職課程履修登録書提出者で、教職課程における諸科目の単位取得を経て、教育実践指導論(3年秋学期)の履修を経て、教育実践指導論(4年春学期)を履修中であること。 ・教職課程の科目のうち教育原理、教育心理学、教科教育法のうち最低一科目の単位取得が、教育実習参加に必須である。 ・教育実習を行う学校の「内諾」を得た者。 ・教員免許取得のための単位取得が順調で在り、当該年度において教員免許取得が見込める者 							
DPとの関連	<p>本科目は、以下の学位授与の方針(DP)と関連した科目です。</p> <p>経済学部経済学科DP2.情報活用能力、数的処理能力、日本語及び外国語能力、コミュニケーション能力とともに幅広い教養及び国際感覚を身につけている。</p> <p>法学部法律学科DP4.論理的な思考力と豊かな表現力とともに幅広い教養および実践感覚を身につけている。</p>							
学修の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> ①教育実習を行うことで、授業や生徒指導などの実際を体験し、教育者に求められる資質を確認する。 ②教育実習以前の教職課程において学修した知識・技能を実際の教育現場で活用し、教育実践に必要な知識・技能・態度を現実的に即して習得する。 ③教育実習を通じて、教職生活を体験することで、教職への意欲と使命感を自覚し、教員への志望を再確認するとともに、教員として成長すべき方向性や課題を発見・確認する。 							
授業の方法	<p>教育現場において、様々な教育活動の「観察」、「参加」、「実習」の段階を経て、教育実習を行う。</p> <p>授業については、教材研究、指導案の作成を経て、授業を行う。</p> <p>なお、実習中は、指導教員から日々の指導・助言と実習日誌へのコメントが行われるので、それらを真摯かつ積極的に受け止めて実習に臨むこと。</p>							
フィードバックの方法	日々の教育実習中の指導・助言、さらに日々作成する教育実習日誌へのコメント、指導案作成にあたっての指導・助言を通して行う。							
アクティブ・ラーニングの取組み	プレゼンテーション、発表、報告／実習、フィールドワーク、学外見学							
実務経験のある教員による授業科目								
テキスト・参考書	<p>テキストは、特に定めない。適宜、紹介する。</p> <p>参考書：『中学校学習指導要領』、『高等学校学習指導要領』およびその『解説』、その他、授業実践に使用する文献・資料</p>							
成績評価の方法・基準	積極的な参加度・取組み(%)	50	小テスト・理解度テストなど(%)	0	レポートなど授業外課題(%)	50	中間試験(%)	0
	レポート試験(%)	0	定期試験(%)	0	その他(%)			
この科目の履修にあたって	<ul style="list-style-type: none"> ・「内諾」取得に関するガイダンス、さらに教育実習のためのガイダンスには、そのつど出席すること ・教育現場での生徒や教員との関わりを通して、実体験の中でこれまで学修したことを活用し、現実に即した理解と学修を目指してほしい。 ・実習校の指導にしたがい、真剣に取り組むこと。実習中は、現場教員と同様の社会的責任が求められるので、教育実習生には、この社会的責任を自覚した言動と社会常識を踏まえた行動が要求される。 したがって、教員として不適格であると見なされた場合、教育実習の打ち切りや教育実習の評価が受けられないことがある。日頃の、本学教職員の指導やガイダンスを踏まえつつ、実習校の教職員の指導の下、真摯な態度で臨むことが必要である。 ・教育者にふさわしい話し方、服装、態度を心がけること。 							
オフィスアワー	<p>各教員のオフィスアワー受付曜日・時間・場所については、本学Webサイトの「オフィスアワー」ページに掲載しています。</p> <p><アクセス方法> 大学Webサイトの[トップページ]→[キャンパスライフ]→[教務情報]→[オフィスアワー] <URL> http://www.keiho-u.ac.jp/campuslife/affairs/officehour.html</p> <p>授業の内容や学習上の問題などについて質問や相談を行いたい場合は、実施曜日・時間を確認のうえ実施場所を訪れてください。 ※なお、非専任講師については、担当授業前、終了後の教室や講師控室等での質問、相談を受け付けています。</p>							

授業回	授業計画	事前事後学修(予習・復習等)
第1回	実習校でのガイダンス 教育実習の意義と、実習生の持つべき心構えを踏まえ、実習校の組織や教育活動の概要を知る。	予習:実習校のことについてHPなどで確認する。(2時間) 復習:ガイダンスの内容を整理し教育実習に備える。(2時間)
第2回	実習校の教育活動の「観察」 実習校における生徒との接し方、服装、言葉遣いなど実習生にふさわしい行動について理解する。	予習:参観する授業とクラスについて予習する。(2時間) 復習:参観した授業とクラスについて復習する。(2時間)
第3回	実習校の「学年」の「在りよう」の観察 実習校各学年の生徒の学校生活を観察する。	予習:参観する授業とクラスについて予習する。(2時間) 復習:参観した授業とクラスについて復習する。(2時間)
第4回	実習校の「学級」の「在りよう」の観察 実習校担当学級の生徒の学校生活を観察する。	予習:参観する授業とクラスについて予習する。(2時間) 復習:参観した授業とクラスについて復習する。(2時間)
第5回	実習校の授業の観察 指導教員の学習指導の進め方を参観し、学習指導上の工夫と生徒の反応について学ぶ	予習:参観する授業とクラスについて予習する。(2時間) 復習:参観した授業とクラスについて復習する。(2時間)

第6回	授業の在り方の学習 教材研究の方法、授業の構築について、授業の参観と「参加」から学び、学習指導案作成の参考とする。	予習:参加する授業内容について予習する。(2時間) 復習:授業に備えて教材研究を行う。(2時間)
第7回	授業の「参加」と教材研究 指導教員の授業に「参加」しつつ、授業のための教材研究を行う。	予習:参加する授業内容について予習する。(2時間) 復習:授業に備えて教材研究を行う。(2時間)
第8回	授業の「参加」と学習指導案作成 指導教員の授業に「参加」しつつ、学習指導案を作成する。	予習:参加する授業内容について予習する。(2時間) 復習:授業に備えて教材研究を行う。(2時間)
第9回	教材研究と学習指導案作成 実習生が授業実習を行うための教材研究をさらに進めつつ、学習指導案作成について指導を受ける。	予習:参加する授業内容について予習する。(2時間) 復習:授業に備えて教材研究を行う。(2時間)
第10回	学習指導案作成と授業の準備 指導に基づいて、学習指導案作成を続けるとともに、授業を行うための準備をする。	予習:指導教諭の指導に従い指導案を作成する。(2時間) 復習:指導教諭の指導に従い指導案を作成する。(2時間)
第11回	授業の準備と予行練習 教材研究の内容をより深めるとともに、学習指導案をより練り上げ、授業の予行を行う。	予習:指導教諭の指導に従い指導案を作成する。(2時間) 復習:指導教諭の指導に従い指導案を作成する。(2時間)
第12回	学習指導案と授業計画の確定 学習指導案を完成左折とともに、授業の進め方に習熟する。	予習:指導教諭の指導に従い指導案を作成する。(2時間) 復習:学習指導案に従い授業の進め方を構想する。(2時間)
第13回	授業実習 実際に、実習生のみで1時間の授業を行う。	予習:指導教諭の指導に従い指導案を作成する。(2時間) 復習:指導教諭の指導を踏まえて研究授業に備える。(2時間)
第14回	研究授業 指導教員やその他の教員、実習生の参観のもとに授業を行う。	予習:指導教諭の指導に従い指導案を作成する。(2時間) 復習:指導教諭の指導を踏まえて、研究授業の反省点まとめる。(2時間)
第15回	研究授業の振り返り 指導教員やその他の教員、実習生などの参加の下に、研究授業の振り返りを行う。	指導教諭やその他の教員らのコメントを踏まえて、研究授業の改善点をまとめる。(4時間)

科目名	教育実習Ⅱ			開講年度	2020年度春学期			
担当者	原 幸夫			配当年次	4			
科目ナンバリング	教職課程 TTT0018			単位数	2単位			
				授業形態(方法)	実習			
グレード	—							
科目区分	教職課程科目							
テーマ	教育現場の実体験から学ぶ							
授業の目的及び概要	<p>中学校の教員免許取得のために、中学・高等学校の教育現場において、実際に生徒に触れつつ、生徒理解の必要性を実感するとともに、教員の仕事や教育現場の「実際」を体験的に理解することを、目的とする。</p> <p>教育実習のプロセスとしては、実習校において、授業をはじめとした教育活動の「観察」とそれらへの「参加」の段階を経て、指導案の作成とそれに基づく授業を行うことで、授業や生徒指導などについて実体験していく。</p>							
履修の条件・注意	<ul style="list-style-type: none"> ・教職課程履修登録書提出者で、教職課程における諸科目の単位取得を経て、教育実践指導論(3年秋学期)の履修を経て、教育実践指導論(4年春学期)を履修中であること。 ・教職課程の科目のうち教育原理、教育心理学、教科教育法のうち最低一科目の単位取得が、教育実習参加に必須である。 ・教育実習を行う学校の「内諾」を得た者。 ・教員免許取得のための単位取得が順調で在り、当該年度において教員免許取得が見込める者 							
DPとの関連	<p>本科目は、以下の学位授与の方針(DP)と関連した科目です。</p> <p>経済学部経済学科DP2.情報活用能力、数的処理能力、日本語及び外国語能力、コミュニケーション能力とともに幅広い教養及び国際感覚を身につけている。</p> <p>法学部法律学科DP4.論理的な思考力と豊かな表現力とともに幅広い教養および実践感覚を身につけている。</p>							
学修の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> ①教育実習を行うことで、授業や生徒指導などの実際を体験し、教育者に求められる資質を確認する。 ②教育実習以前の教職課程において学修した知識・技能を実際の教育現場で活用し、教育実践に必要な知識・技能・態度を現実的に習得する。 ③教育実習を通じて、教職生活を体験することで、教職への意欲と使命感を自覚し、教員への志望を再確認するとともに、教員として成長すべき方向性や課題を発見・確認する。 							
授業の方法	<p>教育現場において、様々な教育活動の「観察」、「参加」、「実習」の段階を経て、教育実習を行う。</p> <p>授業については、教材研究、指導案の作成を経て、授業を行う。</p> <p>なお、実習中、指導教員から日々の指導・助言と実習日誌へのコメントが行われるので、それらを真摯かつ積極的に受け止めて実習に望むこと。</p>							
フィードバックの方法	日々の教育実習中の指導・助言、さらに日々作成する教育実習日誌へのコメント、指導案作成にあたっての指導・助言を通して行う。							
アクティブ・ラーニングの取組み	プレゼンテーション、発表、報告／実習、フィールドワーク、学外見学							
実務経験のある教員による授業科目								
テキスト・参考書	<p>テキストは、特に定めない。適宜、紹介する。</p> <p>参考書：『中学校学習指導要領』、『高等学校学習指導要領』およびその『解説』、その他、授業実践に使用する文献・資料</p>							
成績評価の方法・基準	積極的な参加度・取組み(%)	50	小テスト・理解度テストなど(%)	0	レポートなど授業外課題(%)	50	中間試験(%)	0
	レポート試験(%)	0	定期試験(%)	0	その他(%)			
この科目の履修にあたって	<ul style="list-style-type: none"> ・「内諾」取得に関するガイダンス、さらに教育実習のためのガイダンスには、そのつど出席すること ・教育現場での生徒や教員との関わりを通して、実体験の中でこれまで学修したことを活用し、現実に即した理解と学修を目指してほしい。 ・実習校の指導にしたがい、真剣に取り組むこと。実習中は、現場教員と同様の社会的責任が求められるので、教育実習生には、この社会的責任を自覚した言動と社会常識を踏まえた行動が要求される。 したがって、教員として不適格であると見なされた場合、教育実習の打ち切りや教育実習の評価が受けられないことがある。日頃の、本学教職員の指導やガイダンスを踏まえつつ、実習校の教職員の指導の下、真摯な態度で臨むことが必要である。 ・教育者にふさわしい話し方、服装、態度を心がけること。 							
オフィスアワー	<p>各教員のオフィスアワー受付曜日・時間・場所については、本学Webサイトの「オフィスアワー」ページに掲載しています。</p> <p><アクセス方法> 大学Webサイトの[トップページ]→[キャンパスライフ]→[教務情報]→[オフィスアワー] <URL> http://www.keiho-u.ac.jp/campuslife/affairs/officehour.html</p> <p>授業の内容や学習上の問題などについて質問や相談を行いたい場合は、実施曜日・時間を確認のうえ実施場所を訪れてください。 ※なお、非専任講師については、担当授業前、終了後の教室や講師控室等での質問、相談を受け付けています。</p>							

授業回	授業計画	事前事後学修(予習・復習等)
第1回	実習校でのガイダンス 教育実習の意義と、実習生の持つべき心構えを踏まえ、実習校の組織や教育活動の概要を知る。	予習:実習校のことについてHPなどで確認する。(2時間) 復習:ガイダンスの内容を整理し教育実習に備える。(2時間)
第2回	実習校の教育活動の「観察」 実習校における生徒との接し方、服装、言葉遣いなど実習生にふさわしい行動について理解する。	予習:参観する授業とクラスについて予習する。(2時間) 復習:参観した授業とクラスについて復習する。(2時間)
第3回	実習校の「学年」の「在りよう」の観察 実習校各学年の生徒の学校生活を観察する。	予習:参観する授業とクラスについて予習する。(2時間) 復習:参観した授業とクラスについて復習する。(2時間)
第4回	実習校の「学級」の「在りよう」の観察 実習校担当学級の生徒の学校生活を観察する。	予習:参観する授業とクラスについて予習する。(2時間) 復習:参観した授業とクラスについて復習する。(2時間)
第5回	実習校の授業の観察 指導教員の学習指導の進め方を参観し、学習指導上の工夫と生徒の反応について学ぶ。	予習:参観する授業とクラスについて予習する。(2時間) 復習:参観した授業とクラスについて復習する。(2時間)

第6回	授業の在り方の学習 教材研究の方法、授業の構築について、授業の参観と「参加」から学び、学習指導案作成の参考とする。	予習:参加する授業内容について予習する。(2時間) 復習:授業に備えて教材研究を行う。(2時間)
第7回	授業の「参加」と教材研究 指導教員の授業に「参加」しつつ、授業のための教材研究を行う。	予習:参加する授業内容について予習する。(2時間) 復習:授業に備えて教材研究を行う。(2時間)
第8回	授業の「参加」と学習指導案作成 指導教員の授業に「参加」しつつ、学習指導案を作成する。	予習:参加する授業内容について予習する。(2時間) 復習:授業に備えて教材研究を行う。(2時間)
第9回	教材研究と学習指導案作成 実習生が授業実習を行うための教材研究をさらに進めつつ、学習指導案作成について指導を受ける。	予習:参加する授業内容について予習する。(2時間) 復習:授業に備えて教材研究を行う。(2時間)
第10回	学習指導案作成と授業の準備 指導に基づいて、学習指導案作成を続けるとともに、授業を行うための準備をする。	予習:指導教諭の指導に従い指導案を作成する。(2時間) 復習:指導教諭の指導に従い指導案を作成する。(2時間)
第11回	授業の準備と予行練習 教材研究の内容をより深めるとともに、学習指導案をより練り上げ、授業の予行を行う。	予習:指導教諭の指導に従い指導案を作成する。(2時間) 復習:指導教諭の指導に従い指導案を作成する。(2時間)
第12回	学習指導案と授業計画の確定 学習指導案を完成左折とともに、授業の進め方に習熟する。	予習:指導教諭の指導に従い指導案を作成する。(2時間) 復習:学習指導案に従い授業の進め方を構想する。(2時間)
第13回	授業実習 実際に、実習生のみで1時間の授業を行う。	予習:指導教諭の指導に従い指導案を作成する。(2時間) 復習:指導教諭の指導を踏まえて研究授業に備える。(2時間)
第14回	研究授業 指導教員やその他の教員、実習生の参観のもとに授業を行う。	予習:指導教諭の指導に従い指導案を作成する。(2時間) 復習:指導教諭の指導を踏まえて、研究授業の反省点まとめる。(2時間)
第15回	研究授業の振り返り 指導教員やその他の教員、実習生などの参加の下に、研究授業の振り返りを行う。	指導教諭やその他の教員らのコメントを踏まえて、研究授業の改善点をまとめる。(4時間)

科目名	教職実践演習		開講年度	2020年度秋学期				
担当者	鈴木 清稔、前田 晴人		配当年次	4				
科目ナンバリング	教職課程 TTT0019		単位数	2単位				
			授業形態(方法)	演習				
グレード	—							
科目区分	教職課程科目							
テーマ	教職課程の学修と教師としての資質を磨く。							
授業の目的及び概要	この科目の目的は、教職課程における学修の総仕上げを行うことを目的としている。より具体的には、「教職に関する科目」や「教科に関する科目」の履修、教育実習を経て、それまで学修したこと振り返りや各自の今後の課題・目指すべき方向などの明確化を行う。その際、講義や演習(報告、発表、討論)、ロールプレイなどの様々な形態を組み合わせ教育現場を意識した課題を取り扱う。前半部分(第1回～第8回)では、本演習以前に経験した教育実習などの体験の振り返りと自己の課題の発見など<自己の経験>と、講義や講演から得た知識とを融合させつつ、レポート作成や報告、討論を行う。後半部分(第9回～第14回)においては、教育実習の経験を踏まえて教科の知識と授業実践の結合を図り、教材研究と模擬授業などを行う。							
履修の条件・注意	教職課程の各授業科目の単位取得、さらに教育実践指導論および教育実習を終えた者が、教職課程の学修の総仕上げとして履修する。							
DPとの関連	本科目は、以下の学位授与の方針(DP)と関連した科目です。 経済学部経済学科DP2.情報活用能力、数的処理能力、日本語及び外国語能力、コミュニケーション能力とともに幅広い教養及び国際感覚を身につけている。 法学部法律学科DP4.論理的な思考力と豊かな表現力とともに幅広い教養および実践感覚を身につけている。							
学修の到達目標	大学で学んだ知識と、教育実習などを通じて得られた経験知との結合を図り、「使命感や責任感に裏打ちされた実践的指導力を持った教員」となっていくための基礎となる、最低限の資質が形成されたことを確認する。 そうした資質形成の確認を、以下の3点を目安として行う。 ①教師としての使命感、責任感、教育的愛情 ②教師としての社会性、対人関係の能力 ③教科の指導力や生徒理解の力など							
授業の方法	この科目は対面授業で行われます。なお、今後の新型コロナウイルスの感染状況等により授業方法が途中で変更となる場合があります。							
フィードバックの方法	演習前半部分に課したレポート課題については、後半の演習期間にコメントや論評を行う。							
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議/グループワーク/プレゼンテーション、発表、報告							
実務経験のある教員による授業科目								
テキスト・参考書	テキストは定めない。 参考書は、中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領の他、指導要領の解説など。							
成績評価の方法・基準	積極的な参加度・取組み(%)	50	小テスト・理解度テストなど(%)	0	レポートなど授業外課題(%)	0	中間試験(%)	0
	レポート試験(%)	50	定期試験(%)	0	その他(%)			
この科目の履修にあたって	教職課程として最後の仕上げとなる科目であるので、この科目の履修の過程で、本学として教員免許状を取得するにふさわしいか、否かの判断が行われるとよい。この点を、履修者は念頭に置いて履修して欲しい。							
オフィスアワー	各教員のオフィスアワー受付曜日・時間・場所については、本学Webサイトの「オフィスアワー」ページに掲載しています。 <アクセス方法> 大学Webサイトの[トップページ]→[キャンパスライフ]→[教務情報]→[オフィスアワー] <URL> http://www.keiho-u.ac.jp/campuslife/affairs/officehour.html 授業の内容や学習上の問題などについて質問や相談を行いたい場合は、実施曜日・時限を確認のうえ実施場所を訪れてください。 ※なお、非専任講師については、担当授業前、終了後の教室や講師控室等での質問、相談を受け付けています。							

授業回	授業計画	事前事後学修(予習・復習等)
第1回	教育実習や学校ボランティア、学校インターンシップなどの体験の総括と振り返りを通じて、自己課題の発見(鈴木) 「ふり振り返り」と自己課題についてレポートして次回までにまとめる。	事前: 「事前レポート」の作成(4時間)
第2回	第1回以来の総括と自己課題のレポートに基づいて報告と討論(鈴木) 本演習における今後の自己目標の設定	事後: 「事前レポート」の完成(4時間)
第3回	聖職論、労働者論、専門職論などの教師論を概観しつつ、教職の意義と役割について考察し、自己の教師像形成の糧とする。(鈴木)	事後: 演習内容をふまえて、「レポート」の作成(4時間)
第4回	「私の考える「教師の仕事」としてレポート作成(鈴木) (第5回目までに完成させ、持参する)	事後: 「レポート」の完成(4時間)
第5回	前回に作成したレポートに基づく報告と討論(鈴木)	事後: 演習参加者からのコメントと討論の整理と振り返り(4時間)
第6回	ゲスト・スピーカーによる講演(鈴木) 学級経営や保護者対応の現状と課題について講演と質疑応答	事前: 学校の保護者対応に関する下調べ(2時間)、事後: 配付プリントの学習(2時間)
第7回	前回の講演を踏まえて具体的な事例研究と討論、ロールプレイ(ゲスト・スピーカーの参加)(鈴木)	事後: 演習内容の整理と振り返り(4時間)
第8回	ゲスト・スピーカーによる講演(鈴木) 学校現場における特別支援教育に関する講演と質疑	事前: 特別支援教育に関する下調べ(2時間)、事後: 配付プリントの学習(2時間)

第9回	教員免許の「地理歴史」分野の知識確認テスト(前田)	事前: 「確認テスト」の準備学習(2時間)、 事後: 自己の学習課題の確認(2時間)
第10回	教員免許の「公民」分野の知識確認テスト(前田)	事前: 「確認テスト」の準備学習(2時間)、 事後: 自己の学習課題の確認(2時間)
第11回	教材研究と授業設計と模擬授業(地理歴史分野)(前田)	事前: 教育実習での指導を踏まえての教材研究と指導案の準備(2時間)、 事後: 自己の課題の確認(2時間)
第12回	教材研究と授業設計と模擬授業(公民分野)(前田)	事前: 教育実習での指導を踏まえての教材研究と指導案の準備(2時間)、 事後: 自己の課題の確認(2時間)
第13回	教材研究と授業設計と模擬授業(中学社会分野)(前田)	事前: 教育実習での指導を踏まえての教材研究と指導案の準備(2時間)、 事後: 自己の課題の確認(2時間)
第14回	全3回を踏まえての、教科指導力に関する総括と振り返り(前田)	事後: 本演習を踏まえての教材研究と指導案の修正および自己の課題の確認(4時間)
第15回	教職実践演習を通して確認された、教職として求められる資質の振り返りと自らの課題の確認(鈴木)	事後: 本演習を踏まえての自己の課題の確認と「総まとめレポート」の作成(4時間)